

葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会次第

日時：令和８年８月１９日(水) １４：００

場所：葛城市役所新庄庁舎２階 ２０４会議室

１．開 会

２．会長あいさつ

３．案 件

(１) 葛城市第二次総合計画及び第２期葛城市総合戦略に係る実績報告について
【資料１】

(２) 葛城市第三次総合計画について
【資料２】

(３) 葛城市第三次総合計画リーディングプロジェクト（素案）について
【資料２（P74～）】

(４) 葛城市人口ビジョン（素案）について
【資料３】

(５) 第３期葛城市総合戦略アクションプラン体系（案）について
【資料４】

(６) その他

４．閉 会

第二次総合計画実績報告書

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (平成32年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	将来目標値 (平成37年)	令和7年度 担当課	関連する計画
1. 調和・共助 ～多種多様な 価値観が共存 するまち～	1 市民みんな が活躍できる 社会の構築	1. 高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする	○(介護予防事業)地域の自主運動教室実施箇所数	%	0.9	14	18	19	20	9.9	22	24	23	27	29	19	地域包括支援課	・葛城市高齢者保健福祉計画/ 第6期介護保険事業計画 ・葛城市障がい者計画/第4期 葛城市障がい福祉計画 ・葛城市バリアフリー基本構想 ・葛城市バリアフリー特定事業計画
			○認知症に関する周知啓発事業(カフェ・教室等)の参加者数	人	399	86	175	233	56	800	93	115	223	388	549	1,200	地域包括支援課	
			○認知症サポーター養成講座受講者数	人	625	48	90	67	11	1,250	117	20	178	107	94	1,875	地域包括支援課	
			○シルバー人材センター会員数	人	209	182	167	177	176	230	173	167	162	168	169	250	地域包括支援課	
			○ゆうあいステーション利用者数(市内)	人	106,851	93,076	91,661	86,182	43,050	110,000	14,702	31,363	44,452	57,482	69,141	112,500	社会福祉課	
			○いきいきセンター利用者数	人	39,403	32,233	31,282	24,127	16,366	40,000	12,847	20,575	4,328	27,936	34,582	40,000	地域包括支援課	
			○障がい者就労移行支援事業・就労継続支援(A型・B型)事業の利用者数	人	78	85	85	91	96	90	117	124	134	152	163	100	社会福祉課	
			○上記支援事業から一般就労への移行者数	人	2	0	0	1	5	3	8	10	6	7	7	4	社会福祉課	
			○障がい者相談支援事業利用者数	人	155	136	136	207	228	180	256	302	343	362	401	200	社会福祉課	
		2. 女性が積極的に社会進出できる社会を形成する	○女性の社会進出に係る周知啓発事業(セミナー等)の参加者数	人	152	156	191	中止	中止	180	135	157	143	129	109	200	人権政策課	・葛城市男女共同参画基本計画 ・葛城市女性活躍推進行動計画
			○ファミリーサポート事業利用件数	件	197	388	421	229	351	200	421	410	348	346	328	200	こども・若者サポートセンター	
			○審議会・委員会等の女性委員の登用率	%	18.9	20.8	22.7	18.4	23.2	20	20.2	18.8	19.9	20.3	20	25	人権政策課	
			○市役所の女性管理職比率	%	25.5	28.7	29.9	28.7	27.6	30	28.6	31.2	32.2	31.9	32.4	30	人事課	
			○市役所の男性職員の育児休業取得人数	人	0	0	0	1	0	1	2	4	1	1	9	1	人事課	
			○父親向けの育児講座参加者数	人	75	96	93	107	57	100	53	58	72	77	42	150	健康増進課 —こども・若者家庭センター—	
	2 豊かな自然の保全・継承	1. 循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める	○家庭系ごみ排出量	t/年	9,695 (H26)	8,499	9,185	9,212	9,263	8,535 (H31)	9,776	9,655	9,274	9,088	8,942	7,844 (H36)	クリーンセンター	・一般廃棄物処理基本計画 ・バイオマスタウン構想
			○事業系ごみ排出量	t/年	4,125 (H26)	4,095	3,892	3,988	4,136	3,212 (H31)	3,557	3,497	3,659	3,679	3,694	3,212 (H36)	クリーンセンター	
			○リサイクル率	%	14.5 (H26)	15.56	15.5	14.9	14.1	27.0 (H31)	13.7	13.2	11.3	11.6	11.4	28.0 (H36)	クリーンセンター	
			○最終処分率	%	15.4 (H26)	12.26	11.33	10.96	11.92	9.6 (H31)	11.08	11.08	11.46	10.86	11.36	9.3 (H36)	クリーンセンター	
			○おひさま堆肥会員数	人	300	359	390	404	420	330	435	458	467	473	508	360	環境課	
		2. 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める	○河川水質基準(河川C類型):BOD	mg/l	2.3	9.41	6.8	2.23	1.95	5.0以下	2.06	1.81	2.66	2.925	1.8	5.0以下	環境課	・葛城市地球温暖化対策実行計画 ・葛城市森林整備計画 ・葛城市緑の基本計画 ・葛城市地域新エネルギービジョン
			○河川水質基準(河川C類型):溶存酸素量	mg/l	12.84	15.13	13.5	14.88	11.75	5.0以上	10.88	12.38	12.11	9.775	9.25	5.0以上	環境課	
			○間伐・植林面積	ha	14.6	0	1.68	0.66	0.4	16.0	1.1	1.1	0.2	1.1	0.03	17.5	農林課	
			○一人あたりの公園面積	m ²	9.6	11.13	11.1	11.1	11.0	11.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.3	都市計画課	
			○歩いて行ける公園整備率	%	80.6	78.6	78.6	78.6	79.0	80.6	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	83.6	都市計画課	
	3 歴史・文化と調和的な地域づくり	1. 歴史や文化の保護・活用を図る	○歴史博物館企画展観覧者数	人	3,301	3,548	1,980	2,836	1,124	3,400	1,794	3,320	3,685	3,816	3,965	3,500	歴史博物館	
			○歴史文化講座等参加者数	人	1,192	1,207	1,324	1,453	615	1,300	652	1,397	1,897	1,809	1,866	1,350	歴史博物館	
		2. 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める	○空き家に関する年間相談件数	件	平成29年度より開始	0	0	72	102	20	86	104	60	78	30	40	企画政策課	・葛城市立地適正化計画 ・葛城市都市計画マスタープラン ・山麓地域整備基本計画 ・都市再生整備計画(葛城山麓周辺地区)
			○市への年間転入者数	人	205	471	506	554	554	239	434	638	591	595	582	241	総合窓口課	

第二次総合計画実績報告書

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (平成32年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	将来目標値 (平成37年)	令和7年度 担当課	関連する計画
			○市民サービスカー年間利用者数→イベントでの利用数	人	平成28年度より開始	2	1	0	0	1,000	0	0	0	0	0	2,000	商工観光プロモーション課	・葛城市公営住宅等長寿 化計画 ・葛城市空き家等対策計画
2. 壮健・学習 ～心と身体が 健やかに育ま れるまち～	1. 誰もが生涯 健康で過ごせ るまちづくり	1. 未病・予防と重 症化防止の取組を 通じた健康寿命の 延伸	○特定健康診査受診率	%	30 30.8	32.4	32.7	34.1	27.9	40	33.2	32.8	32.4	33.8	未確定	50	健康増進課	・第2期葛城市健康増進計画 （「きらり葛城21」） ・葛城市食育推進計画 ・葛城市高齢者保健福祉計画 ／第6期介護保険事業計画 ・葛城市特定健康診査等実施 計画書
			○メタボリック・シンドローム 該当者割合	%	14.5	17.4	17.4	18.4	20.4	14	19.4	18.9	17.9	18.2	未確定	13.5	健康増進課	
			○子宮がん検診受診率	%	14.2	13.5	14.2	13.7	11.2	15	11.4	12.9	12.6	13.6	13.2	16	健康増進課	
			○乳がん検診受診率	%	14.4	12.6	16	16.6	12.6	15	13.1	15.3	15.5	16.8	16.3	16	健康増進課	
			○がんによる死亡者数 (人口100,000人あたり)	人	275(H26)	282.7	259.3	232.4	266.1	260	218.4	257.0	245.5	311.6	未確定	255	健康増進課	
			○男性健康寿命（平均自立 期間）※65歳時点	年	18.23(H24)	17.94(H27)	18.33(H28)	18.88(H29)	19.25(H30)	19.23	18.81(H31)	18.87(R2)	18.53(R3)	18.69(R4)	18.32(R5)	19.55	健康増進課	
			○女性健康寿命（平均自立 期間）※65歳時点	年	20.66(H24)	21.06(H27)	20.65(H28)	20.99(H29)	20.82(H30)	22.66	20.98(H31)	20.75(R2)	20.64(R3)	20.56(R4)	20.24(R5)	23	健康増進課	
		2. 安心して医療・ 介護サービスが受 けられる体制づくり	○後発医薬品（ジェネリック 医薬品）使用率	%	39.4	40.66	49.08	50.56	52.45	45	56.93	56.88	59.70	57.5	56.42	50	保険課	・第3期葛城市健康増進計画 （「きらり葛城21」） ・葛城市食育推進計画 ・葛城市高齢者保健福祉計画 ／第6～8期介護保険事業計画
			○要介護認定率	%	16.7	17.4	18	18.5	18.3	16.5	18.8	19.7	19.7	20.4	20.6	16.3	介護保険課	
			○ボランティア登録者数	人	1,039	1,039	1,258	1,129	1,149	1,100	1,116	1,046	1,033	984	971	1,150	地域包括支援課	
			○各地域介護予防教室数	件	12	13	16	19	20	18	22	24	25	28	32	24	地域包括支援課	
			○地域包括支援センター への総合相談件数	件	2,560	2,489	3,779	2,952	5,800	2,560	4,548	4,686	5,069	5,460	8,064	2,560	地域包括支援課	
		3. 運動の場の形 成を通じた市民の 健康の増進	○部活動を行っている中 学生割合	%	87.5	88	87	88	76.6	90.0	82.3	80.8	81.7	82.6	76.8	90.0	学校教育課	
			○体育施設の年間利用者数 (延べ)	人	185,812	190,100	171,973	160,151	108,074	200,000	93,114	138,413	149,315	146,819	149,955	200,000	体育振興課	
			○健康づくり推進員活動大 字数	件	18	17	19	17	9	20	4	3	4	2	0	25	健康増進課	
			○健康づくりを実践するグ ループ数	件	3	3	3	3	3	5	1	1	2	2	1	8	健康増進課	
	2. 教育・学習 による未来の 市民づくり	1. 子どもの健全な 育成に対する各種 支援を行う	○こども・若者サポートセ ンターへの新規相談件数	件	平成28年度 より開始	319	315	330	365	200	290	267	295	266	281	200	こども・若者サ ポートセンター	・葛城市子ども・子育て支援 事業計画 ・葛城市次世代育成支援後期 行動計画 ・葛城市教育大綱
			○待機児童数	人	0	5	4	28	22	0	10	11	10	1	1	0	こども未来課	
			○乳幼児訪問数	件	255	288	253	308	267	270	281	300	289	305	234	300	健康増進課 →こども・若者家庭センター	
			○養育支援訪問数	件	6	10	9	4	1	20	3	3	1	2	2	30	こども・若者サ ポートセンター	
			○乳幼児健診受診率	%	97	97	97	97	97	98	97.9	97.6	97.7	97.6	97.8	99	健康増進課 →こども・若者家庭センター	
			○児童生徒1,000人あたりの 不登校児童生徒数(小学校)	人	3.08	1.3	4.17	7.9	11	2.9	18	19	20	16	14.9	2.8	学校教育課	
			○児童生徒1,000人あたりの 不登校児童生徒数(中学校)	人	28.7	16.1	25.2	36	36	26.0	52	46	54	54	58.6	24.0	学校教育課	
		2. 基礎学力の向 上や社会を生き抜 く力の養成を進め る	○国際的人材を育成する授 業の年間実施回数	回	35	50	50	50	70	70	70	70	70	70	70	70	学校教育課	・葛城市教育大綱 ・葛城市子どもの読書活動 推進計画
			○夏休み等の課外における 教育支援の年間実施日数	日	8	18	0	17	0	14	0	14	19	10	18	20	学校教育課	
			○市民一人当たりの貸出冊 数	冊	4.8	5.1	5.6	5.3	3.9	5.3	55.0	4.9	5.2	5.3	5.1	5.5	図書館	
			○学校図書館の一人当 り年間貸出し冊数(小学校)	冊	51	49	54.5	44.4	50	55	55	56	43	45	46	60	学校教育課	

第二次総合計画実績報告書

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (平成32年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	将来目標値 (平成37年)	令和7年度 担当課	関連する計画
	3. 生涯学習による豊かな心の涵養	1. 芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する	○学校図書館の一人当たり年間貸出し冊数(中学校)	冊	6.1	9	8.1	7.3	4	8	5	5	6	7	5	10	学校教育課	葛城市教育大綱
			○給食地産地消率	%	16.00	9.14	10.31	25.61	21.23	25.00	19.00	21.45	20.24	27.61	34.74	30.00	給食センター	
			○新庄文化会館ホール稼働率	%	33	41	42.1	39.6	23.4	45	28.6	39.7	33.1	37.2	42.7	50	新庄文化会館	葛城市教育大綱
			○當麻文化会館ホール稼働率	%	48	39.8	42	35.3	14.1	49	11.2	24.5	28.7	28.7	0	50	當麻文化会館	葛城市教育大綱
			○中央公民館・當麻文化会館・地区館における各種定期教室講座の参加者数	人	1,127	1,043	1,067	1,090	342	1,200	496	512	1484	1593	2336	1,300	當麻文化会館 (中央公民館)	葛城市教育大綱
			○市内各分館等における移動講座の参加者数	人	4,439	4,639	4,514	3,794	1,229	4,600	1,325	1,980	2,388	2,881	2,768	4,800	當麻文化会館 (中央公民館)	
			○アートフェア参加者数 (日当たり)	人	1,837	1,543	1,391	895	0	2,200	0	0	0	0	0	2,500	生涯学習課	
			○生涯学習まちづくり推進大会参加者数	人	500	511	592	437	0	550	0	364	0	0	0	600	生涯学習課	
		2. 人権教育により差別のない社会を形成する	○人権集会等参加者数	人	1,360	1,606	1,545	1,646	108	1,400	1,103	655	938	919	1,116	1,380	人権政策課	
			○人権教育講座参加者数	人	70	89	100	104	59	80	30	94	99	105	79	100	生涯学習課	
			○人権教育地区別研修会参加者数	人	656	676	391	360	中止	700	中止	中止	中止	中止	中止	750	人権政策課	
3. 活力・安全～にぎわいあふれる安心なまち～	1. 住みよいまちを支える社会基盤の実現	1. 基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める	○公共バスの年間利用者数	人	50,000	47,246	47,072	46,500	29,813	55,000	34,662	43,470	49,193	52,209	56,928	60,000	企画政策課	・葛城市立地適正化計画 ・葛城市都市計画マスタープラン ・葛城市無電柱化計画 ・葛城市生活交通ネットワーク実施計画 ・葛城市橋梁長寿命化修繕計画
			○市道改良率	%	29.8	30.5	30.7	31.1	31.7	31.0	31.7	31.9	31.9	32.0	32.0	31.2	建設課	
			○市道舗装率	%	92.9	93.1	93.1	93.2	93.3	93.0	93.3	93.3	93.3	93.3	93.3	93.1	建設課	
			○交通事故発生件数	件	134	159	122	120	79	87	87	75	81	92	83	57	生活安全課	
			○無電柱化率	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	都市計画課	
		2. 管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する	○下水道水洗化率	%	88.0	91.6	92.0	92.6	92.8	93.0	93.1	93.6	94.0	94.2	94.6	98.0	下水道課	・葛城市水道事業経営健全化計画 ・葛城市下水道事業経営健全化計画 ・葛城市水道事業基本計画 ・地域水道ビジョン
			○水質管理目標設定項目該当数	項目	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	水道課	
			○経年化設備率	%	41.8	41.2	41.5	41.7	41.9	35.0	42.1	42.3	42.5	40.6	41.9	30.0	水道課	
			○管路の更新率	%	0.7	0.6	0.7	0.4	0.7	1.3	0.5	1.0	0.9	0.9	0.7	2.0	水道課	
	2. ものづくりの振興を通じた地場産業の活性化	1. 農商工業の地場産業を育成し、活性化させる	○耕作放棄地面積 (保全管理農地)	ha	9.1	7.43	12.01	11.51	12.66	8.5	11.6	13	15.5	16.9	16.8	8.0	農林課	・葛城市農業振興地域整備計画 ・農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想 ・葛城市鳥獣被害防止計画 ・バイオマスタウン構想
			○地域ブランド認定品数	件	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	20	農林課	
			○農作物販売金額	百万円	1,410	1900	1830			1,500				－		1,600	農林課	
			○新規創業者相談数	件	3	3	3	3	3	5	4	4	8	4	6	10	農林課	
			○雇用者所得(一人当たり)	万円	406	414				410				－		420	農林課	
		2. 観光業の振興によるまちの賑わい創出	○観光客入込客数	人	650,752	1,121,017	934,681	829,636	978,022	870,000	969,369	1,080,703	1,058,869	1,185,295	1,084,230	970,000	商工観光プロモーション課	
			○相撲館来場者数	人	4,423	4,492	4,772	5,746	1,388	10,000	1,708	4,888	8,746	9,159	10,019	15,000	商工観光プロモーション課	
			○観光案内所来場者数	人	16,035	18,030	18,350	21,200	9,100	20,000	7,100	17,326	16,920	16,790	16,850	30,000	商工観光プロモーション課	
			○観光ボランティア案内件数	件	57	58	67	46	42	70	15	26	27	24	18	100	商工観光プロモーション課	
	3. 安心・安全な生活環境の整備	1. 自然災害や火災等に対する備えを十分なものにす	○防災土育成数	人	49	88	98	107	110	200	109	111	110	110	115	300	生活安全課	・葛城市地域防災計画 ・葛城市国民保護計画 ・葛城市地震防災対策アクションプログラム
			○自主防災組織の組織率	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	生活安全課	
			○年間出火件数	件	9	22	22	10	16	8	12	13	9	11	10	7	生活安全課	
			○女性消防団員数	人	0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	12	生活安全課	
			○多数の者が利用する公共建築物の耐震化率	%	85	85.3	85.3	85.3	94.1	95	97	98.7	98.7	100.0	100.0	100	生活安全課	
		2. 地域の防犯体制を強化し、犯罪の発生を抑止する	○刑法犯認知件数	件	281	189	180	138	136	191	104	140	78	170	177	131	生活安全課	
			○街灯LED設置台数	台	1,876	2,888	3,442	3,690	3,873	3,000	4,045	4,232	4,267	4,326	4,410	4,500	生活安全課	
			○防犯カメラ設置台数	台	5	40	55	57	62	55	62	64	66	69	69	70	生活安全課	
			○消費者生活相談件数	件	87	55	67	49	61	80	52	51	46	45	45	80	商工観光プロモーション課	

第二次総合計画実績報告書

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (平成32年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	将来目標値 (平成37年)	令和7年度 担当課	関連する計画
各分野の政策・ 施策を推進する ための視点	○市民と行政 の協働 ○質の高い 行財政運営	▼ 市民の市政参 画や市民活動への 支援等を通じた市 民と行政の協働に よる行政運営の実 現 ▼ 新電力の導入 等効率的な行財政 運営の仕組みの導 入 ▼ 情報化の推進 による行政コストの 削減 ▼ ファシリティマ ネジメントの実施に よる公共財の適切 な管理	○個人番号(マイナンバー) カード発行枚数	枚	868	3,157	3,567	4,607	11,025	7,000	18,244	26,811	30,184	33,179	38,646	14,000	総合窓口課	・葛城市新市建設計画 ・葛城市財政計画 ・葛城市行政改革大綱 ・葛城市集中改革プラン/ 定員適正化計画 ・葛城市耐震改修促進計画 ・葛城市地域情報化計画
			○ふるさと納税納入額	千円	4,792	1,480	1,985	1,000	15,205	23,000	51,608	80,060	90,799	122,772	143,994	30,000	商工観光プロ モーション課	
			○市公式SNS登録者数	人	74	2,083	2,315	2,315	2,353	1,000	2,727	6,167	6,537	6,168	6,925	3,000	秘書広報課	
			○市ホームページアクセス数	千件	1,953	1,539	1,398	1,642	2,304	2,000	3,381	2,564	2,085	2,159	2,233	2,100	秘書広報課	
			○職員職場外研修受講者数	人	102	106	98	128	80	120	150	106	101	149	189	140	人事課	

第 2 期葛城市総合戦略 重要業績評価指標（KPI）達成度報告シート

政策の柱	重要業績評価指標（K P I）		実績値						目標値	担当課
			令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1 子育てに係る各種支援・取組を通じた人口増加（移住支援）	①	子育て世帯（18歳未満の子どもを有する世帯）数	3,820世帯	3,840世帯	3,839世帯	3,851世帯	3,793世帯	3741世帯	4,000世帯	子育て支援課
	②	子どもを有する44歳以下の女性の就労率	65%	80%	78.0%	76.0%	76.6%	75.3%	76.5%	子育て支援課
	③	学童保育所における出前講座の回数	0回	0回	0回	0回	10回	33回	15回	企画政策課 子育て支援課
	④	県外からの転入者数	554	434	638	591	595	582人	600人(※毎年度)	総合窓口課
2 観光業を基幹とした産業の振興（集客支援）	⑤	葛城市が相撲発祥の地であることを認知している割合	市内95% 市外45%	市内95% 市外45%	市内89.5% 市外62.5%	市内100% 市外66.6%	市内85.1% 市外67.1%	市内85.8% 市外67.0%	市内：100% 市外：70%	商工観光プロモーション課
	⑥	綿弓塚の来場者数	587人	487人	664人	4,377人	1,330人	1386人	8,000人	商工観光プロモーション課
	⑦	相撲館への外国人来場者数	0人	19人	812人	2,749人	3,530人	3602人	2,000人	商工観光プロモーション課
	⑧	市内の販売農家数	439戸	439戸	440戸	440戸	442戸	442戸	450戸	農林課
		2つの道の駅の売り上げ高	道の駅かつらぎ：1,012,621千円 ふたかみパーク當麻：227,614千円 合計：1,240,235千円	道の駅かつらぎ：1,070,071千円 ふたかみパーク當麻：238,565千円 合計：1,308,636千円	道の駅かつらぎ：1,152,717千円 ふたかみパーク當麻：235,953千円 合計：1,388,670千円	道の駅かつらぎ：1,205,665千円 ふたかみパーク當麻：235,639千円 合計：1,441,304千円	道の駅かつらぎ：1,283,379千円 ふたかみパーク當麻：243,555千円 合計：1,526,934千円	道の駅かつらぎ：1,482,244千円 ふたかみパーク當麻：222,858千円 合計：1,705,103千円	1,633百万円	農林課
3 地域コミュニティの強化を通じた地域の紐帯の強化（定住支援）	⑨	生活支援コーディネーターによる住民力支援に向けた取り組み件数	325	396	518	629				地域包括支援課
	⑩	【R6年度から】生活支援コーディネーターが住民主体の助け合い活動の基盤づくりを目的として関わった大字の数				30	34	39大字	44大字	地域包括支援課
	⑪	自主運動教室の実施箇所数	20	22	24	23	27	29箇所	26箇所	地域包括支援課
		健康寿命（65歳平均自立期間）	男性：19.25（県内4位） 女性：20.82（県内21位） （H29-R1）	男性：18.81（県内8位） 女性：20.98（県内17位） （H30-R2）	男性：18.77（県内12位） 女性：20.75（県内21位） （R元-R3）	男性：18.53（県内15位） 女性：20.64（県内20位） （R2-R4）	男性：18.69（県内18位） 女性：20.56（県内22位） （R3-R5）	男性：18.32（県内21位） 女性：20.24（県内31位） （R4-R6）	男性：18.53（県内15位以内） 女性：20.65（県内20位以内）	健康増進課
	⑫	個人番号カード（マイナンバーカード）の配布枚数	11,025	18,244	26811	30184	33179	38,646枚	34,500枚	総合窓口課
	⑬	葛城市コミュニティバス（環状線ルート）の年間利用者数	22,282	26,521	32834	36440	39035	43,443人	49,600人	企画政策課

最終、デザインが入ります。

葛城市 第三次総合計画



2026/8 月時点
素案（会議資料）

令和9年3月策定予定

葛城市

目次

第1章 はじめに	1
1. 策定の背景と趣旨	2
2. 計画の位置づけと構成	3
3. 計画期間	3
4. 策定体制	4
5. 推進体制	4
6. 時代の潮流とまちづくり課題	5
(1) 人口規模と人口構造の維持を目指す、持続可能な地域社会づくり	5
(2) 多様な暮らし方・価値観の中でも、住み続けたい魅力づくり	5
(3) 地域の活力を支える産業とデジタルの推進	6
(4) 災害に強く、環境と調和した安全・安心な暮らしの実現	6
(5) 住民とともに進める、参加・共創のまちづくり	6
第2章 基本構想	7
1. 基本理念（将来像）	8
2. 数値目標	9
3. 施策の大綱	9
第3章 基本計画	17
政策目標1 未来に向けたこどもの育ちと学び	18
政策目標2 温もりで支え合う福祉と医療	26
政策目標3 人を呼び込む、活力と魅力あるまち	34
政策目標4 生活における確かな安全と安心	45
政策目標5 みんなで取り組む持続可能なまちづくり	51
政策目標6 人と自然に優しい住環境	58
政策目標7 誰もが尊重し合う、心豊かな社会	66
リーディングプロジェクト（重点政策）	74
資料編	81
1. 計画の策定に関する資料	81
2. 策定に向けた調査等の資料	81

第Ⅰ章 はじめに

Introduction

I. 策定の背景と趣旨

平成 16 年 10 月の合併以来、旧新庄町・旧當麻町の歴史と文化を継承しつつ、一体感のあるまちづくりを進めてきた葛城市（以下、「本市」という。）は、平成 18 年に策定した「葛城市第一次総合計画」、平成 29 年に策定した「葛城市第二次総合計画」のもと、まちづくりを進めてきました。

本市では、大阪都市圏への優れた交通利便性を生かした住宅地の整備をはじめ、子育て支援や教育、福祉の充実に取り組んできた結果、人口減少が進む奈良県内にあっても、長らく人口を維持しており、令和 6 年に人口戦略会議が公表した分析においても、奈良県内で唯一、将来にわたり持続可能性が比較的高い「自立持続可能性自治体」と評価されています。

人口減少が全国的な潮流となるなかでのこうした評価は、本市の強みであります。そのため、今後も現在の人口規模を将来にわたって維持していくために、これまで築いてきたまちの活力や魅力を次の成長につなげ、持続可能なまちづくりを進めていくことが求められます。

また、少子高齢化の進行、国際情勢の不安定化に伴う物価・エネルギー価格の高騰など地域経済を取り巻く環境の変化、自然災害の頻発・激甚化、デジタル技術の進展、脱炭素に向けた社会的要請の高まりなど、社会経済情勢は大きく変化し、地域課題は一層複雑化・多様化しているほか、住民一人ひとりの価値観やライフスタイルが多様化する中、まちづくりに求められるものも変化しています。利便性や経済的な豊かさはもちろんのこと、一人ひとりの幸福や豊かさ、すなわちウェルビーイングの向上についても、これからのまちづくりにおける重要な視点です。

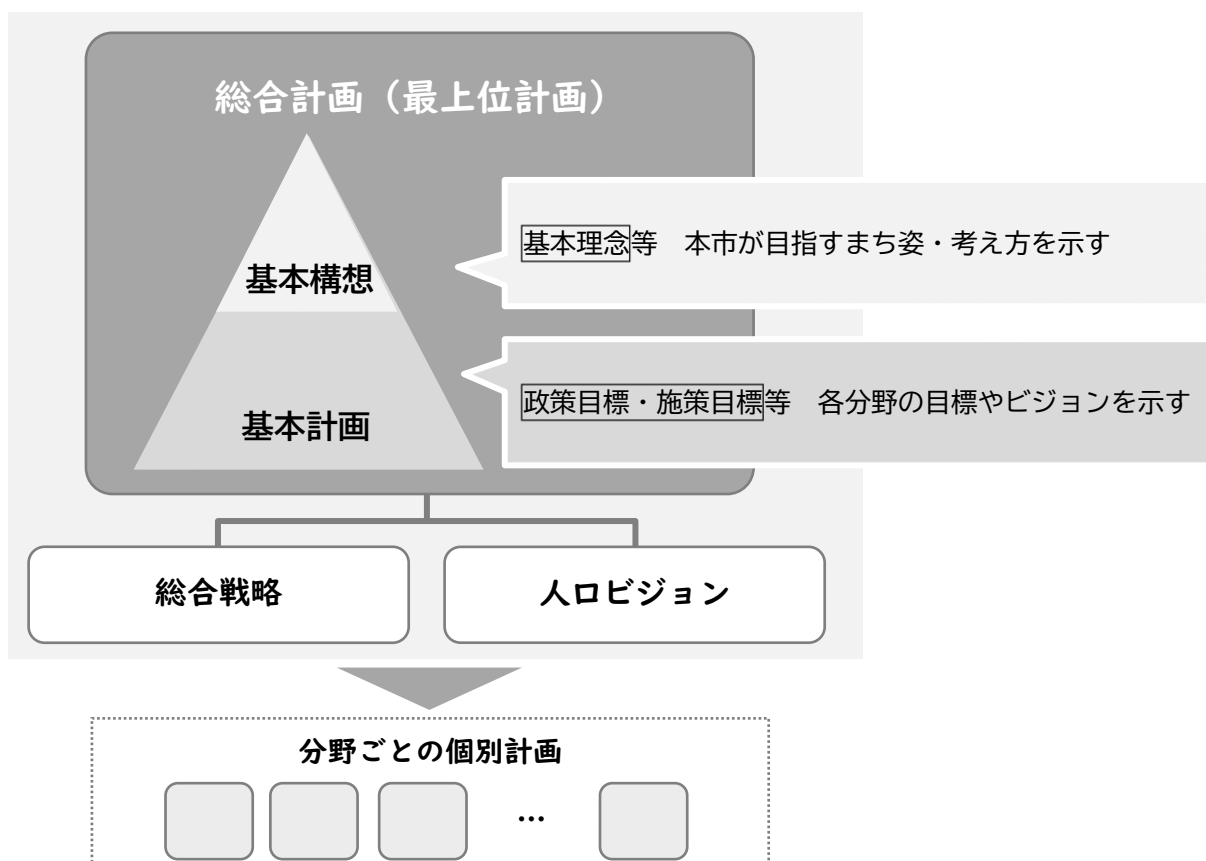
こうした背景を踏まえ、市の誕生から 20 年を経た葛城市が、将来にわたり持続的に発展し、市民一人ひとりが心豊かに暮らし続けられるまちを実現するため、未来を見据えた新たなまちづくりの指針として、「葛城市第三次総合計画（以下、「本計画」という。）」を策定しました。

本計画に基づき、長期的な視点に立ち、社会経済情勢の変化に柔軟に対応しながら、地域の特性や強みを生かしたまちづくりを着実に進め、市民、地域団体、事業者、関係機関、行政など多様な主体が、それぞれの力を生かして協働することで、一人ひとりのウェルビーイングの向上と地域の持続的な発展が調和した、だれもが安心して「住み続けたい」と思える葛城市の実現を目指します。

2. 計画の位置づけと構成

総合計画は、長期的な視点に立って市がこれからどのようなまちを目指していくのかを示す、本市におけるすべての計画の最上位に位置付けられる計画です。

総合戦略や人口ビジョンと整合を図り、相互に連携させながら、まちづくりを推進します。



3. 計画期間

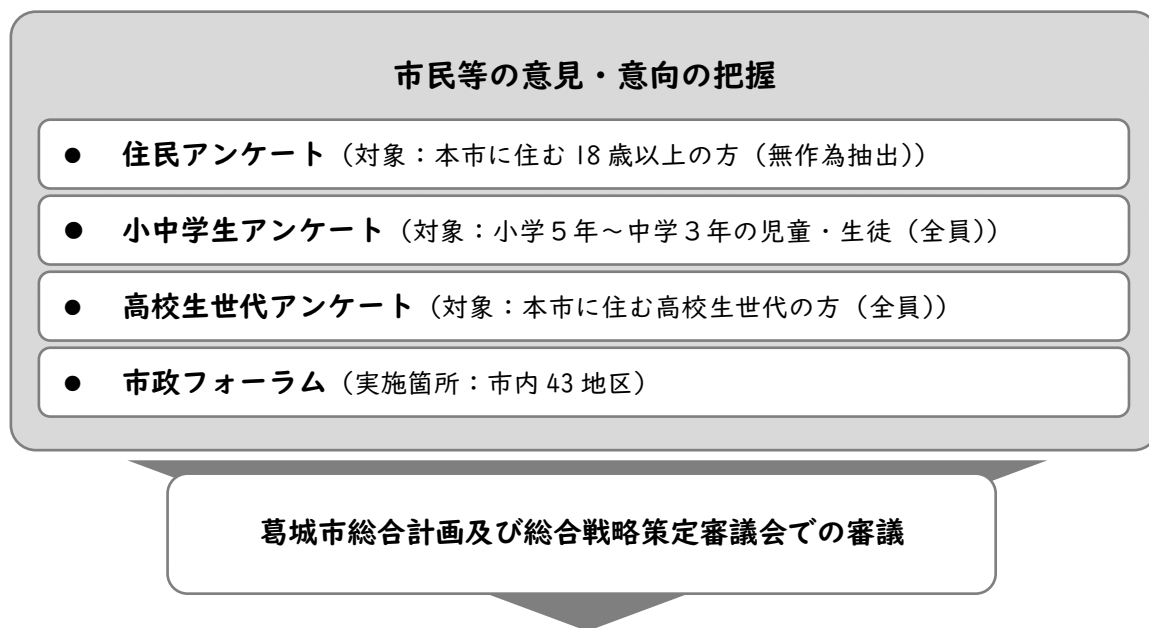
本計画の計画期間は、令和9年度から令和18年度までの10年間とします。また、基本計画については、国や県の制度改正、社会経済の変化や市民ニーズの変化等に柔軟に対応できるよう、5年を目途に、必要に応じて見直しを行うものとします。

令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度
2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
基本構想（10年間）									
基本計画（10年間で基本とし、必要に応じて5年で見直し）									

4. 策定体制

本計画の策定に当たっては、市民の皆様の意見や想いを計画に反映するため、各種アンケート調査等を実施し、幅広い世代から多くのご意見をいただきました。

また、学識経験者や市民・関係団体の代表等で構成する「葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会」において、多様な視点から審議を行い、計画策定を行いました。



葛城市第三次総合計画の策定

5. 推進体制

本計画を着実に推進するため、客観的なデータや市民意識調査の結果などを用いた数値目標を活用しながら進捗状況を把握・評価し、PDCA サイクルによる継続的な改善を図ります。

また、総合計画の推進には、行政だけでなく、市民、地域団体、事業者、教育機関など、多様な主体の参画が重要です。行政と多様な主体が将来像を共有し、それぞれの強みや資源を生かしながら共創によるまちづくりを進め、本計画の実現を目指します。

6. 時代の潮流とまちづくり課題

本市の現状や社会潮流などを踏まえ、本計画におけるまちづくりの課題を、次の5項目に整理しました。地域の特性や強みを生かしながら、課題へ対応しつつ、本市のより良い未来につながるまちづくりを進めます。

(1) 人口規模と人口構造の維持を目指す、持続可能な地域社会づくり

時代の潮流	関連データ ※R7 更新(9月)												
● 全国的な人口減少の進行 ● 少子高齢化と働く世代の減少、支え手不足 ● 家族や地域で支え合う力、コミュニティの弱体化 ● 人口適応(人口が減っても暮らしやすいまちづくり)への転換	葛城市の人口推移 老年人口1あたりの生産年齢人口: 3.6人 (平成17年) 老年人口1あたりの生産年齢人口: 2.0人 (令和7年) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成17年</td> <td>34,985</td> </tr> <tr> <td>平成22年</td> <td>35,859</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>36,635</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>36,832</td> </tr> <tr> <td>令和7年</td> <td>36,841</td> </tr> </tbody> </table>	年	人口	平成17年	34,985	平成22年	35,859	平成27年	36,635	令和2年	36,832	令和7年	36,841
年	人口												
平成17年	34,985												
平成22年	35,859												
平成27年	36,635												
令和2年	36,832												
令和7年	36,841												

本市は、これまで人口を維持してきましたが、その一方で高齢化は進んでおり、地域を支える生産年齢人口の割合は低下しています。

人口規模と人口構造の維持を目指しつつ、社会情勢の変化にも柔軟に対応し、市民が安心して豊かに暮らし続けられる持続可能な地域社会の実現に取り組む必要があります。

(2) 多様な暮らし方・価値観の中でも、住み続けたいくなる魅力づくり

時代の潮流	関連データ																								
● ライフスタイル・価値観の多様化 ● 働き方・住まいの選択肢の広がり（テレワーク・二拠点生活等） ● 都市部への人口集中と、地方の人口流出 ● 暮らしの豊かさ・満足度（Well-being）の重視	葛城市の性別年齢別社会増減数（R7） 10代20代は転入<転出 <table><tr><th>年齢</th><th>男性</th><th>女性</th></tr><tr><td>0～9歳</td><td>44</td><td>41</td></tr><tr><td>10～19歳</td><td>-18</td><td>-3</td></tr><tr><td>20～29歳</td><td>-48</td><td>-25</td></tr><tr><td>30～39歳</td><td>46</td><td>55</td></tr><tr><td>40～49歳</td><td>10</td><td>7</td></tr><tr><td>50～59歳</td><td>14</td><td>-2</td></tr><tr><td>60歳以上</td><td>14</td><td>14</td></tr></table>	年齢	男性	女性	0～9歳	44	41	10～19歳	-18	-3	20～29歳	-48	-25	30～39歳	46	55	40～49歳	10	7	50～59歳	14	-2	60歳以上	14	14
年齢	男性	女性																							
0～9歳	44	41																							
10～19歳	-18	-3																							
20～29歳	-48	-25																							
30～39歳	46	55																							
40～49歳	10	7																							
50～59歳	14	-2																							
60歳以上	14	14																							

価値観や暮らし方が多様化するなか、人々が大切にすることも多様になっています。本市に魅力を感じて移り住む人がいる一方、進学や就職を迎える年代を中心に、転出超過の傾向が出ており、将来にわたって選ばれるまちであり続けるための取組が求められています。

子育て世代から高齢者まで、多様な世代が暮らしやすさや豊かさを実感できるまちづくりを推進し、「住み続けたい」「葛城市に住みたい」と感じられる魅力を高め、市内外へ積極的に発信していく必要があります。

(3) 地域の活力を支える産業とデジタルの推進

時代の潮流	アンケート結果	
● 稼ぐ力・付加価値創出への転換 ● 市場・消費行動の変化 ● AI・デジタル技術の急速な進展 ● デジタルデバイド（デジタル格差）への対応	住む場所を選ぶときに大事にしたいこと	
	住民	小中学生・高校生世代
	1位：日ごろの買い物などの便利さ 63.2%	1位：働く場所・仕事があること 59.1%

本市では、若い世代を中心に、働く場や仕事の有無が住まい選びで重視されており、魅力ある働く場の確保が重要です。また、日常生活の利便性向上も求められ、にぎわいを生み出す産業の活性化等に向けた期待が高まっています。デジタルを含む様々な技術を活用して産業の生産性向上や新たな価値の創出を図るとともに、市民サービスの向上や行政運営の効率化を進め、地域経済の活性化と暮らしやすさの向上につなげていく必要があります。

(4) 災害に強く、環境と調和した安全・安心な暮らしの実現

時代の潮流	アンケート結果		
● 自然災害の頻発・激甚化 ● インフラの老朽化 ● 気候変動の深刻化と、その影響の拡大 ● 脱炭素社会（カーボンニュートラル）に向けた動き	住民が思う葛城市のよいところ		
	1位	2位	3位
	災害が少なく安全 57.2%	自然が豊か 56.9%	治安がよい 43.3%

本市は比較的災害が少ない地域とされていますが、いざというときに備えたまちづくりはこれまでどおり重要です。また、公共施設やインフラの計画的な維持・更新により、安全な暮らしを支える基盤づくりも必要です。

気候変動への対応は、災害リスクの軽減だけでなく、将来世代に豊かな環境を引き継ぐためにも重要です。環境に配慮した取組を進め、脱炭素社会の実現をめざしていく必要があります。

(5) 住民とともに進める、参加・共創のまちづくり

時代の潮流	アンケート結果	
● 多様化・複雑化する地域課題と、持続可能な行政運営への転換 ● 協働の重要性の高まり ● 地域と関わる「関係人口」への注目 ● SNS等を通じた市民の情報発信・参加の広がり	市政・まちづくりへの参加希望・意向	
	まちづくりに参加したい・意見を述べたい 計 53.4%	行政や議会に任せる 26.2%
		関心がない 6.4% その他・無回答 9.6%

行政だけでは多様化・複雑化する地域課題への対応が難しくなる中、地方分権の進展を踏まえ、地域の実情に応じた行政運営が求められています。

本市では、地域活動の担い手不足が進む一方、市政・まちづくりに参加したい人はアンケートで5割を超えており、意向を活動につなげる協働・共創の仕組みづくりが必要です。

第 2 章 基本構想

Future vision

I. 基本理念（将来像）

本市が10年後に目指すまちの姿を基本理念（将来像）として次のように定め、その実現に向けたまちづくりを進めます。

^{みどり} 山麓と都市が調和した

誰もが安心して住み続けられるまち

～「あたたかさ×暮らしやすさ」の葛城ライフ～

私たちの葛城市には、美しい山麓の「みどり」と、便利な「まち」の機能という、2つの大きな魅力があります。この理念では、「みどり」を人の心の【あたたかさ】に、「まち」を【暮らしやすさ】に重ね合わせました。

そしてこの【あたたかさ】と【暮らしやすさ】を単に共存させるだけでなく、掛け合わせることで、あたたかいコミュニティと、快適な暮らしが混ざり合い、何倍もの素晴らしい魅力となって広がっていく「相乗効果」を目指しています。

また、今葛城市に住んでいる皆さまがずっと笑顔で暮らせるように、そして、これから葛城市にやってくる人をあたたかく迎え入れられるように、「誰もが安心して住み続けられるまち」という言葉には、赤ちゃんからお年寄りまで、すべての世代の安心を守り続けるという強い決意を込めました。

理念の最後にある「ライフ」という言葉には、日々の「暮らし」だけでなく、「人生」や「生命（いのち）」という意味があります。「葛城市という舞台で、全ての人がそれぞれの人生を、豊かに、あたたかく育てほしい」そんな、これからこのまちで生きていくすべての人に寄り添うメッセージを込められています。

2. 数値目標

基本理念（将来像）の実現に向け、その達成状況やまちづくりの成果を分かりやすく把握するため、次のとおり数値目標を設定します。

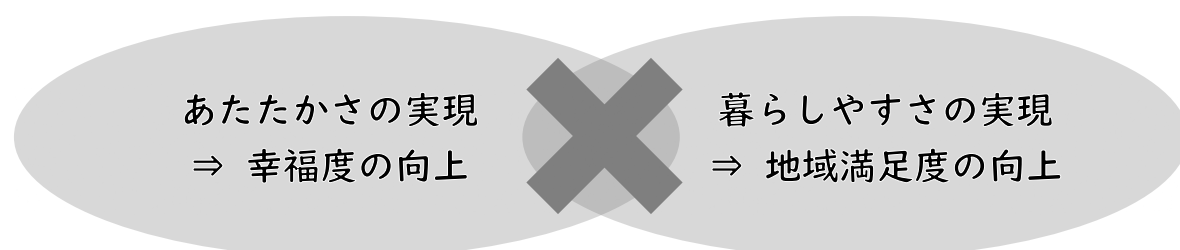
数値目標①

地域満足度の向上	6.74 点 → ●● 点
地域満足度（10 点満点）を上げる	

数値目標②

幸福度の向上	6.91 点 → ●● 点
幸福度（10 点満点）を上げる	

「あたたかさ × 暮らしやすさ」の葛城ライフの実現に向けて



3. 施策の大綱

基本理念（将来像）の実現と数値目標の達成に向け、本計画では次の7つの政策目標を定めます。それぞれの政策目標の実現に向け、各分野で連携しながら施策の推進を図ります。

市が頑張る
7つの目標

政策目標
1 未来に向けたこどもの育ちと学び
2 温もりで支え合う福祉と医療
3 人を呼び込む、活力と魅力あるまち
4 生活における確かな安全と安心
5 みんなで取り組む持続可能なまちづくり
6 人と自然に優しい住環境
7 誰もが尊重し合う、心豊かな社会

市に住む理由・きっかけ
として前回調査から
最も増加した項目

子育て・教育面が魅力的

5.6 ポイント UP
子育ては本市の大きな魅力
であり、移住促進にも◎

人口増に向けて重点的に
取り組むべきと思う分野

子育て分野 **65.9%**

子育て分野は人口増・維持
に向けても重要な施策

将来なっしてほしい
市のイメージ

子育て支援や保育サービス
が整い積極的に出産・子育
てができるまち

57.5%
子育て支援を求める声に
応えていく必要がある

子どもがいる方が思う
市の良いところ
子育て環境がよい

45.3%

より良い子育て環境づくり
に向けて、さらなる推進
を図っていくことが重要

小中学生・高校生世代が
思う市の良いところ
学校などの勉強する場所・
環境がよい

31.7%

子どもたちの学びに向けた
より良い教育環境が必要

望む結婚・出産・子育てを
実現するために必要な支援
安全で、安心して子育てで
きる地域の環境の整備

54.4%

地域全体で子育て応援する
環境づくりが重要

望む結婚・出産・子育てを
実現するために必要な支援
すべての人が利用できる
保育サービスの充実

47.4%

共働きも増加している中
預かりの充実が重要

政策目標Ⅰ 未来に向けたこどもの育ちと学び

未来を担うこどもが、夢や希望を持ち、一人ひとりが自分らしく成長できるよう、家庭・地域・学校が一体となって支える環境づくりを進めます。

こどもの個性や可能性を大切に、学ぶ楽しさや挑戦する喜びを通じて、自らの可能性を広げることができる教育の充実を図るとともに、安心して過ごせる居場所や学びの場づくりを推進します。

施策目標	1-1 こどもの未来への一歩をみんなで支える包括的な支援を推進します
	1-2 好奇心に応え、知る喜びを広げ、自己実現を支援する教育を提供します
	1-3 心の拠り所となる、あたたかい学びの場と居場所としての学校環境を整備します

幸福度の判断に重要な項目
適度な運動・食事、
休息等、心と身体が
健康な生活を送れること

66.3%

健康でいることは
幸福度向上にとって重要

将来なっしてほしい
市のイメージ
保健・医療が整った
いつまでも
健康に暮らせるまち

59.8%

健康を支える環境づくり
が求められている

将来なっほしい
市のイメージ
高齢者や障がい者が
安心して暮らせる
福祉の充実したまち

58.9%

誰もが安心して暮らせる
まちを望む声が多い

福祉分野で
力を入れるべきと思うこと
高齢者や障がい者が
入所（入居）できる
施設の整備

52.0%

地域での暮らしの場の
確保が求められている

高校生世代が福祉分野で
力を入れるべきと思うこと
高齢者や障がい者などが
生活しやすい
バリアフリー化の推進

48.0%

若い世代が望む
やさしいまちづくり

10年後の生活を
考えたとき不安なこと
親や自分自身への十分な
介護・介助ができない

24.2%

現在不安に思う割合からの
増加率も大きい
介護支援体制の重要性

地域活動・ボランティア
活動への参加
参加したことがある

45.0%

半数近くの市民が活動
さらに参加を広げていく
ことが重要

市の悪いところ
福祉・医療施設が
利用しにくい

15.2%

必要なときに利用できる
環境づくりが必要

DX・デジタル化の推進に
より実現して欲しいこと
健康づくりや福祉・
医療・介護サービスの
高度化・充実化

43.8%

デジタルを活用した取組の
充実も求められている

政策目標2 温もりで支え合う福祉と医療

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、人と人との温かなつながりを育み、お互いに支え合う地域共生社会の実現を目指します。

誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れたまちづくりで、誰も孤立させず取り残さない支援体制の充実を図るとともに、市民一人ひとりの健康づくりを支え、心身ともに健やかで生き生きと暮らせる環境づくりを推進します。

施策目標	2-1 お互いに心を通わせ助け合う、地域共生社会を創り上げます
	2-2 誰も孤立させず取り残さない、セーフティーネットを構築します
	2-3 いつまでも健康で生き生きと暮らせる心と体の健康づくりを推進します

相撲発祥の地の認知度
葛城市が相撲発祥の地で
あることを知っている

住民 **88.6%**

小中高 **75.4%**
若い世代の認知度向上
も重要

住まいの場所を選択する際
に特に重視すること
日ごろの買い物などの
利便さ

63.2%

商業の振興は定住促進
としても重要な項目

小中学生・高校生世代が
将来なってほしい
市のイメージ
買物に便利で
にぎやかなまち

57.4%

若い世代が求めるにぎやか
なまちづくりに向けた
産業振興は重要

産業・観光分野で
力を入れるべきと思うこと
新規就農や若年層への
農業経営の支援

30.4%

農業をはじめとする産業の
基盤づくりと担い手への
支援が重要

今後転出を想定する方の
住まいの場所を選択する
際に特に重視すること
交通・通勤・通学の
利便性のよさ

83.0%

交通が不便なことは、大き
な転出理由となっている

小中学生・高校生世代が
将来なってほしい
市のイメージ
全国に自慢できる
特産品があるまち

41.8%

多くの人を訪れるまちとと
もに、市民より割合が高く
若い世代に求められている

産業・観光分野で
力を入れるべきと思うこと
企業や研究機関等の
誘致の推進

27.8%

企業等の誘致によるまちの
にぎわいづくりが重要

小中学生・高校生世代が
住まいの場所を選択する
際に特に重視すること
働く場所・仕事があること

59.1%

若い世代の定着に向けて
働く場の確保が必要

政策目標3 人を呼び込む、活力と魅力あるまち

地域資源や立地を生かし、多様な産業が活力を生み出すことで、働く場やにぎわいにあふれた魅力あるまちづくりを進めます。企業誘致や産業の振興を通じて地域経済の活性化を図るとともに、地域の魅力を高めるシティプロモーションや交流・関係人口の拡大を進めるほか、都市基盤整備を進め、誰もが「住みたい・訪れたい」と感じるまちづくりを推進します。

施策目標	3-1 企業誘致・商業施設誘致により地域経済に活力を創出します
	3-2 農商工業の振興を進め、まちの賑わいを創出します
	3-3 地域の魅力向上と情報発信、宿泊施設の誘致を進め、シティプロモーションの充実を図ります
	3-4 「暮らしやすく住みたいまち」の実現を図ります

住まいの場所を選択する際に特に重視すること

治安の良さ

住民 **60.9%**

小中高生 **58.6%**
年代問わず安心できるまちづくりが求められている

DX・デジタル化の推進により実現して欲しいこと

**災害など緊急時の
情報提供の迅速化・充実化**

42.1%

必要な情報をすぐに届ける
体制づくりが重要

小中学生・高校生世代で将来的に戻りたい方の住まいの場所を選択する際に特に重視すること
犯罪や事件などが少なく、安全で安心できること

67.7%

Uターン希望者のトップ項目
安全は戻ってくる理由

市の良いところ
災害が少なく安全

57.2%

市民から最も評価されている良さとして、
継続していくことが必要

安心・安全分野で力を入れるべきと思うこと
街路灯や防犯カメラ、防犯パトロールカーなど犯罪が
起こりにくい環境づくり

58.3%

安全・安心づくりに向けた
整備への期待も高い

安心・安全分野で力を入れるべきと思うこと
学校内や通学路における
子どもの安全対策の強化や
安全教育の充実

39.3%

子どもたちへの安全対策も
重視されている

政策目標4 生活における確かな安全と安心

市民一人ひとりが安心して暮らし続けられるよう、地域ぐるみの防犯活動や交通安全対策の充実を図るとともに、防災・減災対策や消防体制の強化、地域防災力の向上を進め、安全・安心なまちづくりを推進します。

施策目標	4-1 絆で守り安心の輪を広げる、地域みんなの防犯力強化に取り組みます
	4-2 防災体制の強化や災害時の対応力向上を図り、災害に強いまちづくりを推進します

市の情報の主な入手手段
広報誌

70.8%

世代を問わず、入手手段の
トップは広報誌
継続した情報発信が必要

市からの情報発信の満足度
満足している＋どちらか
というと満足している

66.3%

さらなる満足度向上に
向けた取組が必要

市の情報発信手段として、
積極的に活用すべき媒体

広報誌 **58.1%**

SNS **43.5%**
広報誌はもちろんだが
SNS の重要性も高く、
40 代以下では
SNS が6割以上

DX・デジタル化の推進に
より実現して欲しいこと
市役所の手続きの簡略化

53.6%

30・40 歳代では6割以上
デジタル化推進で
最も求められている

市政・まちづくりへの
参加希望・意向
何らかの形で参加したい
（「意見を述べたい」「グループとし
て参加したい」等の合計）

53.4%

参加意向をまちづくりに
つなげる方策が必要

行政サービスで
力を入れるべきと思うこと
パソコンやスマホ等を
活用してサービスを
受けられる仕組みづくり

42.3%

行政サービスのオンライン
化が求められている

安心・安全分野で
力を入れるべきと思うこと
学校や幼稚園、公共施設
などの耐震補強や
長寿命化の実施

38.0%

長寿命化の推進で
適正な行財政運営を

政策目標5 みんなで取り組む持続可能なまちづくり

市民、地域、事業者など多様な主体と力を合わせて取り組む、協働のまちづくりを進めます。

市民との対話を大切にしながら、デジタル技術を活用した利便性の高い行政サービスの提供
や、公共施設の適正管理、適切な行財政運営に取り組み、持続可能なまちづくりを推進します。

施策目標	5-1 多様な主体と協働し、市民が主役のまちづくりを進め、未来まで続く市政の実現を図ります
	5-2 経営的な視点をもって、効率的で持続可能な行財政運営を図ります
	5-3 技術を活用したもっと使いやすい行政サービスの提供に取り組めます

市の住みやすさ
住みやすい+どちらかと
いえば住みやすい

89.2%

約9割が住みやすいと回答
市民が実感する住みやすさ
を今後も維持していく
ことが重要

これからもずっと
市に住み続けるか
住み続ける+おそらく
住み続ける

77.8%

前回調査から
1.8ポイント増加
定住促進の重要性は高い

幸福度の判断に重要な項目
家庭・家族間が平穏
であり、自宅が居心地の
良い場所であること

64.0%

幸福度向上には
住環境も重要な要素

市の良いところ
自然が豊か

住民 **56.9%**

小中高生 **54.5%**
小中高生ではトップ
市の大きな魅力としての自
然を守っていくことが重要

環境分野で
力を入れるべきと思うこと
美しいまちなみの保全

49.8%

自然とともに
まちなみについても
守っていくことが必要

小中学生・高校生世代が
参加できる活動
まちや川を清掃する活動

39.7%

地域活動に参加したことが
ある方ない方両方でトップ
環境教育としても
重要な活動の1つ

環境分野で
力を入れるべきと思うこと
公園や緑地など身近な
緑の整備・保全

47.1%

憩いの場・居場所であり、
災害時の避難先でもある
公園の重要性は高い

小中学生・高校生世代が
将来なってほしい
市のイメージ
リサイクルなどに取り組
む、環境にやさしいまち

41.4%

小学生では約6割
子どもたちの未来へつなぐ
まちづくりが重要

政策目標6 人と自然に優しい住環境

豊かな自然環境を未来へ引き継ぐため、環境に配慮した脱炭素社会や循環型社会の実現に向けた取組を推進するとともに、美しい自然や景観を守り育てつつ、快適でいつまでも住み続けたいと思える住環境の整備を推進します。

施策目標	6-1 地球のこれからのために環境負荷の低い循環型社会の形成を図ります
	6-2 山麓地域の恵みと美しい自然とともに生きる環境保全の推進に取り組みます
	6-3 いつまでも愛せる・「住み続けたい」を叶える快適な住環境を整備します

小中学生・高校生世代が
思う市の悪いところ
**文化・スポーツ施設が
利用しにくい**

10.5%

交通・買い物に続いて3位
文化・スポーツに親しみ
やすい環境づくりが必要

産業・観光分野で
力を入れるべきと思うこと
**歴史的まちなみ・文化遺産
等を活かした観光振興**

25.3%

歴史・文化資源を活かした
観光の魅力向上が必要

高校生世代が
教育・人権・文化分野で
力を入れるべきと思うこと
**人権尊重や男女共同参画
によるまちづくりの推進**

27.0%

誰もが尊重される共生社会
の実現が重要

教育・人権・文化分野で
力を入れるべきと思うこと
**社会のルールや命の大切さ
を学ぶ心の教育の推進**

57.5%

人権を尊重する心を育むこ
とが重要視されている

政策目標7 誰もが尊重し合う、心豊かな社会

受け継がれてきた歴史や文化を守り育て、郷土への愛着と誇りを育むとともに、生涯を通じて学びやスポーツ、文化芸術に親しめる環境づくりを進めます。また、人権尊重や男女共同参画、多文化共生への理解を深め、多様な価値観を認め合い、誰もが活躍できる社会の実現を目指します。

施策目標	7-1 郷土愛あふれる地域を創る歴史文化の継承に取り組みます
	7-2 日常に輝きと潤いをプラスする活動を推進します
	7-3 互いを尊重し認め合い、一人ひとりが輝ける豊かな社会の実現を図ります

第3章 基本計画

Future plan

政策目標 1

未来に向けたこどもの育ちと学び

政策目標 I キーワード	・子育て ・挑戦 ・地域で子育て	・教育 ・多様性 ・学び	・居場所 ・見守り ・夢	・自己肯定感 ・切れ目ない支援 ・自分らしく
-----------------	------------------------	--------------------	--------------------	------------------------------

政策目標 I 関連データ等

年少人口比率

年少人口（0～14 歳）比率 **15.3** %

児童・生徒数

小学生 **2,287** 人

中学生 **1,160** 人

小中高生の幸福度

小学生 **8.23** 点

中学生 **7.31** 点

高校生世代 **7.33** 点

5 歳階級別人口

0～4 歳 **1,620** 人 5～9 歳 **1,962** 人

10～14 歳 **2,028** 人 15～19 歳 **1,883** 人

施策目標 **1****こどもの未来への一步をみんなで支える包括的な支援を推進します****“目指す姿”**

すべてのこどもが、地域に温かく見守られ、充実した支援を受けながら安心して育ち、一人ひとりが自分らしく望む未来に向かって歩いていけるまち

■現状と課題**01**

- 本市は子育て世代の転入超過が続いており、市民アンケートでも、本市に住むきっかけとして「子育て・教育面の環境に魅力を感じた」と答える人が前回調査から大きく増えています。多くの家庭に「このまちでこどもを育てたい」と感じてもらえることは、本市の大きな強みであり、誇りです。
- 共働き世帯の増加にともない、低年齢児の受入れや延長保育など、保育へのニーズが多様化しています。あわせて、インクルーシブ（多様なこどもが共に過ごす）な保育の必要性も高まっています。保育人材の確保や保育士のスキル向上、施設の整備等の対応を進めることが求められています。

02

- 核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育ての知恵や経験を分かち合う機会が減り、育児への不安や孤立感を抱える家庭が増えています。不安や悩みを保護者が抱え込むことのないよう、必要な支援への繋ぎや地域全体での見守りが必要です。
- 妊娠期から成長の過程にある若者まで、ライフステージ（成長の段階）に応じた切れ目ない継続的な寄り添う支援をしていくことで、一人ひとりが安心して子育てできる環境づくりが求められています。

■具体の取り組み**01****Ⅰ. すべてのこどもが安心して育つ環境整備**

保育ニーズの多様化に対応した保育サービスの充実を図るとともに、こどもの多様性を尊重するインクルーシブな保育を推進し、地域全体の温かい見守りの中で安心してこどもたちが育つ環境を整えます。

- (1) 多様な保育サービスの量的・質的拡大と、それを支える体制・基盤整備
- (2) 保護者（家庭）・地域・園が連携した地域全体で子育てする環境づくり

2. 切れ目なく寄り添う支援の充実

こどもや子育て家庭に寄り添い、妊娠期から成長段階に応じた切れ目のない支援を推進するとともに、地域や関係機関が連携した包括的な支援体制の充実を図ります。

- (1) こども・若者家庭センターを中心とした、切れ目のない包括的な支援の実施
- (2) 母子の健康を支える取組の充実
- (3) 子育て不安の解消、児童虐待の未然防止

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1)	待機児童数	人	人	人
2-(1) 2-(3)	こども・若者家庭センターへの新規 相談件数	件	件	件
1-(2) 2-(3)	つどいの広場の参加者数	人	人	人
2-(2) 2-(3)	乳幼児健診受診率	%	%	%
2-(2) 2-(3)	産後ケア利用件数	件	件	件

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市子ども・子育て支援事業計画

市民の声	□ 公立の保育所や認定こども園の維持・整備を望む □ 転入した子育て世帯や2人目以降の妊婦も参加しやすい集い・交流の場を充実させてほしい
------	---

施策目標 **2****好奇心に応え、知る喜びを広げ、自己実現を支援する教育を提供します****“目指す姿”**

一人ひとりに応じた質の高い学びを通して、知る喜びや学ぶ楽しさを実感しながら、社会の変化に対応できる確かな学力と主体的に考え行動する力を育み、自らの可能性を広げられるまち

■現状と課題**01**

- 本市の年少人口比率は県・全国平均よりも高い水準にあります。次代を担う子どもたちが多いことは、本市の誇りであり、地域の大きな活力となっています。
- 教育を取り巻く環境が複雑・多様化している中、行政、学校、家庭、地域が一体となってこどもの学びと育ちを支える教育の実現が求められています。
- 教職員の多忙化や専門性の向上、特別な支援や配慮を必要とする子どもへの対応など、学校現場における課題も多いです。
- こどもの学びには読書の推進も重要です。子どもたちが読書の楽しさを知り、豊かな感性や想像力を育てていくための大切な取組です。

02

- グローバル化やAIをはじめとする技術革新の進展など、社会が大きく変化する中で、学びのあり方も変化しています。教科書で学ぶ知識にとどまらず、主体的に学ぶ力を育むことが必要です。
- これからの次代を担う子ども達が自分らしく主体性をもって成長していけるよう子育て世代の悩みに寄り添うための環境整備が求められています。
- こどもたちの学びへのモチベーションを高め、将来の自己実現へとつなげるため、多様な学びの場の確保と質の向上が求められています。
- こうして育まれた主体性を土台に、次代を担う子どもたちが自身の力を発揮し、社会に参画していけるよう、こどもが安心して意見表明し、声や想いを届けられる環境づくりの視点も大切です。

■具体の取り組み**01****Ⅰ. こどもの学びと育ちを支える教育環境づくり**

こども一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、心身ともに健やかな成長を支えるとともに、確かな学力や豊かな人間性、挑戦する力を育む教育環境の充実を図ります。

- (1) こどもの学びや成長につながる就学前教育と体験活動の充実
- (2) 確かな学びを育む学校教育環境の充実と教育 DX の推進
- (3) 教員の資質・能力の向上とより良い教育活動の推進
- (4) 学校における読書活動の充実

2. 将来の自己実現につながる学びの機会づくり

これからの社会を生き抜くために必要な主体的に学ぶ力を育むとともに、多様な学びや体験、意見を表明できる機会を充実し、こども一人ひとりが希望するライフデザインを描き、自己実現につながる環境づくりを進めます。

- (1) 主体的・対話的な深い学びを実現する探究学習の充実
- (2) 企業等との連携によるキャリア形成につながる学びの充実
- (3) こどもたちの成長につながる社会参画と意見表明への支援

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(3)	こどもが楽しく幼稚園・保育所(園)・こども園に通っていると感じている保護者の割合	%	%	%
1-(2) 1-(3) 2-(1)	全国学力学習状況調査における正答率の全国比			
1-(2)	全国学力学習状況調査における ICT 機器を活用した授業の割合	%	%	%
1-(4)	学校図書館の一人あたり年間貸出し冊数	小学校冊 中学校冊	小学校冊 中学校冊	小学校冊 中学校冊
2-(2) 2-(3)	未来人材育成事業参加者数	延べ人	延べ人	延べ人
2-(3)	自身の意見が聴いてもらえていると感じるこどもの割合	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市教育大綱
- ◆ 葛城市子どもの読書活動推進計画

市民の声

□ ICT 機器をより効果的に活用し、学力向上につながる教育の充実を期待します。

	□ 将来の職業選択の幅を広げるため、職場体験の機会を増やしてほしい。 □ こどもたちが特技を発揮できるイベントがあると、こどもたちの自信に繋がると思う。 □ こどもや若者の意見が市政に反映されるよう、意見を表明できる機会を設置してほしい。
--	---

施策目標 **3**

心の拠り所となる、あたたかい学びの場と居場所としての学校環境を整備します

“目指す姿”

安全で快適な学校施設と、一人ひとりを受け止める居場所が整い、こどもたちが心も体も健やかに安心して育つことのできるまち

■現状と課題

01

- 学校施設は学びの場であるとともに、一日の大半を過ごす場でもあることから、安全性や快適性を確保することが重要です。
- 学校施設の老朽化が進んでおり、計画的な改修や適切な維持管理を進める必要があります。また、児童生徒の生活の質に直結するトイレの洋式化は重点課題となっています。
- 通学路については、危険箇所への対策を継続し、安全な通学環境の確保に取り組む必要があります。

02

- 不登校や学校生活に不安を抱えるこどもなど、一人ひとりの状況に応じて、安心して過ごし、学びや成長につながる居場所を確保することが重要です。
- 学校内の居場所づくりに加え、図書館など地域の身近な施設をはじめ、こどもが気軽に立ち寄り、自分らしく過ごせる多様な居場所づくりを進める必要があります。

03

- 学校給食は、成長期のこどもたちの健やかな成長を支えるとともに、食の大切さや望ましい食習慣を学ぶ食育の場としても重要です。
- 地場産食材の活用や郷土料理を通じて、食や地域への理解を深める取組も必要です。

■具体の取り組み

01**1. こどもたちの健やかな成長と学びを支える学校環境の充実**

学校施設の計画的な改修や適切な維持管理を進めるとともに、通学路の安全対策に取り組み、こどもたちが安心して学び、通うことができる環境づくりを進めます。

- (1) 学校施設の長寿命化に向けた計画的な改修・維持管理
- (2) 快適な学校生活を支える環境の整備・改善
- (3) 安全な通学環境の確保に向けた継続的な取組の推進

2. 自分らしく過ごせる居場所づくりへの支援

学校内に安心して過ごせる場を設けるとともに、図書館など学校以外の身近な場所も含め、こどもの状況や思い、不登校等の困りごとに寄り添いながら、自分らしく過ごせる多様な居場所づくりを進めます。

(1) こどもの状況や思いに寄り添った居場所づくりの推進

3. 安全・安心な学校給食と食育の推進

安全・安心でおいしい給食を安定して提供するとともに、地場産物や郷土料理を通じて、食の大切さや地域への理解を深める食育を推進します。

(1) 安全・安心な学校給食の安定的な提供

(2) 地場産物や郷土料理を活用した食育の推進

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2)	学校トイレの洋式化率	%	%	%
1-(3)	通学路安全合同会議にあがった案件への対応率	%	%	%
2-(1)	児童生徒 1,000 人あたりの不登校児童生徒数	小学校人 中学校人	小学校人 中学校人	小学校人 中学校人
3-(1) 3-(2)	学校給食において地場産物を利用している割合	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市教育大綱

市民の声	□ 小学校のトイレが汚い。清潔感と温もりのある環境へ改善して欲しい。 □ こどもが安全に歩ける通学路を確保してほしい。 □ 学校以外の身近な場所（公民館等）を、こどもたちがのびのびと集まれる場所として開放してほしい。 □ 現在の給食の質や美味しさを維持してほしい。 □ 食育を通じて地域への理解を深めるため、地元の特産品をさらに活用してほしい。
------	--

政策目標 **2**

温もりで支え合う福祉と医療

政策目標2 キーワード	・ 支え合い	・ 地域共生	・ つながり	・ 交流
	・ 介護予防	・ 社会参加	・ バリアフリー	・ 包摂（インクルージョン）
	・ 健康づくり	・ こころの健康	・ 孤立させない	・ 地域で暮らす

政策目標2 関連データ等
項目調整中

施策目標 **1****お互いに心を通わせ助け合う、地域共生社会を創り上げます****“目指す姿”**

世代や分野の垣根を越えて人と人とがつながり、誰もが役割をもって支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまち

■現状と課題**01**

- 少子高齢化や核家族化の進行などにより、単身高齢者や身寄りのない方が増加するとともに、認知症や生活困窮など、複雑かつ多様な課題を抱える人が増えています。
- 多岐にわたる相談が増加しており、その対応が求められています。

02

- 地域のつながりの希薄化や生活様式の変化に伴い、地域や家庭、職場などにおける支え合いの基盤が弱体化しています。
- 生活課題も複雑・多様化していることから、地域全体で支え合える環境づくりが求められています。

03

- 地域活動やボランティア活動に参加したことがある市民の割合は 45.0%となっていますが、今後は高齢化の進行や生産年齢人口の減少により、地域活動の担い手不足が懸念されます。
- 地域活動に参加しやすい環境づくりや、新たな担い手の確保・育成が求められています。

■具体の取り組み**01****1. 包括的な相談支援と支援につなぐ体制の充実**

どのような相談でもまず受け止め、関係機関が連携しながら、一人ひとりの状況に応じた必要な支援につなぐ包括的な相談支援体制の充実を図ります。

- (1) 関係機関の連携による包括的な相談支援体制の充実
- (2) 相談から支援につなぐまでの伴走型支援の推進

02**2. 地域のつながりを育む見守り・支え合いの推進**

身近な場所で人々が関わり合う地域での交流や社会参加を通じて、人と人とのつながり

を育み、地域全体で見守り・支え合える環境づくりを進めます。

(1) つながりを育む交流・社会参加の機会の充実

(2) 地域ぐるみで見守り・支え合う体制の充実

03

3. 地域福祉を支える人づくりと協働の推進

住民や地域団体、事業者など多様な主体が地域福祉に関わり、互いに助け合い、支え合う協働の地域づくりを進めるとともに、その活動を支える担い手の育成や支援に取り組めます。

(1) 地域福祉を支える人材の育成と活動しやすい環境づくりの推進

(2) 多様な主体が協働で支え合う地域福祉活動の推進

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2)	地域包括支援センターへの相談件数	件	件	件
2-(1) 2-(2) 3-(2)	通いの場（自主運動教室・サロン等） 実施箇所数	箇所	箇所	箇所
3-(1) 3-(2)	地域福祉の担い手となるボランティア 登録団体数	団体	団体	団体

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市地域福祉計画・葛城市地域福祉活動計画

市民の声

- 様々な方法で気軽に相談できるような悩み相談の場を設けてほしい。
- 市民の不安に寄り添い、親身になって相談に乗る体制を整えてほしい。
- 大人になってからでも始められることで繋がれるような、新たな地域のコミュニティ作りに取り組んでほしい。
- ボランティア活動に自発的に参加し、お互いに助け合いながら、より快適で充実した街にしていけるような環境を整えてほしい。

施策目標 **2****誰も孤立させず取り残さない、セーフティーネットを構築します****“目指す姿”**

誰もが孤立することなく必要な支援へつながり、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる安全で快適なまち

■現状と課題**01**

- 高齢化が進行しており、今後も医療・介護ニーズが高まる 85 歳以上人口や認知症の高齢者の増加が見込まれます。あわせて、障害のある方の重度化・複合化、高齢化や家族の高齢化も進んでおり、必要とされる支援は多様化・複雑化しています。
- 一人ひとりの状況に応じて、適切な支援・サービスを受けられる体制づくりが求められています。

02

- 就労や日中活動、地域活動などの社会参加は、生きがいづくりや自立した暮らしにつながる重要な要素です。
- 誰もが自らの力を発揮し、地域の中で役割を持って暮らせるよう、就労や社会参加を支える環境づくりと、多様な活動の場の確保が求められます。

03

- 障害や認知症について一人ひとりが正しい理解を持つことで、誰もが互いを認め合い、ともに暮らせる地域をつくっていくことが重要です。
- 成年後見制度の利用促進や虐待の防止といった権利擁護の取組を進めることで、本人の意思が尊重されながら自分らしい暮らしを続けられるような取組が必要です。

04

- ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、誰もが安心して移動しやすい環境の整備が求められており、バリアフリー化が十分でない箇所の計画的な整備が必要です。

■具体の取り組み**1. 誰もがつながれる支援体制の構築****01**

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、そして、困ったときにも孤立することなく求める支援へ確実につながれる総合的な支援体制の充実を図ります。

(1) 地域包括ケアシステムの深化・推進

- (2) 持続可能なサービス提供体制の確保
- (3) 希望する地域生活の実現に向けた支援の推進
- (4) 関係機関の連携による支援・サービスへのつながりの強化

2. 自分らしく輝く生きがいがづくりの推進

障害のある方が希望や能力に応じて働き活動できるよう支援するとともに、高齢者が長年培った経験や知識を活かし、地域を支える一員として役割を持って活躍できるよう、誰もが自らの力を発揮できる環境づくりを進めます。

- (1) 一人ひとりの希望や能力に応じた就労支援
- (2) 高齢者が役割を持って活躍できる活動の推進

3. 理解の促進と権利擁護の推進

障害や認知症等に対する、一人ひとりの正しい理解を広げるとともに、本人の意思が尊重され、自分らしい暮らしを続けられるよう権利擁護の取組を進めます。

- (1) 互いに理解し合う理解促進・啓発と合理的配慮の推進
- (2) 虐待の防止と早期対応の推進

4. 安心して出かけられるまちづくりの推進

バリアフリー基本構想に基づき、優先度を踏まえながら計画的に整備改善を進め、安全で快適な環境整備の確保を図ります。

- (1) ユニバーサルデザインに配慮した歩行空間・道路環境の整備

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2)	要介護認定率	%	%	25.1%(R17)
2-(2)	介護予防に資するボランティア養成講座	開催回数回 受講者数人	開催回数回 受講者数人	開催回数回 受講者数人
3-(1) 3-(2)	認知症サポーター養成講座	開催回数回 受講者数人	開催回数回 受講者数人	開催回数回 受講者数人
1-(1) 3-(1) 3-(2)	認知症カフェ実施箇所数	箇所	箇所	箇所
2-(1)	障がい者就労移行支援事業・就労継続支援(A型・B型)事業の利用者数	人	人	人

1-(3) 1-(4)	障がい者相談支援事業利用者数	人	人	人
4-(1)	葛城市バリアフリー構想に記載されている道路特定事業の整備改善の対応率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画・葛城市認知症施策推進計画
- ◆ 葛城市障がい者計画・葛城市障がい福祉計画
- ◆ 葛城市バリアフリー基本構想

市民の声	□ 困ったときに孤立することなく、親身に相談に乗ってもらえる体制を望む。 □ 年齢を問わず、誰もが自分の力を発揮して働ける場所があると良い。 □ 認知症になっても自分らしく楽しみを持って暮らし続けられるよう、周囲の理解を深める取り組みをしてほしい。 □ 障がいを持つ住民が不当な扱いや不便を感じることもないよう、市全体で正しい理解と配慮を広めてほしい。 □ 段差などを気にせずスムーズに移動できるようにしてほしい。
------	--

施策目標 **3**

いつまでも健康で生き生きと暮らせる心と体の健康づくりを推進します

“目指す姿”

心と体の健康を支える環境と安心できる医療体制が整い、市民一人ひとりが健康を大切にしながら、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまち

■現状と課題

01

- 健康寿命の延伸を目標として、ライフステージに応じた健康づくりを進めています。
- 市民アンケートでは、幸福度の判断に「心身が健康なこと」が最も重要とされ、「健康寿命の延伸」の施策は重要度・満足度ともに高くなっています。また、特定健診やがん検診の充実についても求められており、市民一人ひとりが健康でいきいきと暮らせる仕組みづくりが必要です。
- 健康づくりの取組を通じた健康長寿の実現を目指し、高齢者ができるだけ長く健康で自立した生活を送れるよう、介護予防の取組の充実が求められています。

02

- 自殺の背景には、様々な要因が複雑に関係していることが多くなっています。葛城市では、若年層から働き世代の自殺者の割合が高いこと、健康問題（特にうつ病）に起因する自殺割合が高いこと、女性の自殺割合が高いことが課題となっています。そこで、「生きることの阻害要因」を減らして、「生きることの促進要因」を増やしていくことで誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現が求められています。

■具体の取り組み

1. 生涯を通じた健康づくりの推進

01

ライフステージに応じた健康づくりを進めるとともに、高齢期の介護予防の取組を充実し、生涯にわたり健康で自立した生活を続けられるよう取り組みます。

- (1) 早期発見・早期対応に繋げる各種健診・検診の受診促進
- (2) 生活習慣の改善等に向けた健康な行動を選びやすい環境づくり
- (3) 食を通じた健康づくりの推進と健康への関心向上（食育）
- (4) 介護予防事業の推進と重症化防止

2. こころの健康づくりと自殺対策の推進

02

誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けた取り組みを進めます。

(1)相談体制の充実とこころの健康に関する啓発

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2) 1-(3) 1-(4)	健康寿命(平均自立期間:要介護2以上になるまでの期間)※0歳時点	男性:年 女性:年	男性:年 女性:年	男性:年 女性:年
1-(4)	各介護予防教室参加者数	延べ人	延べ人	延べ人
2-(1)	ゲートキーパー・こころのサポーター養成者数	延べ人	延べ人	延べ人

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市健康増進計画『きらり葛城21』
- ◆ 食育推進計画
- ◆ 自殺対策推進計画
- ◆ 葛城市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- ◆ 葛城市国民健康保険データヘルス計画
- ◆ 特定健康診査等実施計画
- ◆ 葛城市認知症施策推進計画

市民の声	□ 健康のために運動をしたいが、施設までが遠い。身近な公民館等を利用するなど参加しやすい環境を整えてほしい。 □ 健康な人が増えていくまちづくりをして欲しい。 □ 悩みや困りごとがあったときに、気軽に相談できる相談窓口を作ってほしい。誰もが不安を感じることなく、心穏やかに暮らせるように。
------	---

政策目標 **3**

人を呼び込む、活力と魅力あるまち

政策目標3 キーワード	・産業振興	・働く場	・にぎわい	・シティプロモーション
	・担い手	・地域資源	・企業誘致	・魅力向上
	・地域ブランド	・関係人口	・交通利便性	・住みたいまち

政策目標3 関連データ等
項目調整中

施策目標 **1****企業誘致・商業施設誘致により地域経済に活力を創出します****“目指す姿”**

新たに企業等が誘致され、地域経済が活性化し、働く場や施設が充実するとともに、市内外から人や企業が集まり、活気にあふれるまち

■現状と課題**01**

- 地域経済の活性化や雇用の創出を図るとともに、市民の生活利便性を高め、市内外から人を呼び込むにぎわいを創出するため、企業誘致や商業施設の誘致を進めていくことが求められていますが、本市としての誘致に向けた補助等は少なく、取組の推進が図れていない状況です。
- 企業や商業施設の誘致を進める際、本市では、現状、企業等に公有地として紹介できる土地がなく、特に1ha以上のまとまった用地が必要となる場合には農地を含めて用地を確保する必要があることから、企業の立地ニーズに対応した用地の確保が課題となっています。

■具体の取り組み**01****1. 企業・商業施設の誘致と受け皿づくりの推進**

企業のニーズを的確に把握し、その意向を踏まえた誘致活動や県が指定する「工業系ゾーン」を活用した用地の確保を進めることで、市内外からの新たな企業や商業施設の誘致を促進します。

(1) 地権者との調整等を通じた用地の確保

(2) 効果的な PR・誘致活動に向けた企業への意向調査の実施

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2)	新規に工場立地が進んだ土地の面積 ※企業の市内外は問わない	ha	ha	ha

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ 若者の流出を防ぎ、市内で生活が完結できるよう、働く場所の確保に向けた企業や商業施設の誘致を強化してほしい。 □ 市の更なる発展のために、積極的な企業誘致を推進してほしい。
-------------	---

施策目標 **2****農商工業の振興を進め、まちの賑わいを創出します****“目指す姿”**

農業・商業・工業がそれぞれの特色を活かして連携し、地域資源を活かした新たな仕事や価値が生まれるとともに、担い手や事業者がいきいきと活躍する、地域の産業が元気なまち

■現状と課題**01**

- 産業の活性化は、地域経済の持続的な発展や市民の働く場や生きがいの創出にもつながるため、農・商・工など各産業の振興と相互の連携を進めていくことが重要です。
- 本市において農業は欠かすことのできない産業ですが、生産者の高齢化や後継者不足による担い手の減少が見込まれます。市民アンケート調査においても、「新規就農や若年層への農業経営の支援」や「安定した農業経営を維持するための基盤整備や支援」を求める声が多く、農業の担い手の確保・育成や、安定した経営を支える取組を進めることが必要です。
- 本市には「薑工業団地」を中心とした産業集積が形成されている一方、市内の事業所の多くは中小企業が占めています。地域経済や雇用を支える産業基盤を維持・発展させるため、地域産業の育成・活性化を図る必要があります。
- 市内にある「道の駅ふたかみパーク當麻」「道の駅かつらぎ」という2つの道の駅をはじめとする地域資源を活用し、農商工業連携の促進や販路拡大に取り組むことで、交流やにぎわいの創出につなげていくことが求められます。

02

- 地域の活性化に向けては、市内の企業・事業所の増加を促進するとともに、市内での雇用機会を創出し、身近な地域で働ける環境を整えていくことが重要です。
- 本市では企業の雇用を促進するための補助等の支援策が少ないことから、今後、企業や事業者への支援を充実させることが重要です。新たな創業を促進し、創業前から開業後まで切れ目なく支援するとともに、地域の事業者と求職者を結びつけ、人材の確保や働きやすい環境づくりを進める必要があります。

■具体の取り組み**01****1. 地域資源を活かした産業の振興**

将来にわたり地域の産業が受け継がれ、農業・商業・工業の連携によって地域の資源が新たな価値へとつながるよう、持続可能な産業振興と地域ブランドの確立を進めます。

- (1) 耕作放棄地対策としてのゆず栽培の推進
- (2) 将来の安定的な産業の実現に向けた担い手への支援
- (3) 道の駅を活かした農商工連携の推進

2. 産業を支える創業・人材雇用の推進

新たな事業への挑戦を地域全体で支えるとともに、安心して働ける場と働きやすい環境を整えることで、活力とにぎわいのある地域産業へとつなげます。

- (1) 創業前から創業後までの一貫した創業支援
- (2) ワンストップ窓口の設置による相談・サポート体制の充実
- (3) 県内外からの求職者マッチングによる人材確保と雇用環境の改善

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2)	耕作放棄地面積	ha	ha	ha
1-(2)	認定新規就農者数	人	人	人
1-(3)	2つの道の駅の売上高	円	円	円
2-(1)	創業者数	人	人	人
2-(2)	新規創業者相談件数	件	件	件
2-(3)	地域事業者と県内外からの求職者の マッチング件数	件	件	件

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城農業振興地域整備計画
- ◆ 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想

市民の声

- 農業に興味を持ち後継者として定着できるよう、技術指導や耕作放棄地の整備などの支援体制を整えてほしい。
- 特産品の開発や宣伝を通じて、市の知名度向上と産業活性化を図ってほしい。
- 若者が働きやすい環境を整備することで、若年層の流入と定着を促進してほしい。

施策目標 **3**地域の魅力向上と情報発信、宿泊施設の誘致を進め、
シティプロモーションの充実を図ります

“目指す姿”

相撲をはじめとする豊かな地域資源の魅力発信を通じて、新たなにぎわいとつながりを生み出し、多くの人が訪れ関わりたくなるまち

■現状と課題

01

- 「相撲」に関するコンテンツや、知名度が高まりつつある芝桜（しあわせの森公園）など、本市ならではの地域資源を活かした誘客とさらなるPRが求められます。
- 地域の食材を使ったオリジナルのちゃんこ鍋レシピを競う「けはやちゃんこ鍋コンテスト」は、令和8年度で4回目の開催となり、地域に定着しつつあります。相撲文化と地域の食を結びつける取組として継続し、地域ブランドの確立につなげていくことが必要です。
- 滞在型・体験型の観光を充実させるうえで、観光商品の開発に不可欠な地域内事業者の協力や、市内に不足する宿泊施設の確保が重要となっています。
- 日本遺産の竹内街道や葛城修験など、複数の自治体と連携した広域的な取組を進めていますが、プロモーションが不足しており、世界遺産との連携など注目を集める施策が必要です。

02

- 認知度の向上や交流人口・関係人口の拡大に向け、地域資源の魅力発信やシティプロモーションの充実が求められています。情報発信の目的は「周知（知らせること）」から「ファンの獲得」へと変化しており、伝えて終わりではなく本市を応援してもらえるような発信へと工夫していくことが大切です。
- ふるさと納税は本市の特産品や魅力を全国へ発信する有効な機会です。返礼品の充実、効果的な情報発信、寄附者との継続的な関係づくりといった課題への対応を進めるとともに、企業版ふるさと納税の活用に向けても取り組んでいく必要があります。

■具体の取り組み

01

1. にぎわいと交流を生む観光の振興

相撲をはじめとする地域資源を磨き上げ、周遊しやすい環境を整えるとともに、広域的な連携を進めることで、市内外からの誘客を図ります。

(1) 相撲発祥の地としてのブランド力の向上

- (2) 周遊コースの形成やシェアサイクル導入等による市内周遊観光の充実
- (3) 日本文化を体験する観光の振興によるインバウンドの誘致
- (4) 大和まほろば相撲連絡協議会、葛城地域観光協議会等との広域連携による誘客推進
- (5) 宿泊施設の誘致に向けた検討・環境整備

2. ファンを増やすシティプロモーション

ふるさと納税をはじめとする多様な手段を通じて、本市の魅力を広く発信し、関係人口の拡大を進めます。

- (1) 地域の魅力・特産品の発信にむけたふるさと納税の活用
- (2) 地域課題の解決や地域の活性化に向けた企業版ふるさと納税の活用
- (3) 戦略的な情報発信とシティプロモーションの推進による関係人口（ファン）づくり

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2) 1-(3) 1-(4) 1-(5)	観光客入込客数	人	人	人
1-(1) 1-(3)	相撲館来場者数 (うち、インバウンド来場者数)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
2-(1) 2-(3)	ふるさと納税寄附件数	件	件	件
2-(2)	企業版ふるさと納税寄附企業数	社	社	社

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ 相撲発祥の地として、大相撲葛城（當麻）場所の開催など、地域を活気づけ市内外から人を呼び込む施策を実施してほしい。 □ 當麻寺や二上山などの美しい場所をさらにアピールし、観光客が滞在できるような宿泊施設の整備を検討してほしい。 □ 葛城市の魅力をより多くの人に知ってもらえるような取り組みを強化してほしい。 □ 葛城市といえばこれ、と言えるような自慢できる特産品を開発・周知してほしい。
------	---

	い。 □ 「蓮花ちゃん」を積極的に活用し、認知度を高めてほしい。 □ マンホールカードなど、遠方からでも訪れたいくなるような収集要素を取り入れたプロモーションを検討してほしい。
--	--

施策目標 **4**

「暮らしやすく住みたいまち」の実現を図ります

“目指す姿”

道路や公共交通などの交通基盤と上下水道が整い、市内外への移動や日々の暮らしを支える安全・安心な環境が確保され、将来にわたり誰もが安心して暮らし続けられるまち

■現状と課題

01

- 道路や鉄道は、交流・産業振興・生活を支え、避難路としての防災機能も担う重要な都市基盤です。本市は近鉄南大阪線・御所線、JR 和歌山線が通るほか、南阪奈道路のインターチェンジもあり、大阪都心や関西国際空港へのアクセスが良い、交通ネットワークに恵まれたまちです。この強みを今後も活かしていくため、継続的・効率的な整備・保全が必要です。
- 一方で、市民アンケートでの交通の満足度は低く、特に高齢化の進行が見込まれる山間部や勾配のある地域では日常の移動についても考えていくことが重要です。都市間交通を担う鉄道や日常生活の移動手段である路線バスやコミュニティバスなど、公共交通サービスの再編に取り組む必要があります。

02

- 葛城山系の豊富な湧水を水源とする本市には、県内でも有数の低廉な水道料金という大きな強みがあります。しかし近年の少雨・渇水により自己水源だけでは水量を確保しにくく、奈良県広域水道企業団からの受水量が増えており、水道事業の経営に影響が出ています。
- 上下水道ともに今後、施設・管路の老朽化が進むことで、業務を効率化しても、なお更新費用の増大が想定されます。下水道につきましては、低廉な料金体系を維持しておりますが、必要経費を使用料で賄いきれず、現在も一般会計から不足分を補填しています。上下水道ともに今後の物価上昇による維持管理費等の増大も見込まれるため、会計規模のスリム化を図り、負担の少ない枠組みを構築することが求められます。

■具体の取り組み

01

1. 誰もが移動しやすい交通環境の整備

道路や公共交通などの交通基盤の充実を図り、将来にわたり安全で快適な移動環境を確保するとともに、市内の移動や市外へのアクセスを支える持続可能な交通手段を確保し、誰もが移動しやすいまちをつくります。

- (1) 基幹道路や駅前道路とその他の道路・橋梁の整備・維持管理
- (2) 地域のニーズに応じた公共交通の利便性向上
- (3) 各地域・各世代の状況に応じた新しい交通サービスの検討

2. 安全・安心な上下水道の安定供給

安全・安心な上下水道を将来にわたり安定して提供するため、ストックマネジメントに基づく計画的な維持更新や水源の保全を進めるとともに、低廉な料金の維持におけた健全な経営の確保を図ります。

- (1) 業務の効率化と的確な収支見通しによる健全な水道事業経営
- (2) 新たな水源の確保・開発と、取水関係大字の協力による低廉な料金の維持
- (3) 水洗化・下水道接続の啓発と、未接続世帯への普及促進
- (4) 老朽化に備えた必要な維持改修・効率的な点検調査の実施と耐震化の推進

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1)	市道舗装率	%	%	%
1-(2) 1-(3)	公共バスの年間利用者数	人	人	人
2-(1) 2-(2) 2-(3)	経常収支比率	水道事業% 下水道事業%	水道事業% 下水道事業%	水道事業% 下水道事業%
2-(4)	管路の更新率	%	%	%
2-(3)	下水道水洗化率	%	%	%
2-(4)	避難所等の重要施設に接続する下水道管路等の耐震化率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市橋梁長寿命化修繕計画
- ◆ 葛城市都市計画マスタープラン
- ◆ 葛城市立地適正化計画
- ◆ 葛城市水道ビジョン
- ◆ 葛城市水道事業経営戦略（仮称）
- ◆ 葛城市上下水道耐震化計画
- ◆ 葛城市公共下水道事業経営戦略
- ◆ 葛城市公共下水道ストックマネジメント基本計画

- ◆ 葛城市上下水道耐震化計画
- ◆ 葛城市生活交通ネットワーク実施計画

市民の声	□ 歩行者や自転車が安心して通行できるよう、歩道や路面の修繕を計画的に進めてほしい。 □ 公共交通について、通勤・通学の利便性を高めるために運行本数を増やしてほしい。 □ 予約型乗り合いタクシーの充実などの取組も強化してほしい。 □ 生活の基盤となる上下水道料金が低廉で維持されるよう、負担を抑えてほしい。 □ 下水道が未整備の地域について、整備を推進してほしい。
--------------------	--

政策目標 **4**

生活における確かな安全と安心

政策目標 4 キーワード	・ 安全安心	・ 地域の絆	・ 命を守る	・ いざというときの備え
	・ 防犯	・ 防災	・ レジリエンス（備えて・抑えて・立ち直る）	
	・ 情報伝達体制	・ 日頃のコミュニティ		

政策目標 4 関連データ等
項目調整中

施策目標 **1****絆で守り安心の輪を広げる、地域みんなの防犯力強化に取り組みます****“目指す姿”**

市民・地域・行政・警察等が力を合わせて防犯・交通安全に取り組むことで、犯罪や交通事故への不安が少なく、誰もが安心して暮らせるまち

■現状と課題**01**

- 特殊詐欺や SNS を利用した犯罪など、手口の巧妙化・多様化が進んでいます。一人暮らしの世帯や子どもを狙った犯罪も後を絶たず、地域ぐるみで防犯意識を高めていくことが重要です。
- 市民アンケートでも「治安の良さ」や「犯罪や事件が少なく安全・安心であること」への評価・期待が高く、犯罪を未然に防ぐ環境の整備と、被害に遭いやすい高齢者や子どもの防犯意識を高める取り組みが求められています。

02

- 本市には国道・県道などの幹線道路が通っており、交通量の多い路線や交通事故への注意が必要な道路も多いため、子どもの通学路や高齢者の通行への配慮が必要です。
- 道路交通法の改正により自転車利用者の交通意識の向上が求められるとともに、安全運転支援システムや自動運転技術の開発が進む中、自動車・自転車・歩行者それぞれが安全に通行できる交通環境の確保が求められています。

■具体の取り組み**1. 地域ぐるみで進める防犯力の強化****01**

市民・地域・警察などの関係機関が連携し、地域ぐるみの見守り活動や防犯環境の整備、特殊詐欺などの犯罪被害の防止に取り組み、犯罪が起こりにくく、安心して暮らせる地域づくりを進めます。

- (1) 子どもの安全を守る見守りの充実
- (2) 防犯灯・防犯カメラの整備支援等による防犯環境の充実
- (3) 地域住民が主体となった自主防犯活動の促進と、警察・関係機関との連携強化
- (4) 特殊詐欺や悪質商法などの被害防止に向けた啓発・普及促進

2. 安全で安心な交通環境の確保

警察や関係機関と連携し、交通安全意識の向上や交通安全施設の整備を進めるとともに、誰もが安心して移動できる安全な交通環境づくりを進めます。

- (1) 警察をはじめとする関係機関と連携した、地域の交通安全対策の推進
- (2) 広報誌や交通安全教室などを通じた交通安全意識の向上に向けた啓発
- (3) 地域の実情に応じた交通安全施設の整備と安全な道路環境づくり

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2) 1-(3) 1-(4)	刑法犯認知件数	件	件	件
1-(2)	防犯カメラ設置台数	台	台	台
2-(1) 2-(2) 2-(3)	交通事故発生件数	件	件	件
2-(1) 2-(3)	交通安全対策要望対応率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ 防犯カメラの設置箇所を増やし、犯罪の抑止力を高めてほしい。 □ 安全運転意識・歩行者意識を高めるための教育をもっとするべきだ。危ないときがある。 □ 歩行者や自転車にとって危険な箇所も多い。整備を進めてほしい。
------	---

施策目標 **2**

防災体制の強化や災害時の対応力向上を図り、災害に強いまちづくりを推進します

“目指す姿”

行政による防災・消防体制確保と、市民・地域の日ごろからの備えにより、災害や火災から命と暮らしを守り、安心して暮らし続けられる災害に強いまち

■現状と課題

01

- 南海トラフ地震が今後 30 年以内に高い確率で発生するとされています。本市は当該地震の防災対策推進地域の指定を受けており、中央構造線断層帯付近にあることを踏まえた対策を進めていく必要があります。
- 市民アンケートでは、市の良いところとして「災害が少なく安全」と回答する方が多い一方、「災害への備え」の施策の重要度は高いです。
- 大規模地震の発生と合わせ、気候変動の影響による自然災害の激甚化・頻発化も懸念されるなか、災害に強いまちづくりが求められています。

02

- 災害時には行政による公助だけでなく、市民や地域による共助が重要ですが、消防団をはじめとする地域防災の担い手の維持・確保が課題となっています。
- 平時から災害に備えるため、地域や関係機関と連携しながら防災・減災対策を進める必要があります。

03

- 火災による被害を最小限に抑えるためには、奈良県広域消防組合による消防活動に加え、地域に密着した消防団の活動が重要です。
- 消防団員の人員確保についても課題となっており、地域消防力の維持・強化に向けた取り組みが求められています。

■具体の取り組み

01

1. 災害への備えと対応力の強化

大規模地震等の災害の発生に備え、市民が安全に避難できる体制や防災マップ等の情報伝達の仕組みを整えることで、災害に強いまちづくりに取り組みます。

- (1) 南海トラフ地震など大規模災害への備えと周知
- (2) 避難体制・防災拠点機能の充実と備蓄の確保

02

2. 地域防災の担い手育成と防災意識の向上

公助・自助・共助が連携した地域防災体制をつくるため、地域防災の担い手の確保・育成を進めるとともに、平時からの備えに向けた市民の防災意識の向上を図ります。

- (1) 消防団員・防災士など担い手の確保・育成
- (2) 自主防災組織の育成・活動支援による活動基盤の強化
- (3) 平時からの防災訓練・防災教育の実施と防災意識の啓発

03

3. 消防体制の充実と火災予防

広域消防と消防団が一体となった消防体制の充実を図るとともに、地域消防力の維持・強化や火災予防対策を推進し、火災による被害の軽減と市民が安心して暮らせるまちづくりを進めます。

- (1) 奈良県広域消防組合と消防団の連携による消防力の確保
- (2) 予防消防の実施による火災の未然防止

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(3) 2-(2) 2-(3)	災害訓練実施件数 (うち、クラウド型被災者支援システムを活用した訓練件数)	件 (件)	件 (件)	件 (件)
1-(2)	防災備蓄品充足率	%	%	%
2-(1)	防災士育成数	人	人	人
2-(1) 3-(1)	消防団員数	人	人	人
3-(1) 3-(2)	年間出火件数	件	件	件

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市地域防災計画
- ◆ 葛城市国民保護計画
- ◆ 葛城市地震防災対策アクションプログラム
- ◆ 葛城市受援計画
- ◆ 葛城市耐震改修促進計画

市民の声	□ 南海トラフ地震等の大規模災害が発生した際、市民がどのように行動すべきか、具体的な対策を明確に提示してほしい。 □ 緊急時に必要な情報が途切れることなく、かつ簡潔に伝達される仕組みを整えてほしい。 □ 防災行政無線を活用して、平時から防犯・防災に関する情報を発信するなど、市民全体の防災意識を高める工夫をしてほしい。 □ 地域消防力の維持・強化のため、消防団活動などに参加しやすい環境を整え、若い世代の参画を促進してほしい。
--------------------	--

政策目標 5

みんなで取り組む持続可能なまちづくり

政策目標 5 キーワード	・ 市民が主役	・ 協働	・ 共創	・ 参画
	・ 広報広聴	・ 情報発信	・ 公民連携	・ 多様な主体で連携
	・ デジタル	・ D X	・ 便利な窓口	・ サービスの向上
	・ 行財政運営	・ ファシリティマネジメント（施設の維持管理）		

政策目標 5 関連データ等
項目調整中

施策目標 **1****多様な主体と協働し、市民が主役のまちづくりを進め、
未来まで続く市政の実現を図ります****“目指す姿”**

市民の「知りたい」と市政の「伝えたい」がつながる広報・広聴を通じて、世代や属性を超えた対話と協働が広がり、市民が主役となって未来をみんなでつくるまち

■現状と課題**01**

- 市の情報発信への満足度は、市民アンケートで66.3%となっており、情報の入手手段は約7割が広報誌となっています。一方で、今後積極的に活用したい媒体として、デジタル媒体を挙げる声も多く、多様な情報発信手段へのニーズが高まっています。
- SNSなど情報通信手段の多様化により、市民は情報の「受け手」と同時に、「発信者」としてまちづくりに関わる機会が広がっています。こうした変化を踏まえ、多様な手法で市民の声を聴き、市政に反映していく広聴の充実が求められています。
- 行政と市民、地域団体などがそれぞれの強みを生かしながら、協働してまちづくりを進めることの重要性が高まっています。市民の声や想いが地域の活動やまちづくりにつながるよう、市民活動の活性化が必要です。

02

- 市民ニーズや地域課題が多様化・複雑化する中、行政には限られた経営資源の中で、質の高い行政サービスを持続的に提供することが求められています。
- 職員一人ひとりが自律的に学び続けられる環境を整えるとともに、多様化する行政課題に対応できる資質・能力の向上を図り、市民目線に立った行政サービスの提供につなげていくことが必要です。

■具体の取り組み**01****1. 市民との対話と協働によるまちづくり**

様々な媒体を活用し、対象者の属性や情報の特性に応じた効果的な情報発信を進めます。また、多様な手法で市民の声を聴き、市政に反映する仕組みづくりや反映状況の発信に努めるとともに、市民活動への支援を通じて、多様な主体が主体的にまちづくりに参画できる環境づくりを進めます。

(1) 多様な媒体を活用した情報発信の充実

- (2) 市民の声を聴いて市政に反映する仕組みづくり
- (3) 市民が主役のまちづくりに向けた市民活動支援事業の実施

2. 人材育成と組織力の向上

多様化・複雑化する行政課題に対応し、持続可能な行政運営を支えるため、外部研修機関等や e ラーニングを活用した職員の自律的な学びを促進するとともに、市民目線を持ち、多様な主体と協働できる職員の育成と、働きやすく活力ある組織づくりを進め、質の高い行政サービスの提供につなげます。

- (1) 職員の資質・能力の向上
- (2) 市民とともに、変化する行政課題に柔軟に対応できる職員の育成

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1)	市ホームページアクセス数	件	件	件
1-(1)	市公式 SNS 登録者数	人	人	人
1-(2)	市政フォーラムの開催回数	回	回	回
1-(3)	市民活動支援事業採択数	事業	事業	事業
2-(1) 2-(2)	職員研修受講者率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ 文章が長く読みづらい場合があるため、視覚的に分かりやすく簡潔な内容で発信するよう工夫してほしい。 □ タウンミーティングや地区懇談会を定期的に行い、市長や職員が直接地域に出向いて市民の生の声を聞く機会を増やしてほしい。 □ 職員の専門性やスキルの向上に努め、市民からの困り事に対して的確かつ迅速な対応ができるようにしてほしい。
------	---

施策目標 **2****経営的な視点をもって、効率的で持続可能な行財政運営を図ります****“目指す姿”**

必要な行政サービスを将来にわたり提供できるよう、経営的な視点を持った持続可能な行財政運営で、次世代に過度な負担を残さないまち

■現状と課題**01**

- 人口構造の変化に伴う社会保障関係経費の増大や、公共施設の老朽化に伴う維持管理・更新経費の増加が見込まれる中、行政課題や市民ニーズを踏まえた適正な財源配分と、限られた財源の効果的・効率的な活用による持続可能な行財政運営が求められています。

■具体の取り組み**01****Ⅰ. 持続可能な財政運営と公共施設マネジメント**

将来にわたり必要な行政サービスを安定的に提供していくため、限られた財源や施設等の資産を効果的・効率的に活用し、健全で持続可能な行財政運営を推進します。

- (1) 健全な財政運営の推進と適切なサービス提供
- (2) ファシリティマネジメント（公共施設の適正管理）の推進
- (3) 民間活力を活用した施設整備・運営の検討・導入

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
I-(2)	市内各施設の要改善（修繕）箇所の対応数	箇所	箇所	箇所
I-(3)	民間活力の導入に向けたサウンディング実施件数	件	件	件

※数値は今後調整

関連施策 No.	モニタリング指標名	R6 現状値	目指すべき方向性
I-(1)	実質公債費比率*	7.5%	可能な限り抑制に努める

I-(1)	将来負担比率*	5.1%	可能な限り抑制に努める
-------	---------	------	-------------

*：この指標は、市の財政状況を確認するための目安であり、数値の達成を目的とするものではない。適切な行財政運営が行われているかを確認するための参考指標として位置付け。

■関連計画

- ◆ 葛城市公共施設等総合管理計画

市民の声	□ 不要な施設を的確に判断し、財政負担のバランスを適正化してほしい。 □ 既存の公共施設における老朽化した設備の故障放置をなくし、適切な維持管理予算を確保して長寿命化を図ってほしい。 □ 市役所運営や施設整備等、民間の感覚を取り入れた効率的な運営と専門性の向上を図ってほしい。
------	--

施策目標 **3****技術を活用したもっと使いやすい行政サービスの提供に取り組めます****“目指す姿”**

デジタル技術で一人ひとりの暮らしをより良くし、市民の利便性向上と効率的な行政運営を進めることで、誰もが必要な行政サービスを便利に安心して利用できるまち

■現状と課題**01**

- 市では、総合窓口課においてワンストップサービス（複数の手続きを一つの窓口で受け付ける仕組み）を実施し、市民の利便性向上に取り組んでいます。
- 一部の証明書はオンラインで申請でき、マイナンバーカードを用いたコンビニ交付などデジタルの活用も進んでいます。一方で、来庁しないと完結しない手続きや、対応できるサービスに限られる分野もあり、アナログな運用が一部に残っています。
- デジタル機器の操作に不安のある市民も多く、デジタルデバイド（情報格差）への対応が求められます。

02

- 標準準拠システムへの移行（基幹業務システムを国の仕様に合わせ、業務の効率化などを図るもの）は完了しており、今後は経費削減に向けて取り組んでいくことが重要です。
- デジタルを活用した業務の見直しや効率化、データを活用した政策検討に取り組むことで、より良い行政運営につなげていくことが重要です。あわせて、情報セキュリティ対策の強化や、デジタル人材の育成・確保に向けた取組も重要です。

■具体の取り組み**01****1. デジタルを活用した便利で負担の少ない行政サービスの提供**

市民が来庁しなくても手続きを完結できるよう、行政手続のオンライン化を進め、いつでもどこでも手続きができる環境を整えます。窓口を利用する際も、手続の負担を減らし、簡単で分かりやすいサービスへと改善します。あわせて、デジタル機器の操作に不安のある市民への支援にも取り組み、誰もが利用しやすい行政を目指します。

- (1) オンライン申請・書かない窓口の導入による利便性の向上
- (2) 安心して便利に使えるマイナンバーカードの利用拡大
- (3) 誰一人取り残さないデジタル推進

2. 業務改革とデータ活用による行政運営の高度化

標準準拠システムへの移行を土台に、セキュリティ対策の強化も図りつつ、デジタルを活用した事務の効率化・高度化を進め、より良い行財政運営につなげます。

(1) デジタルやデータを活用した業務改革・政策検討

(2) DX を支えるデジタル人材の育成・確保

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1)	書かない窓口システム導入による、 窓口業務の手続き時間削減	時間	時間	時間
1-(1)	電子申請が可能な事務手続きの数の 増加	種類	種類	種類
1-(2)	マイナンバーカードを活用できる行 政サービス数	種類	種類	種類
2-(1)	デジタル技術等を活用し、業務改革 を行った事務・事業件数	件	件	件
2-(2)	DX 関連の研修の受講者数	人	人	人

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ デジタル化に取り残されないよう、講習会などのサポート体制を充実させてほしい。 □ 他自治体の画期的な DX の取り組みを積極的に参考にし、導入を検討してほしい。
------	---

政策目標 6

人と自然に優しい住環境

政策目標 6 キーワード	・ 環境保全	・ 自然共生	・ 山麓の恵み	・ 美しい景観
	・ 環境負荷低減	・ 循環型社会	・ 緑化	・ 脱炭素（ゼロカーボン）
	・ 快適性	・ 住み続けたい		

政策目標 6 関連データ等
項目調整中

施策目標 **1****地球のこれからのために環境負荷の低い循環型社会の形成を図ります****“目指す姿”**

つくって捨てるだけの消費型社会から脱却し、資源の循環と消費の抑制を進めることで、環境への負荷が少ない循環型社会の実現を目指すまち

■現状と課題**01**

- 本市では、家庭系・事業系ごみの排出量が増加傾向にあり、持続可能なごみ処理体制の維持に向けて、ごみの減量化や再資源化を一層推進していくことが求められています。
- ごみの処理にかかる経費を削減し、今後ごみの無料化を継続していくためにも、ごみの発生抑制や資源の有効活用を進めることが重要です

02

- 限られた処理能力のなかでごみを適切に処理していくには、ごみの減量化・再資源化の取り組みをこれまで以上に推進する必要があります。
- 近年は、プラスチック製品やリチウム蓄電池など新たに分別・処理への対応が求められる品目も増えており、適正な処理の元で資源として社会のなかで繰り返し使われていく仕組みづくりが求められています。

03

- 【リデュース：ごみを減らす】【リユース：再使用する】【リサイクル：資源にする】【リフューズ：不要なら受けとらない】【リペア：修理して使う】【レンタル：買わずに借りる】の「6 R」の考え方を広く浸透させ、一人ひとりの行動につなげるとともに、市民・事業者・行政が一体となって環境負荷の低減に取り組んでいくことが重要です。

■具体の取り組み**1. ごみの減量化の推進****01**

市民・事業者・行政が連携し、ごみの減量化と発生抑制を推進することで、環境にやさしい取組の推進を図ります。

- (1) 市民と協力して進めるごみの発生・排出抑制の推進
- (2) 堆肥化や生ごみ処理機の活用による、生ごみの減量・資源化

2. 適正な処理の推進と資源循環の仕組みづくり

排出されたごみを適正に処理するとともに、資源として再び活かせるものの分別・回収・リサイクルを広げ、循環型社会の形成を進めます。

- (1) 分別方法や引き渡し方法の周知と適正な処理の実施
- (2) 再生可能な一般廃棄物の集団回収への助成、資源としての再利用の推進
- (3) 事業者への適正処理の指導と、監督・指導の強化

3. 環境教育・普及啓発による意識変容

ものを買う・使う・手放すそれぞれの場面で、環境に配慮した選択が自然に選ばれるよう、6Rの考え方を広め、環境教育と普及啓発を進めます。

- (1) 6Rの推進を視野に入れた環境教育・普及啓発の充実
- (2) 過剰包装の抑制・グリーン購入（環境に配慮した製品の購入）の推進

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2) 3-(1) 3-(2)	資源ごみを除く家庭系ごみ排出量	トン/年	トン/年	トン/年
1-(1) 2-(3) 3-(1)	一般廃棄物の排出量	トン/年	トン/年	トン/年
1-(2) 2-(1) 2-(2)	リサイクル率	%	%	%
2-(1) 2-(2)	最終処分率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 一般廃棄物処理基本計画
- ◆ バイオマスタウン構想
- ◆ 葛城市地球温暖化対策実行計画

市民の声

- リサイクルやSDGsの視点を大切にし、資源を無駄にしない社会づくりを推進してほしい。
- 若年層も参加しやすいゴミ拾いイベントなどを通じて、環境意識を醸成してほしい。

施策目標 **2****山麓地域の恵みと美しい自然とともに生きる環境保全の推進に取り組みます****“目指す姿”**

豊かな緑に彩られたまちなみのなかで、人と自然が身近に触れ合いながら共生し、豊かな環境を大切に次の世代へと受け継いでいくまち

■現状と課題**01**

- 本市は、葛城・二上山麓の森林や河川からなる豊かな自然に恵まれ、都市空間と田園・公園などの自然が調和した風景を有しています。こうした景観は、暮らしに潤いや安らぎをもたらし、地域の個性と活力を育みます。
- 不法投棄や屋外広告物などにより景観が損なわれることがないように努め、市民が親しみや心地よさを感じられる環境を守っていくことが必要です。

02

- 公園は、多くの市民が集い交流するコミュニティの場であるとともに、自然環境を守る緑地としての機能、災害時の避難場所、憩い・レクリエーションの場など、さまざまな役割を担っています。適切な保全・管理を通じて、次の世代へ引き継いでいくことが求められています。

03

- 近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、猛暑や豪雨などの自然災害が激甚化・頻発化しています。
- こうした状況を踏まえ、本市においても二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市民・事業者・行政が連携して脱炭素社会の形成に取り組む必要があります。

■具体の取り組み**Ⅰ. 良好な景観の保全と形成****01**

本市の魅力ある緑の豊かな景観を守り、育てるとともに、景観が損なわれることのないよう取組を進めます。

- (1) 自然と調和した景観の形成とその維持
- (2) 緑地の保全と緑豊かな景観の創出
- (3) 森林環境譲与税等を活用した適切な森林管理

2. 公園の管理と活用

02

公園を安全で快適な都市空間として適切に維持管理するとともに、憩い、交流、遊び、防災など多様な機能の充実を図り、市民に親しまれる公園づくりを進めます。

(1) 都市公園の役割に応じた機能向上・維持・管理

3. 脱炭素社会の実現

03

ゼロカーボンシティの実現に向け、市民・事業者・行政が協働し、再生可能エネルギーの導入と省エネ行動の浸透、森林による吸収を進め、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロをめざします。

(1) 市域における再生可能エネルギー導入の促進

(2) 施設におけるエネルギーの効率的な運用の推進

(3) 省エネ行動・デコ活の推進による脱炭素型ライフスタイルの普及

(4) 資源循環と森林整備による脱炭素化の推進

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(3) 3-(4)	森林経営管理計画策定面積	ha	ha	ha
1-(1) 1-(2) 2-(1)	一人あたりの公園面積	m ² /人	m ² /人	m ² /人
1-(1) 2-(1)	歩いていける公園整備率	%	%	%
3-(1) 3-(2) 3-(3) 3-(4)	市関係施設のCO ₂ 排出量	t _シ -CO ₂	t _シ -CO ₂	t _シ -CO ₂

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市地球温暖化対策実行計画
- ◆ 葛城市緑の基本計画
- ◆ 葛城市景観計画
- ◆ 葛城市森林整備計画

市民の声

□ 自然豊かなのどかな風景を、無秩序な開発によって損なわないよう守り続けてほしい。

	□ 市民が気持ちよく利用できる快適な公園を保ってほしい。 □ 温暖化対策も兼ね、植物や木々を増やし、緑豊かで明るい街並みを形成してほしい。 □ 持続可能なクリーンエネルギーの活用を検討してほしい。 □ 再エネ導入と自然保護のバランスを重視し、葛城市独自の美しい景観を守りながら脱炭素化を進めてほしい。
--	---

施策目標 **3**

いつまでも愛せる・「住み続けたい」を叶える快適な住環境を整備します

“目指す姿”

地域の資源や魅力を活かした、暮らしやすく持続可能な住環境のもと、人と地域がつながり、活力が生まれるまち

■現状と課題

01

- 本市の人口は現状、微増・維持の状態にありますが、今後人口減少や高齢化の一層の進展や、新たに転入する住民のための住宅地の整備が進むことで、地域のあり方も変容することが予想されます。時代の変化に即した地域づくりを進めていくことが重要です。

02

- 将来的な人口減少を見据えると、空き家の増加が懸念されます。管理が行き届かない空き家は、防災・防犯や景観などの面で地域に影響を及ぼすおそれがある一方、地域資源として有効に活用することで、移住・定住の受け皿となる可能性もあります。
- 守るべき文化やコミュニティが息づく市街化調整区域(市街地としての開発を抑える区域)内を含む、市民の暮らしや住環境の維持に向けた取り組みも求められています。

03

- 将来にわたり地域の活力を維持するためには、移住・定住の促進が重要です。本市は交通の利便性や豊かな自然、歴史・文化、充実した子育て環境などの魅力を有していますが、それらが十分に知られておらず、移住先としての情報発信を強化する必要があります。
- 移住した方が安心して地域に溶け込み、住み続けられるよう、つながりづくりを支えていくことも大切です。

■具体の取り組み

01**1. コンパクトで機能的なまちづくり**

今後の人口動態を踏まえ、日常生活に必要な機能と住まいを適切に配置し、暮らしやすく利便性の高いまちづくりを進めます。

(1) 都市機能・居住の適正な誘導・配置

02**2. 空き家の活用と住環境の維持**

空き家の適正な管理と発生の抑制を図りながら、移住・定住の受け皿としての活用を進めるとともに、集落の住環境を守り、住みやすい住環境・暮らしを次の世代へつないでいきます。

- (1) 良好な住宅地の形成と住環境の維持・確保
- (2) 空き家の適正管理と流通・利活用の推進

03

3. 誰もが住みたい・住み続けたいまちづくり

本市の暮らしの魅力を広く発信して移住・定住を促すとともに、移り住んだ人が地域に溶け込み、誰もが安心して住み続けられる環境づくりを進めることで、将来にわたって地域の活力を維持します。

- (1) 本市での暮らしの魅力発信による移住・定住促進
- (2) 移住フェア参加や動画等の情報発信を活用した移住促進プロモーションの展開
- (3) 移住者が地域に溶け込みやすい環境づくりによる地域コミュニティの維持

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 2-(1)	葛城市の新規開発戸数	戸	戸	戸
2-(2)	管理不全空家件数	件	件	件
3-(1) 3-(2) 3-(3)	人口の社会増減数	人	人	人

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 葛城市立地適正化計画
- ◆ 葛城市都市計画マスタープラン
- ◆ 葛城市空家等対策計画

市民の声	□ 空き家をリノベーションした古民家カフェや民宿としての活用を支援し、地域の活性化につなげてほしい。 □ 空き家バンクの充実やマッチング支援を強化し、移住者が古民家へ住みやすい環境を整えてほしい。
------	---

政策目標 7

誰もが尊重し合う、心豊かな社会

政策目標 7 キーワード	・ 歴史文化伝統 ・ 生涯学習 ・ 人権尊重 ・ 多様性 ・ 継承 ・ 文化芸術 ・ 男女共同参画 ・ 多文化共生 ・ シビックプライド/郷土愛 ・ スポーツ ・ ジェンダー ・ 誰もが活躍
-------------------------	--

政策目標 7 関連データ等
項目調整中

施策目標 **1****郷土愛あふれる地域を創る歴史文化の継承に取り組みます****“目指す姿”**

市民一人ひとりが継承の担い手として文化財の保存と活用に関わり、地域の歴史とそれを育んだ地域社会を、次の世代へと持続的につないでいくまち

■現状と課題**01**

- 文化財は、本市や地域の歴史と文化を今に伝えるものであり、魅力あふれる地域づくりの基礎となるとともに、地域コミュニティの活性化にも寄与するなど、幅広い分野に活かすことのできるものです。
- アンケート調査の結果を見ると、歴史遺産に対する市民の満足度・重要度は必ずしも高いとはいえない状況にあります。文化財の保存と活用を進めるとともに、市民一人ひとりが地域の歴史文化への興味・関心を高められるような働きかけが必要です。

02

- 歴史文化を次世代へ継承していくうえで、その担い手として大きな力となるのが地域住民の皆さんです。ふるさとへの理解と愛着を深め、地域の歴史文化を守り育てる活動に主体的に参画いただくことが、地域社会の維持と発展のためにも欠かせません。
- 過疎化・少子高齢化の進行に伴い、こうした活動を支える担い手の確保が課題となっています。市民が参画しやすい環境づくりや、新たな担い手の育成が求められています。

■具体の取り組み**01****1. 歴史文化を守り、次世代へ継承する取り組みの推進**

地域に根付く文化や伝統、祭事などの維持・継承を図るとともに、歴史博物館を拠点とした学びや情報発信の充実を通じて、本市の歴史遺産の魅力や価値を広く発信します。

- (1) 地域の文化・伝統・祭事の維持・継承への支援
- (2) 講座・展示会の開催等による、歴史・文化・伝統の魅力・価値の発信

02**2. 歴史文化の継承を支える人づくり**

地域の歴史文化を次世代へつないでいく担い手の育成を図るとともに、市民が継承活動に主体的に参画できる環境づくりを進めます。

- (1) 市の歴史の語り部となる観光ボランティアの養成
- (2) 市民が継承の担い手として主体的に参画しやすい環境づくり

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1) 1-(2)	歴史博物館展示会観覧者数	人	人	人
1-(2)	歴史文化講座等参加者数	人	人	人
2-(1) 2-(2)	観光ボランティア登録者数	人	人	人

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ 市の歴史や伝統行事を、これからも大切に守り続けてほしい。 □ 葛城市ならではの歴史・文化を大切にする姿勢をこれからも持ち続けてほしい。 □ 歴史あるまちで育つ誇りを持ち、学業や文化活動を通じて豊かなまちづくりに貢献できる人材を育成してほしい。 □ 子どもたちが地域の歴史や文化に興味を持ち、自ら取り組めるような学習・体験の機会を提供してほしい。
------	---

施策目標 **2**

日常に輝きと潤いをプラスする活動を推進します

“目指す姿”

誰もが生涯にわたり学び、文化芸術やスポーツに親しみながら、人と地域とのつながりを育み、一人ひとりが心豊かにいきいきと活動できるまち

■現状と課題

01

- すべての市民が、障がいの有無や年齢、性別、技術レベルにかかわらず、身近な場所で気軽にスポーツに取りくめる環境づくりが求められています。
- スポーツ・レクリエーション・健康づくりへの関心を高めていくとともに、体育教育や生涯スポーツの振興を図ることが必要です。

02

- 人生 100 年時代を迎え、生涯を通じて学び続けることができる環境づくりや、文化芸術に親しむ機会の充実が重要となっています。
- 本市では、公民館等における講座や教室、文化芸術に関する事業を実施してきましたが、参加者の裾野をさらに広げるため、幅広い世代が気軽に学びや文化芸術活動に参加し、交流できる機会の充実を図ることが求められています。
- 生涯学習の場としても重要な図書館ですが、市民一人当たりの貸出冊数は横ばいの状況が続いているため、生涯にわたる読書習慣を身につけられるよう読書活動の推進が求められています。

03

- 本市は令和 9 年度にプレイスペース、市民活動センター、市役所窓口が一体となった複合施設「niconowa（ニコノワ）」を開設予定としています。
- 市の知と創造性の拠点となる新施設を活用し、市民ニーズや社会環境の変化に対応した多様な学びや交流の機会を創出するとともに、市民・地域団体・行政が連携した地域づくりを進めていくことが必要です。

■具体の取り組み

01

1. 誰もがスポーツに親しめる環境づくり

総合型地域スポーツクラブの活動や市民が参加できる各種スポーツ大会を通じた、誰もが身近にスポーツに親しめる機会づくりとスポーツを通じた健康づくりや交流を進め、生涯スポーツの振興を図ります。

- (1) スポーツ機会の創出と健康づくり意識の醸成
- (2) 各種スポーツ大会やニュースポーツの普及を通じた健康づくりの促進
- (3) スポーツ施設・拠点の機能向上と利用の促進

2. 生涯にわたる学びと文化芸術活動の推進

市民が文化芸術に親しむことのできる機会の充実や、いつでもどこからでも読書を楽しめる環境の整備をすすめることで、生涯にわたって学び・学習することができるよう取り組みます。

02

- (1) 講座・教室を通じた市民の学びの環境づくり
- (2) 芸術文化月間等における文化芸術活動への支援
- (3) 「ゆとり」「安らぎ」をもった芸術文化に触れる機会の充実
- (4) 多種多様な図書の収集による蔵書の充実
- (5) 電子図書館の利用促進による読書環境の拡充

3. 学びと交流の新たな拠点における市民協働の推進

複合施設「niconowa」を拠点に、生涯学習・市民活動支援の機能を活かした多様な学びや交流の機会を提供します。

03

- (1) niconowa を拠点とした多様な学びの機会の提供
- (2) 地域との連携による市民活動・交流への支援

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
2-(2) 2-(3)	芸術文化月間発表会等参加者数	人	人	人
1-(1) 1-(3)	体育施設の年間利用者数	延べ人	延べ人	延べ人
1-(1)	総合型地域スポーツクラブの会員数	人	人	人
1-(2)	各種スポーツ大会の参加者数	人	人	人
2-(1) 3-(3)	市内各分館等における移動講座の参加者数	人	人	3,100 人
2-(4) 2-(5)	市民一人あたり年間貸出冊数	5.1 冊	5.5 冊	5.7 冊
2-(1)	中央公民館・當麻複合施設	人	人	2,600 人

3-(1)	「niconowa」・地区館における各種定期教室講座の参加者数			
3-(2)	niconowa における地域団体・市民活動団体との協働事業数	件	件	件
2-(3)	新庄文化会館・當麻複合施設「niconowa」のホール稼働率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ なし

市民の声	□ 公園内にスポーツ設備を増やすなど、子どもたちが身近な場所で運動に親しめる環境を整えてほしい。 □ 本格的なスポーツ大会だけでなく、地域の人がもっと気軽に参加できるようなスポーツイベントを増やしてほしい。 □ 平日の日中だけでなく、仕事を持っている現役世代も参加できるような時間帯に、文化・芸術教室や講座を開催してほしい。 □ 楽しみながら知識を深められる環境を作ってほしい。 □ こどもたちの知的好奇心を満たすため、図書館の蔵書数や種類の充実をお願いしたい。
------	---

施策目標 **3****互いを尊重し認め合い、一人ひとりが輝ける豊かな社会の実現を図ります****“目指す姿”**

一人ひとりが互いを尊重して多様性を認め合いながら、誰もが自分らしく輝き、能力を発揮できるまち

■現状と課題**01**

- 人権教育・啓発や男女共同参画の推進に継続して取り組んでいますが、人権侵害や差別事象、性別による固定的な役割分担意識などの課題は依然として存在しています。
- 人権や男女共同参画に関する集会・セミナーへの参加者が固定化しており、幅広い市民への意識啓発の浸透が課題となっています。
- 性的マイノリティへの理解をより一層促進し、偏見や差別をなくすとともに、一人ひとりの多様性が尊重される社会づくりを進める必要があります。
- 外国人住民が増加する中、言語や文化の差異による摩擦や孤立を解消し、外国人住民を地域の一員として迎え入れ、相互の文化を尊重し合える地域づくりの推進が急務となっています。

02

- 誰もが能力を発揮し、希望に応じて社会で活躍できるよう、支援体制や環境整備を進めることは重要です。また、DV（配偶者などからの暴力）等、潜在化しやすい課題への早期支援につながる相談・支援体制の充実も必要です。
- 庁内における男性職員の育児休業取得者は大幅に増加したものの、管理職への女性登用や、審議会委員等における女性委員の割合については、目標達成に向けて更なる取組の強化が必要となっています。

■具体の取組み**01****1. 互いを尊重し、多様性を認め合う地域づくり**

一人ひとりが尊重され、性別や性のあり方、国籍などに関わらず互いを認め合える地域社会に向けて、教育・啓発と相互理解の取組を進めます。

- (1) 人権教育・啓発と情報発信の充実による人権意識の向上
- (2) 男女共同参画意識の醸成と情報発信
- (3) やさしい日本語教室などを通じた多文化共生・相互理解の推進

2. 誰もが自分らしく活躍するための支援・環境整備

誰もが能力を発揮して活躍できるよう、望むライフスタイルの実現に向けた就労や生活への支援、相談体制の充実と、仕事と家庭生活を両立できる環境づくりを進めます。

02

- (1) 誰もが能力を発揮し、望む働き方ができる環境づくり
- (2) 仕事と家庭生活（育児・介護等）を両立できる働きやすい環境づくり
- (3) 女性の社会参画・活躍や意思決定の場への参画の推進
- (4) DV等被害者や困難な問題を抱える女性への相談・支援体制の充実

■数値目標

関連施策 No.	指標名	基準値	中間目標値	目標値
1-(1)	人権集会等参加者数	人	人	人
1-(2)	男女共同参画セミナー等参加者数	人	人	人
1-(3)	日本語教室参加人数（ボランティア含む）	人	人	人
2-(3)	審議会等への女性登用率	%	%	%
2-(1) 2-(3)	管理的地位（課長相当職以上）にある職員に占める女性職員の割合	%	%	%
2-(2)	男女別の育児休業（2週間以上）取得率	%	%	%

※数値は今後調整

■関連計画

- ◆ 第2次葛城市男女共同参画基本計画
- ◆ 葛城市特定事業主行動計画

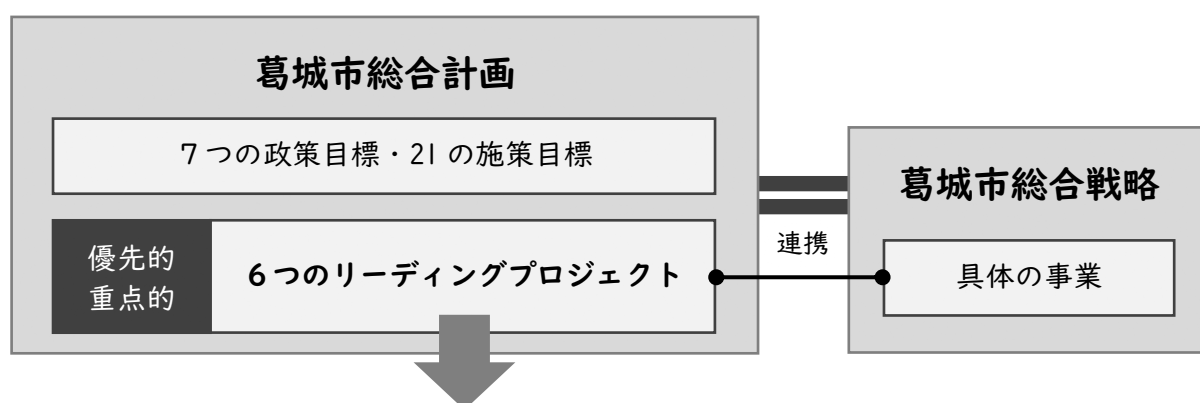
市民の声	□ 年齢や性別、国籍などで区別することなく、誰もが親切に助け合える優しいまちを目指してほしい。 □ 多様な背景を持つ人々が共生できるよう、正確な情報発信や市民への丁寧な説明を行ってほしい。 □ DVや虐待、劣悪な環境に置かれている人たちの存在を重く受け止め、彼らを見守り、救い出すための施策に注視してほしい。 □ 女性がキャリアを断念せずに済むよう、子どもの預かり等の支援を進めてほしい。
------	---

リーディングプロジェクト（重点政策）

本計画では、7つの政策目標・21の施策目標に基づき、本市が取り組むまちづくり全体的方向性を示しています（〇〇～〇〇ページ参照）。その中でも、人口減少や少子高齢化の進行、社会経済情勢の変化など、本市を取り巻く課題に的確に対応し、限られた財源や人員を効果的に活用しながら計画の成果を着実に実現していくため、特に優先的・重点的に推進する取組を「リーディングプロジェクト」として位置付けます。

リーディングプロジェクトは、本計画における重点的な取組の方向性を示すものであり、市が取り組むすべての分野に設定するものではありません。ここに掲げていない施策についても、基本計画に基づき、着実に推進していきます。

また、本計画では各リーディングプロジェクトの方向性を示し、これを実現するための具体的な事業については、「葛城市総合戦略」において整理し、計画的に推進していきます。



●旧當麻庁舎跡地エリアのにぎわいの創出

・商業施設の誘致や複合施設の整備により、地域経済の活性化や利便性の向上、市民活動の拠点整備を進めます。

●市民の命を守る防災対策の推進

・大規模災害に備え、受援体制や防災備蓄の整備を進め、災害時の対応力を強化します。

●尺土駅前整備事業（都市基盤の整備）

・葛城市の玄関口である尺土駅前を中心に基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進め、暮らしやすく住みやすいまちづくりを進めます。

●企業誘致・産業の創出

・企業誘致、産業の創出により地域経済を活性化させるとともに、働く場の確保を通じて定住促進や魅力あるまちづくりを推進します。

●葛城インターチェンジ周辺地区の活性化

・社会教育センター跡地の有効活用に向けた取組を進め、葛城インターチェンジ周辺地区を中心としたにぎわいを創出し、魅力向上を図ります。

●豊かな自然環境を活かした山麓地域の活性化

・山麓地域の自然環境を活用した観光事業による活性化を進めるとともに、美しい自然環境を維持するため耕作放棄地対策を進めます。

旧當麻庁舎跡地エリアのにぎわいの創出

商業施設の誘致や複合施設の整備により、地域経済の活性化や利便性の向上、市民活動の拠点整備を進めます。

関連政策目標

【人を呼び込む、活力と魅力あるまち】【みんなで取り組む持続可能なまちづくり】【誰もが尊重し合う、心豊かな社会】

プロジェクトの実施により実現したいこと

複合施設と商業施設を核として、市民、地域団体、事業者など多様な主体が集い、交流や協働が生まれる拠点を形成し、まちの魅力向上を実現します。

■プロジェクトの実施の方向性

1. 人と人がつながる市民活動と地域交流拠点の形成

複合施設と周辺商業施設を市民活動の拠点として活用し、日常の買い物や学び、活動、こどもの遊びを支える暮らしの利便性向上とにぎわいにあふれるエリアづくりを進めます。また、市民や地域団体、NPO、民間事業者の交流・連携を促進し、持続可能な拠点運営につなげます。

2. アクセシビリティと利便性を高める都市基盤の整備

當麻寺駅から複合施設や周辺商業施設へのアクセシビリティを高めるため、當麻寺駅前・役場線の道路改良を進め、安全で快適な歩行空間と車両通行空間を確保します。施設利用者の利便性を高めるとともに、市民活動や地域交流を支える都市基盤づくりと地域のにぎわい創出を推進します。

■数値目標

指標名	中間目標値	目標値
niconowa（當麻複合施設）の来館者数	人	人
當麻寺駅前・役場線道路整備事業に係る用地取得率	%	%

市民の命を守る防災対策の推進

大規模災害の発生に備え、防災・減災対策の推進や受援体制、防災備蓄等の充実を図ることで、災害対応力を強化し、安全・安心に暮らせるまちづくりを推進します。

関連政策目標

【生活における確かな安全と安心】

プロジェクトの実施により実現したいこと

災害被害そのものを小さくする減災の取り組みにより、安心して暮らせる環境を整えるとともに、大規模な災害が起こったときにも、支援の受け入れ体制や、物資・避難環境を確保することで、市民の生命と暮らしが守られるよう備えます。

■プロジェクトの実施の方向性**1. 支援を受け入れる体制の整備**

大規模災害の発生時に、国や県、協定事業者などからの人的・物的支援を円滑に受け入れられるよう、支援物資や応援部隊の受入拠点となる受援施設の整備を進めるとともに、関係機関との連携を強化し、迅速かつ円滑な災害対応が可能な体制づくりに取り組みます。

2. 備蓄の充実と避難環境の整備

災害時に必要となる食料や生活必需品の備蓄を計画的に進めるとともに、避難所の環境を整えるための資機材を確保します。避難が長期に及ぶ場合にも、市民が安心して過ごせる避難生活の環境づくりを進めます。

3. 浸水被害を未然に防ぐ治水対策の推進

集中豪雨などによる浸水被害を軽減するため、市内のため池を雨水を一時的にためる場として活用できるよう調整池化し、河川への流出を抑えることで、流域治水（川全体で治水する）に基づく災害に強いまちづくりを進めます。

■数値目標

指標名	中間目標値	目標値
災害時応援協定の締結数	件	件
支援物資の集積拠点整備数	箇所	箇所
防災備蓄品充足率	%	%
調整池化したため池数	箇所	箇所

尺土駅前整備事業（都市基盤の整備）

葛城市の玄関口である尺土駅前を中心に基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進め、暮らしやすく住みやすいまちづくりを進めます。

関連政策目標

【人を呼び込む、活力と魅力あるまち】

プロジェクトの実施により実現したいこと

市の玄関口である尺土駅を中心に、安全で快適な交通環境と利便性の高い都市基盤が整い、市内のどの地域からも移動しやすく、誰もが暮らしやすさを実感できるまちを実現します。

■プロジェクトの実施の方向性**1. 利便性の高い交通基盤の形成**

市の玄関口である尺土駅前において、駅利用者や市民が安全かつ円滑に移動できる環境を整えます。あわせて、（仮称）辨之庄木戸線をはじめとする幹線道路の整備を進め、市内各地からのアクセス性の向上を図ります。

2. 暮らしを支える地域公共交通の確保

人口減少や高齢化が進むなかでも、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、既存路線の見直しやデマンド交通の導入など、地域の実情に応じた移動手段を確保するとともに、交通事業者や地域と連携しながら、交通ネットワークの形成を推進します。

■数値目標

指標名	中間目標値	目標値
（仮称）辨之庄木戸線整備事業に係る用地取得率	%	%
尺土駅前周辺整備工事進捗率	%	%
公共バスの年間利用者数	人	人

企業誘致・産業の創出

企業や宿泊施設等の誘致、産業の創出により地域経済を活性化させるとともに、働く場の確保を通じて定住促進や魅力あるまちづくりを推進します。

関連政策目標

【人を呼び込む、活力と魅力あるまち】

プロジェクトの実施により実現したいこと

高速道路や幹線道路に恵まれた立地と、働きやすい環境が企業に評価され、新たな企業立地や宿泊施設等の誘致が進むことで、交流が促進し地域経済が活力を得て、若い世代にこのまちで働き、住み続けたいと思ってもらえるまちを実現します。

■プロジェクトの実施の方向性**1. 企業立地を促進するための基盤形成**

新町・柳原本線の道路改良整備の推進により、工業系ゾーン周辺の交通機能を高めます。物流や通勤の利便性の向上を図り、企業が立地しやすい環境を整え、新たな企業の進出につなげます。

2. 戦略的な企業誘致の推進

企業立地に関する企業の意向調査を行い、企業が求める条件を的確に把握します。その結果を踏まえ、関係機関と連携しながら企業が進出しやすい環境を整えると同時に、効果的な情報発信により、地域経済の活性化と雇用の創出につながる企業誘致を進めます。

3. 宿泊施設等の誘致による交流・滞在環境の充実

高速道路や幹線道路に恵まれた本市の立地特性を活かし、ビジネスや観光、交流など多様な目的で訪れる人の滞在を支える宿泊施設等の誘致を進めます。宿泊機能の充実を通じて、企業活動や地域内外の交流を促進するとともに、地域経済の活性化につなげます。

■数値目標

指標名	中間目標値	目標値
新町・柳原本線道路改良整備工事進捗率	%	%
市全体における新規に企業立地が進んだ土地の面積	ha	ha
企業への訪問件数	件	件
宿泊施設誘致による新規客室数	室	室

葛城インターチェンジ周辺地区の活性化

社会教育センター跡地の有効活用に向けた取組を進め、葛城インターチェンジ周辺地区を中心としたにぎわいを創出し、魅力向上を図ります。

関連政策目標

【人を呼び込む、活力と魅力あるまち】【人と自然に優しい住環境】

プロジェクトの実施により実現したいこと

市の資源を活かした拠点づくりと地域の魅力向上を図ることで、市内外から多くの人が訪れたくなるまちづくりを進め、交流人口の拡大と地域経済の活性化を実現します。

■プロジェクトの実施の方向性**1. 新たな拠点づくりとにぎわい創出**

奈良県社会教育センター跡地については、所有者である奈良県と連携し、民間事業者への情報発信や参入の働きかけを行いつつ利活用を進め、交流拠点の形成とにぎわいの創出を進めます。

2. 公園機能の向上と交流の場づくり

しあわせの森公園の景観資源を適切に維持管理し、訪れた人が心地よく過ごせる環境を守ります。また、交流機会の創出と訪れた人の滞在促進を図り、葛城インターチェンジ周辺地区を起点とした地域の活性化に向けて取り組みます。

3. アクセス向上と情報発信による観光・交流の強化

道の駅かつらぎの観光インフォメーションにおける、デジタルサイネージ（電子看板）等を活用した観光情報の発信や、高速バス停留所の整備による、関西国際空港方面とつながる広域交通ネットワーク強化に取り組み、さらなる交流人口の拡大を図ります。

■数値目標

指標名	中間目標値	目標値
奈良県社会教育センター跡地活用事業者の決定		
芝桜まつり来場者数	人	人
芝桜まつり来場者の満足度	%	%
多目的広場におけるイベント開催件数	件	件
道の駅かつらぎのデジタルサイネージ閲覧数	回	回

豊かな自然環境を活かした山麓地域の活性化

山麓地域の自然環境を活用した観光事業による活性化を進めるとともに、美しい自然環境を維持するため耕作放棄地対策を進めます。

関連政策目標

【人を呼び込む、活力と魅力あるまち】【人と自然に優しい住環境】

プロジェクトの実施により実現したいこと

豊かな自然環境と農村景観を地域の資源として活かし、農地の保全と新たな特産品づくり、自然を体感できる観光の場づくりを一体的に進め、持続可能な山麓地域の形成を実現します。

■プロジェクトの実施の方向性**1. 耕作放棄地を活用した新たな特産品づくり**

耕作放棄地の解消に向け、山麓地域を中心にゆずの植栽を進め、新たな産地の形成に取り組みます。あわせて、ゆずを使った加工品の開発や地域ブランド化を進めることで、山麓地域の魅力向上や観光・交流の促進につなげます。

2. 自然を五感で楽しめる山麓地域づくり

二上山から葛城山麓にかけての美しい風景や、歴史・文化の魅力を発信し、市内の周遊と山麓地域のにぎわいづくりにつなげます。また、(仮称)西の山の辺の道を活用した取組を進め、マップの作成やイベントの開催などを通じて、山麓地域の魅力を活用した誘客の仕組みづくりを進めます。

■数値目標

指標名	中間目標値	目標値
ゆず植栽面積	ha	ha
耕作放棄地解消面積	ha	ha
(仮称)西の山の辺の道に関するイベントの参加者数	人	人
イベント参加者の満足度	%	%

資料編

Data

1. 計画の策定に関する資料

- ・ 策定の経過
- ・ 審議会 設置要綱
- ・ 審議会 委員名簿

2. 策定に向けた調査等の資料

- ・ 基礎調査やアンケート結果等

最終、デザインが入ります。

葛城市人口ビジョン



2026/8/12 時点

素案

目次

1. 「葛城市人口ビジョン」における目標人口	1
2. 社人研推計（2023）による将来人口	2
3. 2025 年国勢調査における人口	4
4. 今後の趨勢人口の推計	5
5. 趨勢人口をベースにした 将来推計人口シミュレーション	8
（1）シナリオ1（出生改善）	8
（2）シナリオ2（出生＋移動改善）	10
（3）総括	13

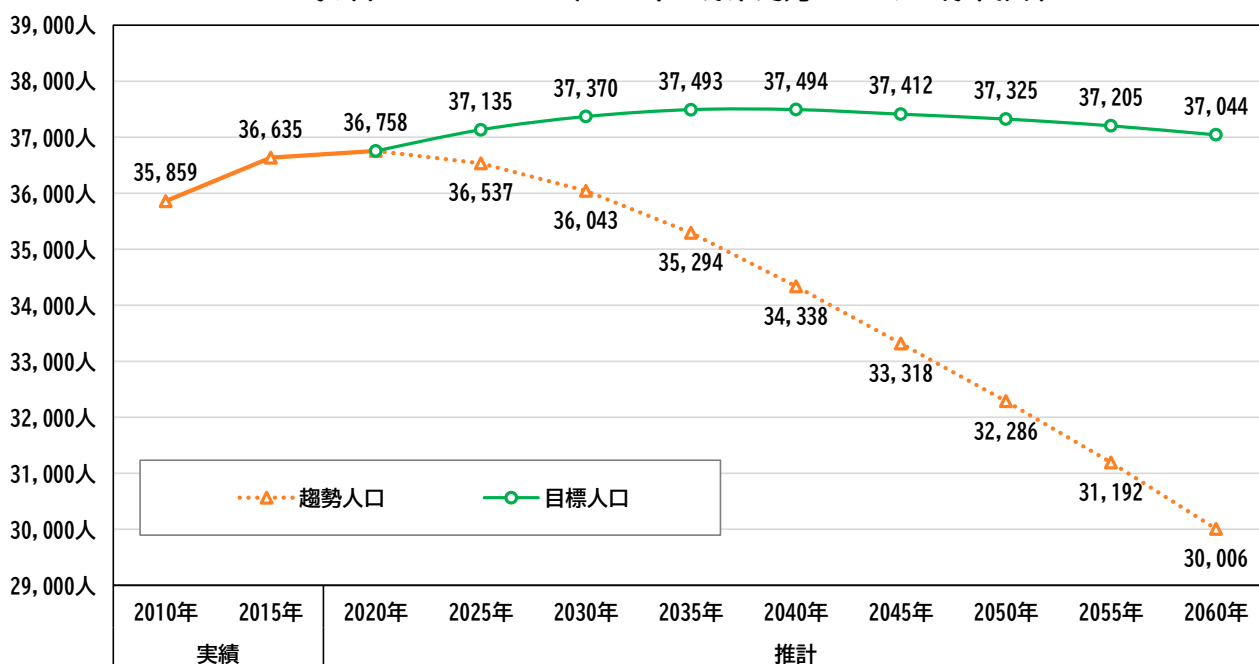
令和9年3月策定予定**葛城市**

Ⅰ. 「葛城市人口ビジョン」における目標人口

葛城市では、令和2（2020）年3月に「葛城市人口ビジョン」を策定しました。

このビジョンでは、2060年までの長期的視点から、趨勢人口（現状の人口動態が続いた場合の将来人口）と目標人口（達成すべき将来人口）を示しており、2040年に37,494人、2060年に37,044人という目標人口を掲げています。

「葛城市人口ビジョン（2020年3月策定）」における将来推計人口

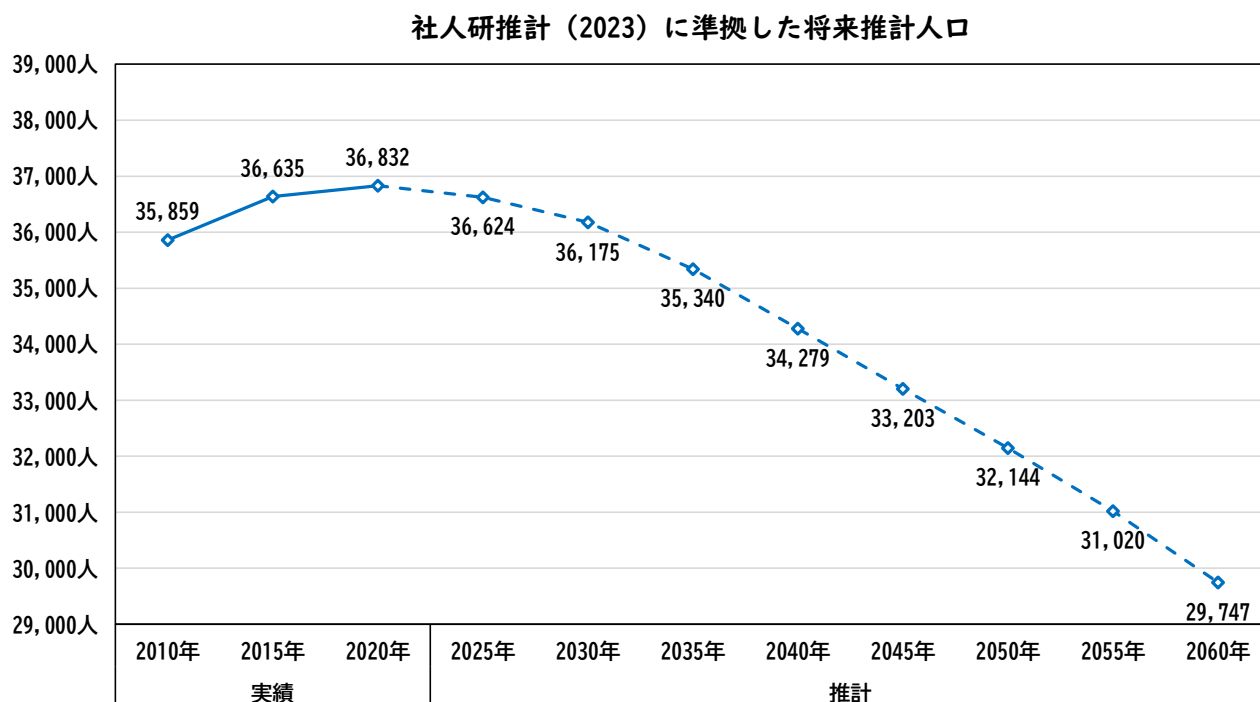


趨勢人口の考え方	趨勢人口とは、今後、特段の人口政策効果等を見込まず、現状の人口動態が続いた場合に将来的に想定される人口のことです。 国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計をベースに、策定時点までの人口動向を踏まえた検討・推計を行った将来人口を趨勢人口として設定しました。
目標人口の考え方	趨勢人口をベースに、出生（合計特殊出生率）の改善と移動（純移動率）の改善を想定し、検討・推計を行った将来人口を目標人口として設定しました。

※2020年に策定した「葛城市人口ビジョン」は、2020年国勢調査結果判明前に検討・策定を行ったため、上記グラフにおける2020年値は推計値であり、国勢調査の人口とは異なります。

2. 社人研推計（2023）による将来人口

「葛城市人口ビジョン（2020年3月策定）」の策定後に、2020年国勢調査結果が明らかになりました。その結果を踏まえた社人研推計（2023）に準拠した推計によると、本市の将来人口は、2040年には34,279人、2060年には29,747人となることが見込まれています。



社人研準拠 の考え方	社人研推計（2023）準拠は、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」を踏まえ、そのパラメータ（推計に用いる設定値）に準拠しつつ、推計年を2060年まで延伸したものです。
---------------	---

※社人研推計に準拠し、推計を行う上で、性別年齢別推計人口の整数化処理を行いました。社人研推計では、そういった処理を行っていないため、本稿で示す推計結果と合計や内訳が一致しない場合があります。

社人研推計（2023）に準拠した将来推計人口【年齢別】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	36,832	36,624	36,175	35,340	34,279	33,203	32,144	31,020	29,747
0～4歳	1,620	1,472	1,466	1,449	1,389	1,358	1,288	1,208	1,130
5～9歳	1,963	1,818	1,605	1,593	1,574	1,507	1,463	1,387	1,301
10～14歳	2,029	2,014	1,845	1,627	1,613	1,594	1,525	1,480	1,404
15～19歳	1,885	2,083	1,999	1,826	1,608	1,591	1,570	1,502	1,458
20～24歳	1,567	1,529	1,784	1,706	1,557	1,366	1,347	1,329	1,272
25～29歳	1,518	1,432	1,516	1,663	1,585	1,442	1,258	1,240	1,224
30～34歳	1,916	1,793	1,543	1,621	1,739	1,653	1,497	1,306	1,287
35～39歳	2,214	2,061	1,903	1,638	1,713	1,819	1,728	1,565	1,365
40～44歳	2,602	2,320	2,107	1,947	1,677	1,750	1,851	1,758	1,592
45～49歳	2,830	2,585	2,267	2,060	1,906	1,645	1,714	1,813	1,723
50～54歳	2,312	2,815	2,555	2,241	2,038	1,888	1,639	1,707	1,806
55～59歳	1,999	2,264	2,776	2,510	2,203	2,005	1,861	1,616	1,683
60～64歳	2,008	1,993	2,251	2,750	2,479	2,176	1,983	1,841	1,598
65～69歳	2,323	1,927	1,949	2,207	2,691	2,422	2,127	1,939	1,800
70～74歳	2,906	2,266	1,851	1,880	2,135	2,602	2,342	2,056	1,874
75～79歳	2,237	2,653	2,094	1,718	1,753	1,999	2,433	2,192	1,923
80～84歳	1,412	1,931	2,320	1,837	1,524	1,570	1,800	2,185	1,972
85～89歳	900	1,024	1,504	1,862	1,478	1,252	1,316	1,510	1,826
90～94歳	454	473	616	909	1,186	940	825	868	997
95歳～	137	171	224	296	431	624	577	518	512

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	15.2%	14.5%	13.6%	13.2%	13.3%	13.4%	13.3%	13.1%	12.9%
15～64歳	56.6%	57.0%	57.2%	56.5%	54.0%	52.2%	51.2%	50.5%	50.5%
65歳以上	28.2%	28.5%	29.2%	30.3%	32.7%	34.4%	35.5%	36.3%	36.7%

※国勢調査人口について、年齢不詳人口がある場合は、社人研値を踏まえて按分している

【参考：社人研推計（2023）準拠のパラメータ】

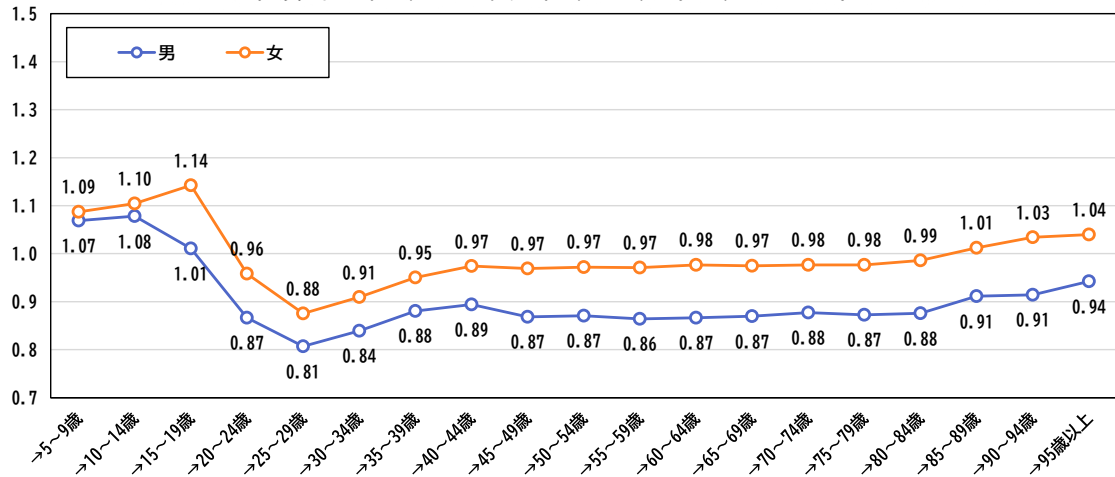
出生パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
子ども女性比	0.31846	0.32664	0.33359	0.33245	0.33456	0.32993	0.32993	0.32993

移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.06985	1.11828	1.03068	0.97463	0.95508	0.94226	0.94226	0.94226
生涯定住率 女	1.12828	1.24087	1.12037	1.08535	1.06285	1.03967	1.03967	1.03967

※社人研推計（2023）のパラメータは2050年までのため、2055年以降は2050年の値を延伸

用語説明
純定住率と生涯定住率について 移動パラメータについては、一般的に純移動率が用いられますが、ここでは純移動率にそれぞれ1を加算した値を純定住率として定義し、使用しています。 例えば、2025年の男の“0～4歳→5～9歳”の純定住率が「1.1」であった場合、これは2020年の“0～4歳”が2025年に“5～9歳”になる間に移動により人口が1.1倍になることを示しています。 また、2025年の男の年齢別の純定住率をすべて乗じた値を生生涯定住率とし、葛城市の“0～4歳”人口が“90歳以上”になるまでに、移動により何倍になるかを示す値として示しています。
累積定住率について 生涯定住率を各年齢の時点で区切って示した値を累積定住率と呼びます。 こちらは、例えば、“0～4歳→5～9歳”から“20～24歳→25～29歳”までの純定住率をそれぞれ乗じることで、“0～4歳”が“25～29歳”になるまでに移動により人口がどの程度に変化するかを示す値として用いています。

累積定住率（社人研推計（2023）準拠）：2050 年モデル



累積定住率
について

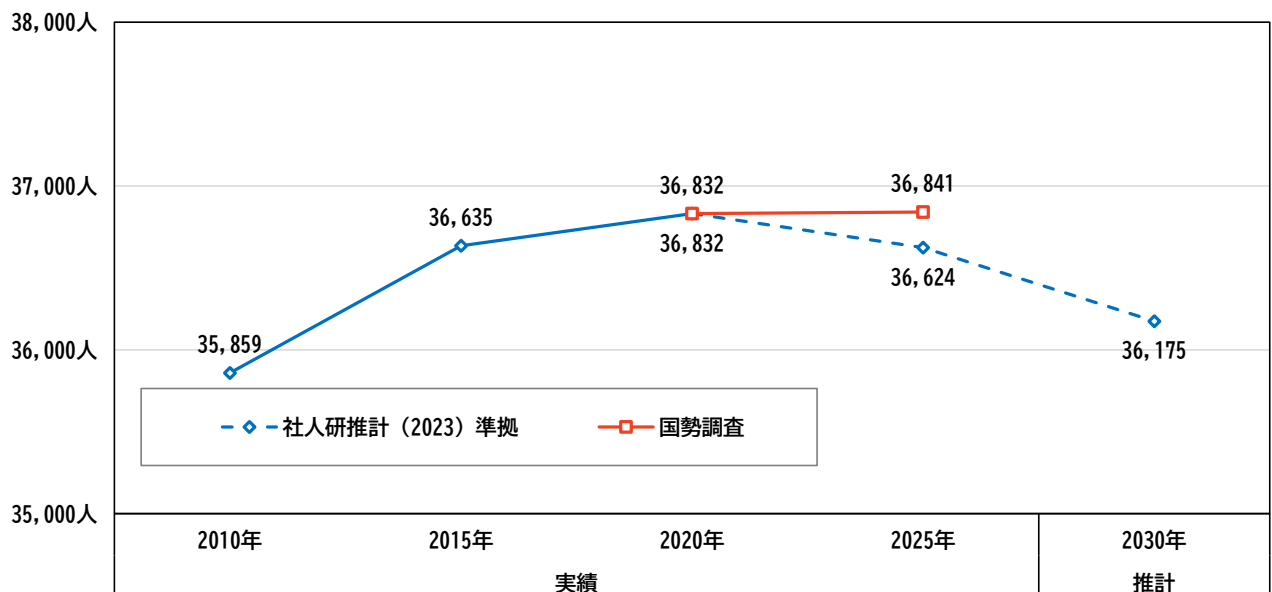
社人研推計（2023）準拠の 2040 年における累積定住率をみると、男女いずれも 25～29 歳になるまでに移動（転出超過）により人口が減少しますが、その後は 40～44 歳までにUターン等により回復していくと設定されています。

3. 2025 年国勢調査における人口

2025 年国勢調査の結果が公表されました。（現時点では人口速報値のみ）

2025 年における葛城市の人口は 36,841 人で、2020 年と比べ 9 人の増加となり、人口増を継続しています。また、社人研推計（2023）準拠を上回る水準で推移する結果となりました。

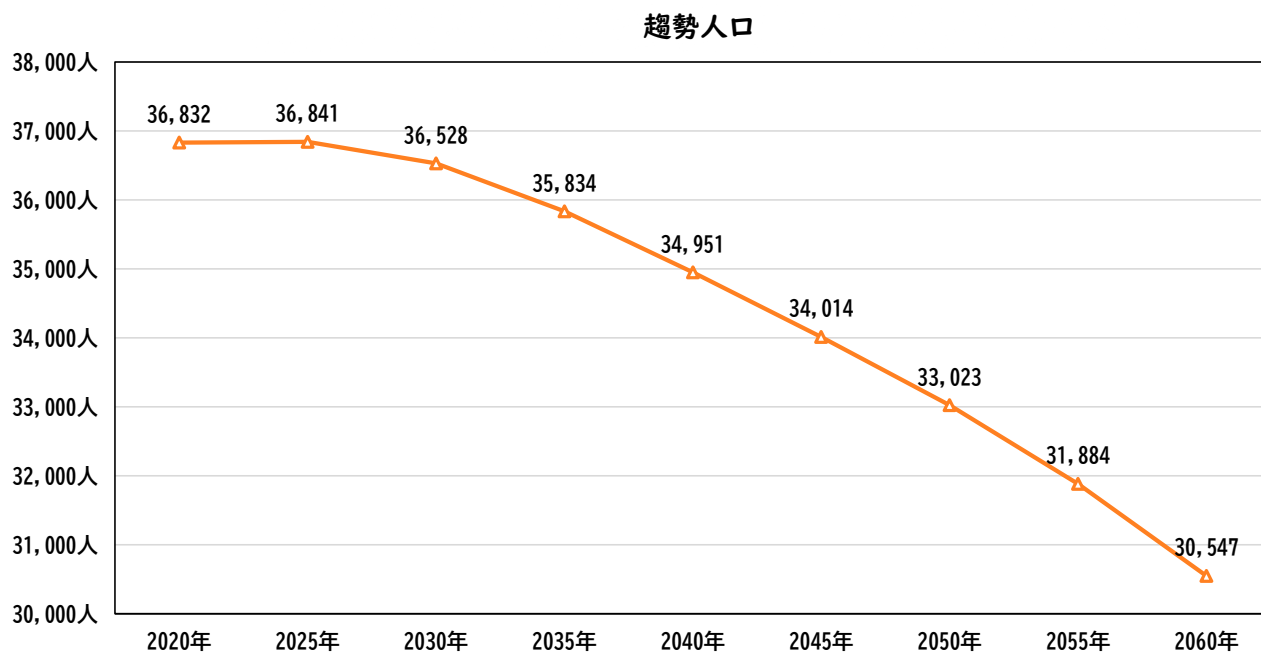
社人研推計（2023）準拠と 2020 年国勢調査



4. 今後の趨勢人口の推計

本市の今後の人口動向を見通し、目指すべき目標人口を検討する前提として、趨勢人口の推計を行います。

推計にあたっては、社人研推計（2023）準拠による将来人口を基本としつつ、その後に公表された 2025 年国勢調査の結果を直近の実績として反映させ、必要な補正を行います。



趨勢人口【年齢別】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	36,832	36,841	36,528	35,834	34,951	34,014	33,023	31,884	30,547
0～4歳	1,620	1,335	1,291	1,313	1,329	1,268	1,136	1,013	956
5～9歳	1,963	1,835	1,469	1,416	1,440	1,456	1,379	1,236	1,102
10～14歳	2,029	2,033	1,879	1,504	1,447	1,471	1,487	1,409	1,262
15～19歳	1,885	2,103	2,037	1,878	1,501	1,441	1,463	1,478	1,401
20～24歳	1,567	1,544	1,818	1,755	1,616	1,287	1,232	1,250	1,263
25～29歳	1,518	1,446	1,546	1,711	1,646	1,510	1,197	1,145	1,163
30～34歳	1,916	1,810	1,573	1,669	1,806	1,733	1,582	1,254	1,200
35～39歳	2,214	2,081	1,940	1,686	1,780	1,907	1,828	1,669	1,323
40～44歳	2,602	2,342	2,148	2,005	1,743	1,835	1,959	1,879	1,714
45～49歳	2,830	2,610	2,310	2,120	1,981	1,726	1,814	1,937	1,858
50～54歳	2,312	2,842	2,604	2,306	2,117	1,981	1,737	1,825	1,949
55～59歳	1,999	2,285	2,830	2,583	2,289	2,103	1,971	1,729	1,816
60～64歳	2,008	2,012	2,293	2,831	2,576	2,283	2,101	1,968	1,727
65～69歳	2,323	1,946	1,986	2,270	2,798	2,541	2,254	2,074	1,942
70～74歳	2,906	2,289	1,888	1,935	2,218	2,732	2,481	2,200	2,024
75～79歳	2,237	2,681	2,137	1,771	1,824	2,097	2,580	2,346	2,078
80～84歳	1,412	1,952	2,370	1,896	1,588	1,652	1,908	2,342	2,133
85～89歳	900	1,038	1,540	1,926	1,544	1,320	1,401	1,619	1,980
90～94歳	454	482	634	945	1,245	997	882	938	1,084
95歳～	137	175	235	314	463	674	631	573	572

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	15.2%	14.1%	12.7%	11.8%	12.1%	12.3%	12.1%	11.5%	10.9%
15～64歳	56.6%	57.2%	57.8%	57.3%	54.5%	52.3%	51.1%	50.6%	50.5%
65歳以上	28.2%	28.7%	29.5%	30.9%	33.4%	35.3%	36.8%	37.9%	38.7%

※国勢調査人口について、年齢不詳人口がある場合は、社人研値を踏まえて按分している

【参考：趨勢人口のパラメータ】

出生パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
合計特殊出生率	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52

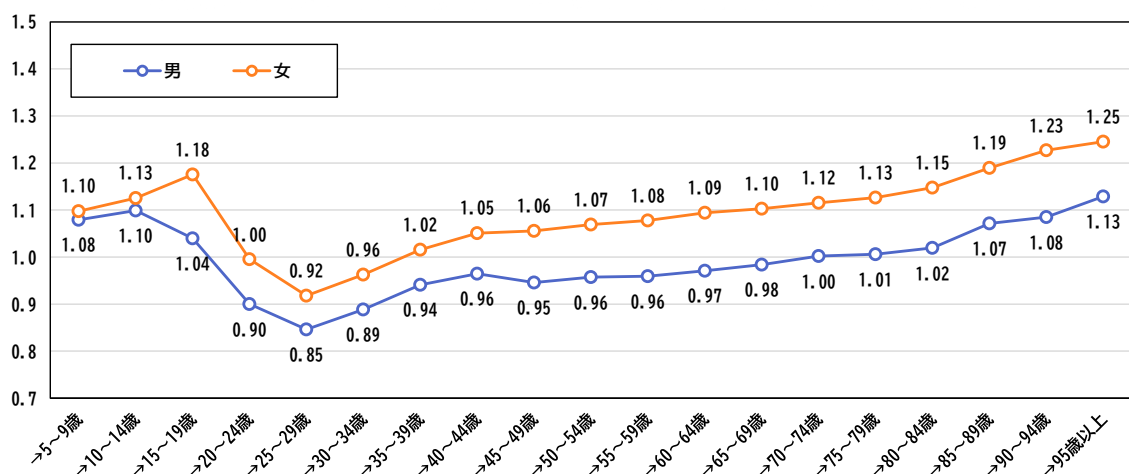
移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.28146	1.33948	1.23455	1.16741	1.14399	1.12864	1.12864	1.12864
生涯定住率 女	1.34740	1.48631	1.34198	1.30003	1.27309	1.24532	1.24532	1.24532

※社人研推計（2023）のパラメータは2050年までのため、2055年以降は2050年の値を延伸

移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.28146	1.33948	1.23455	1.16741	1.14399	1.12864	1.12864	1.12864
0～4歳→5～9歳	1.13585	1.09169	1.08872	1.08774	1.08639	1.07917	1.07917	1.07917
5～9歳→10～14歳	1.02243	1.01907	1.01976	1.01894	1.01858	1.01817	1.01817	1.01817
10～14歳→15～19歳	0.97447	0.94989	0.94791	0.94803	0.94694	0.94629	0.94629	0.94629
15～19歳→20～24歳	0.84980	0.87411	0.87193	0.86803	0.86815	0.86560	0.86560	0.86560
20～24歳→25～29歳	0.87259	1.00155	0.94981	0.94756	0.93741	0.94031	0.94031	0.94031
25～29歳→30～34歳	1.20851	1.10667	1.09608	1.06241	1.06000	1.04987	1.04987	1.04987
30～34歳→35～39歳	1.11273	1.07688	1.08086	1.07422	1.06024	1.05928	1.05928	1.05928
35～39歳→40～44歳	1.07226	1.02922	1.03153	1.03332	1.02999	1.02481	1.02481	1.02481
40～44歳→45～49歳	1.01105	0.97944	0.98005	0.98089	0.98214	0.98052	0.98052	0.98052
45～49歳→50～54歳	1.00743	1.00515	1.00347	1.00398	1.00468	1.01214	1.01214	1.01214
50～54歳→55～59歳	0.98160	1.00507	1.00188	1.00072	1.00139	1.00233	1.00233	1.00233
55～59歳→60～64歳	1.02758	1.02050	1.01482	1.01184	1.01105	1.01189	1.01189	1.01189
60～64歳→65～69歳	1.00808	1.01726	1.01833	1.01605	1.01386	1.01343	1.01343	1.01343
65～69歳→70～74歳	1.02309	1.01831	1.02045	1.02134	1.02007	1.01839	1.01839	1.01839
70～74歳→75～79歳	0.99562	1.00300	1.00341	1.00476	1.00531	1.00403	1.00403	1.00403
75～79歳→80～84歳	1.02473	1.01089	1.00701	1.00955	1.01220	1.01343	1.01343	1.01343
80～84歳→85～89歳	0.99511	1.03057	1.04401	1.03368	1.04190	1.05075	1.05075	1.05075
85～89歳→90～94歳	0.97894	1.01893	1.00344	1.01779	1.00426	1.01275	1.01275	1.01275
90～94歳→95歳以上	1.00564	1.05989	1.05382	1.03723	1.05348	1.04029	1.04029	1.04029

生涯定住率 女	1.34740	1.48631	1.34198	1.30003	1.27309	1.24532	1.24532	1.24532
0～4歳→5～9歳	1.13109	1.11095	1.10782	1.10673	1.10529	1.09745	1.09745	1.09745
5～9歳→10～14歳	1.05013	1.03072	1.02751	1.02656	1.02610	1.02560	1.02560	1.02560
10～14歳→15～19歳	1.10265	1.05676	1.05735	1.05047	1.04673	1.04447	1.04447	1.04447
15～19歳→20～24歳	0.79369	0.85801	0.85434	0.85594	0.84969	0.84666	0.84666	0.84666
20～24歳→25～29歳	0.97853	1.00322	0.93598	0.93112	0.93443	0.92200	0.92200	0.92200
25～29歳→30～34歳	1.18140	1.07362	1.06682	1.05247	1.04936	1.04916	1.04916	1.04916
30～34歳→35～39歳	1.06606	1.07088	1.06744	1.06323	1.05547	1.05492	1.05492	1.05492
35～39歳→40～44歳	1.04967	1.04119	1.04081	1.03910	1.03708	1.03463	1.03463	1.03463
40～44歳→45～49歳	1.00543	1.00192	1.00179	1.00353	1.00562	1.00447	1.00447	1.00447
45～49歳→50～54歳	1.01724	1.00645	1.00723	1.00718	1.00891	1.01267	1.01267	1.01267
50～54歳→55～59歳	1.01963	1.01198	1.00575	1.00635	1.00664	1.00847	1.00847	1.00847
55～59歳→60～64歳	1.02316	1.02191	1.01939	1.01407	1.01466	1.01510	1.01510	1.01510
60～64歳→65～69歳	0.98840	1.01249	1.01369	1.01132	1.00709	1.00761	1.00761	1.00761
65～69歳→70～74歳	1.03465	1.01221	1.01379	1.01453	1.01342	1.01149	1.01149	1.01149
70～74歳→75～79歳	0.99637	1.00895	1.00925	1.01073	1.01139	1.00980	1.00980	1.00980
75～79歳→80～84歳	1.00468	1.01557	1.01319	1.01635	1.01990	1.01889	1.01889	1.01889
80～84歳→85～89歳	0.98768	1.03018	1.03125	1.02385	1.02976	1.03678	1.03678	1.03678
85～89歳→90～94歳	0.95693	1.03692	1.02896	1.03700	1.02165	1.03128	1.03128	1.03128
90～94歳→95歳以上	0.97056	1.01898	1.01982	1.01834	1.02450	1.01503	1.01503	1.01503

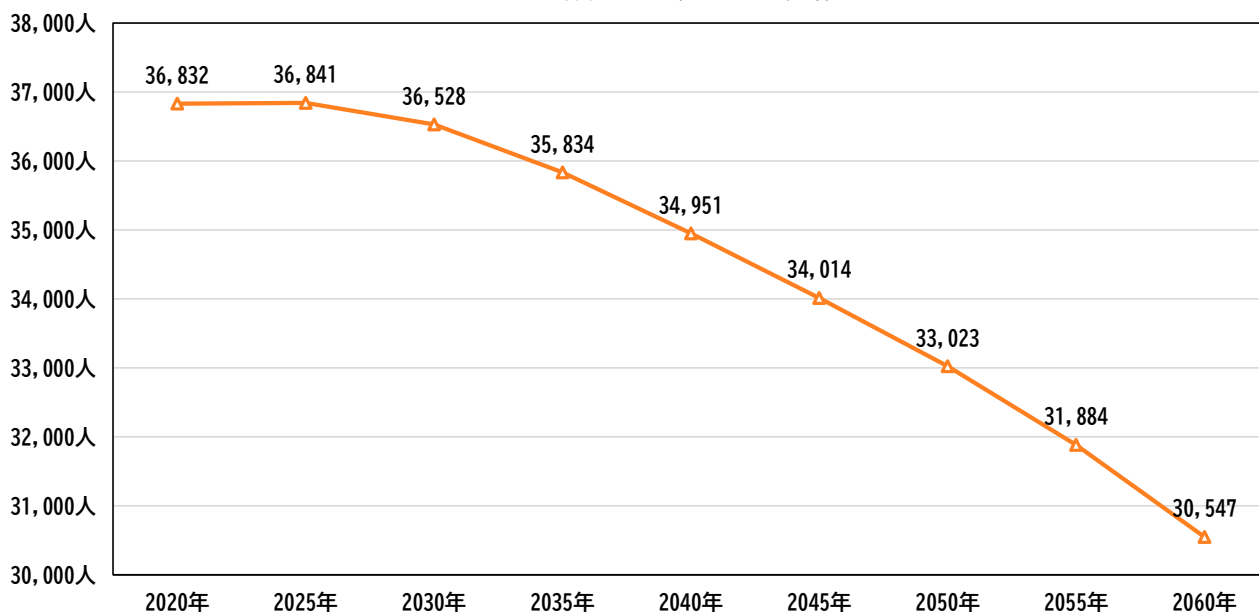
累積定住率（趨勢人口）：2050 年モデル



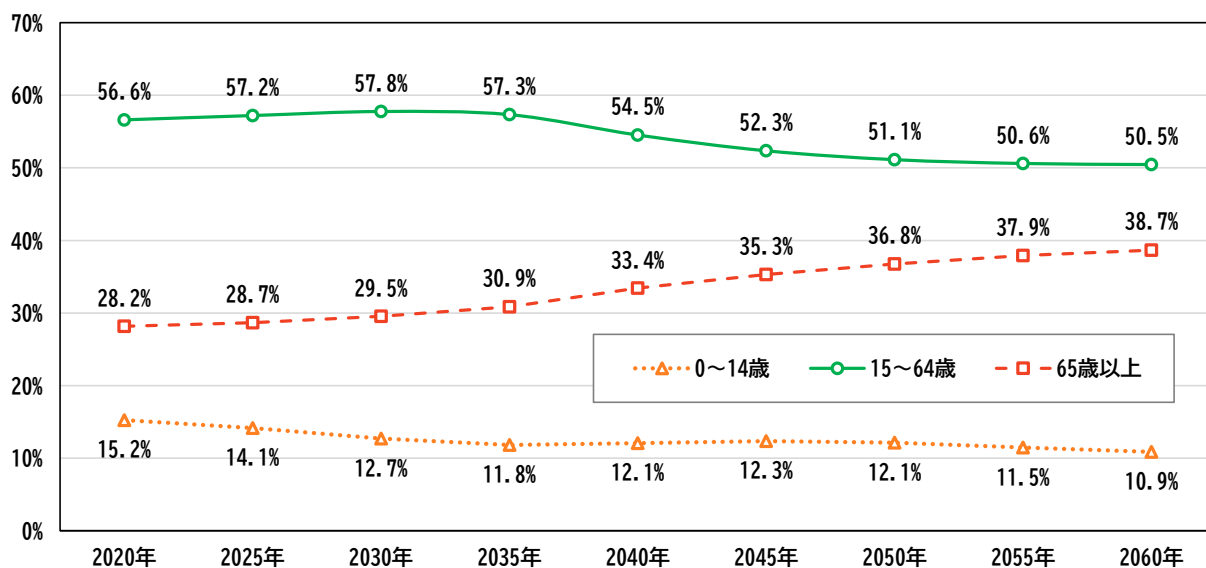
推計した趨勢人口において、2040年には34,951人、2060年には30,547人にまで減少することが想定されます。年齢構造をみても、65歳以上の老年人口の比率が高まる一方、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口の比率はいずれも低下していくことが見込まれます。

この趨勢人口は、今後、新たな人口減少対策等が講じられず、現状の人口動態が続いた場合に想定される本市の将来人口としてみなすことができます。

趨勢人口（グラフ再掲）



趨勢人口【3年齢区分別比率】



5. 趨勢人口をベースにした 将来推計人口シミュレーション

(1) シナリオⅠ（出生改善）

趨勢人口をベースに、今後の人口政策の効果を想定した新たな将来推計人口シミュレーションを行います。

シナリオⅠとして、合計特殊出生率の上昇を見込みつつ、移動に関しては趨勢人口での仮定のまま推移することを想定したシミュレーションを行います。

推計の考え方（シナリオⅠ）	
移動	趨勢人口と同様
出生	2040年に合計特殊出生率 2.07 を目指す
死亡	趨勢人口と同様

出生パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
合計特殊出生率	1.52	1.70	1.89	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

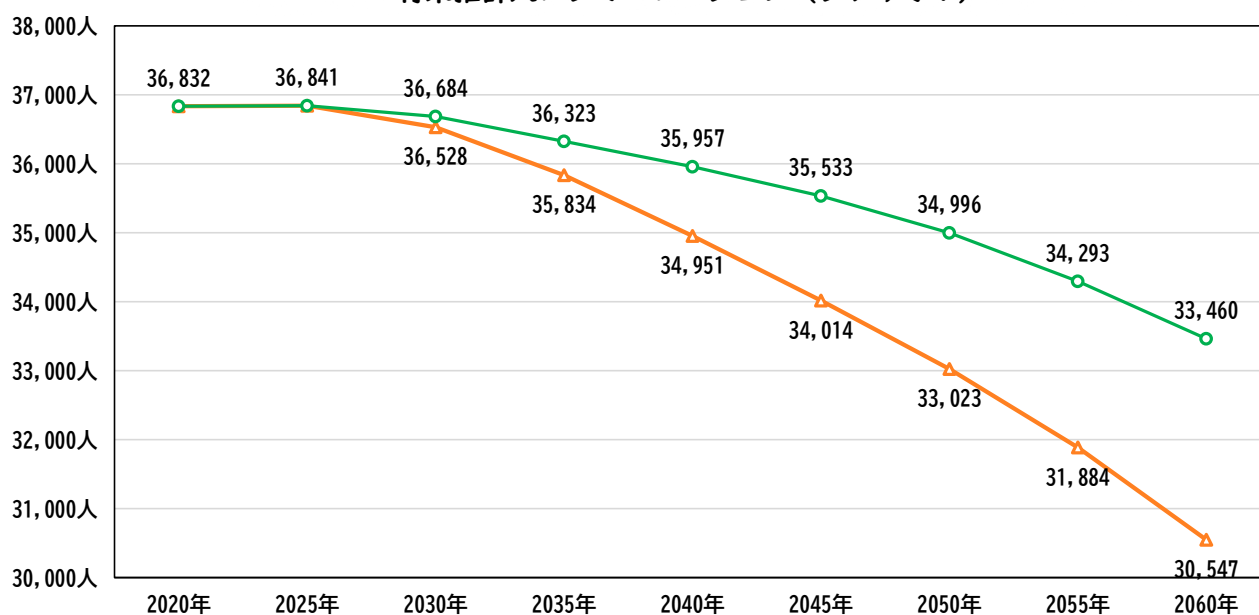
移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.28146	1.33948	1.23455	1.16741	1.14399	1.12864	1.12864	1.12864
生涯定住率 女	1.34740	1.48631	1.34198	1.30003	1.27309	1.24532	1.24532	1.24532

※社人研推計（2023）のパラメータは2050年までのため、2055年以降は2050年の値を延伸

仮定に基づき、将来人口を推計すると、2040年には35,957人、2060年には33,460人となることが見込まれます。

このように、合計特殊出生率の改善を見込むことで、人口減少は緩和されるものの、2060年時点でその効果は2,913人の増加にとどまります。

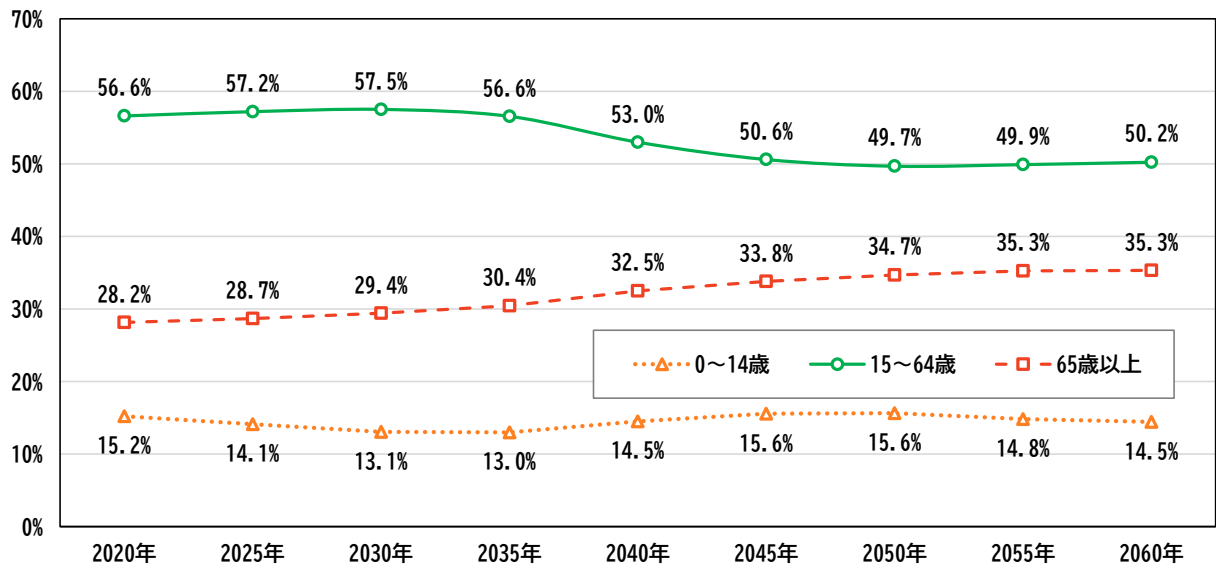
将来推計人口シミュレーション（シナリオⅠ）



将来推計人口シミュレーション（シナリオⅠ）【年齢別】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	36,832	36,841	36,684	36,323	35,957	35,533	34,996	34,293	33,460
0～4歳	1,620	1,335	1,447	1,630	1,811	1,727	1,565	1,465	1,506
5～9歳	1,963	1,835	1,469	1,588	1,787	1,984	1,879	1,702	1,593
10～14歳	2,029	2,033	1,879	1,504	1,624	1,827	2,027	1,920	1,739
15～19歳	1,885	2,103	2,037	1,878	1,501	1,617	1,817	2,015	1,909
20～24歳	1,567	1,544	1,818	1,755	1,616	1,287	1,382	1,553	1,722
25～29歳	1,518	1,446	1,546	1,711	1,646	1,510	1,197	1,285	1,444
30～34歳	1,916	1,810	1,573	1,669	1,806	1,733	1,582	1,254	1,347
35～39歳	2,214	2,081	1,940	1,686	1,780	1,907	1,828	1,669	1,323
40～44歳	2,602	2,342	2,148	2,005	1,743	1,835	1,959	1,879	1,714
45～49歳	2,830	2,610	2,310	2,120	1,981	1,726	1,814	1,937	1,858
50～54歳	2,312	2,842	2,604	2,306	2,117	1,981	1,737	1,825	1,949
55～59歳	1,999	2,285	2,830	2,583	2,289	2,103	1,971	1,729	1,816
60～64歳	2,008	2,012	2,293	2,831	2,576	2,283	2,101	1,968	1,727
65～69歳	2,323	1,946	1,986	2,270	2,798	2,541	2,254	2,074	1,942
70～74歳	2,906	2,289	1,888	1,935	2,218	2,732	2,481	2,200	2,024
75～79歳	2,237	2,681	2,137	1,771	1,824	2,097	2,580	2,346	2,078
80～84歳	1,412	1,952	2,370	1,896	1,588	1,652	1,908	2,342	2,133
85～89歳	900	1,038	1,540	1,926	1,544	1,320	1,401	1,619	1,980
90～94歳	454	482	634	945	1,245	997	882	938	1,084
95歳～	137	175	235	314	463	674	631	573	572

将来推計人口シミュレーション（シナリオⅠ）【3年齢区分別比率】



(2) シナリオ 2 (出生+移動改善)

シナリオ 1 同様、趨勢人口をベースに将来推計人口シミュレーションを行います。

シナリオ 2 として、合計特殊出生率の上昇を見込みつつ、移動に関しても純定住率が改善していくことを想定したシミュレーションを行います。

推計の考え方 (シナリオ 2)		
移動	0～4 歳→5～9 歳 25～29 歳→30～34 歳 30～34 歳→35～39 歳 35～39 歳→40～44 歳	純定住率が 2030 年までに 3 %、その後 5 年ごとに + 1 % ずつ改善 (2030 年 3 %、2035 年 4 %…2050 年 7 %)
	20～24 歳→25～29 歳	純定住率が 2030 年までに 2 %、その後 5 年ごとに + 1 % ずつ改善 (2030 年 2 %、2035 年 3 %…2050 年 6 %)
	その他の年代	趨勢人口と同様
出生	2040 年に 1.9 を目指す	
死亡	趨勢人口と同様	

出生パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
合計特殊出生率	1.52	1.65	1.77	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90

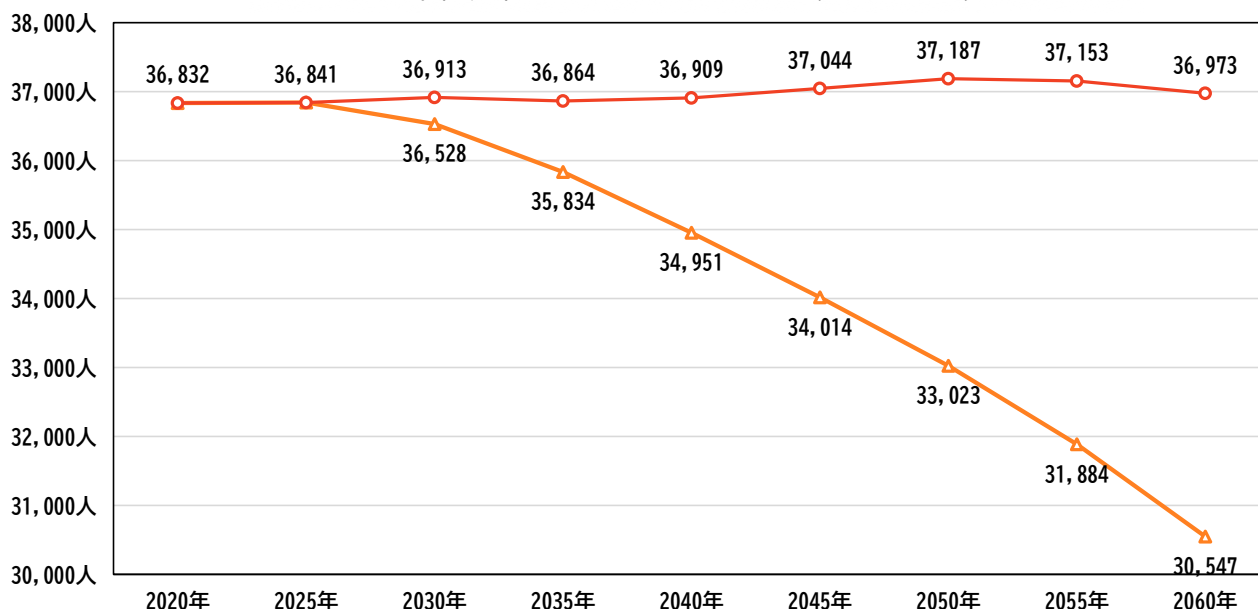
移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.28146	1.53774	1.48757	1.47576	1.51648	1.56819	1.56819	1.56819
生涯定住率 女	1.34740	1.70631	1.61702	1.64340	1.68760	1.73031	1.73031	1.73031

※社人研推計 (2023) のパラメータは2050年までのため、2055年以降は2050年の値を延伸

仮定に基づき、将来人口を推計すると、2040 年には 36,909 人、2060 年には 36,973 人となることが見込まれます。

合計特殊出生率の上昇と若年層の移動の改善を両輪で進めることで相乗効果が見込まれ、2060 年時点でのその効果は 6,426 人になります。

将来推計人口シミュレーション (シナリオ 2)

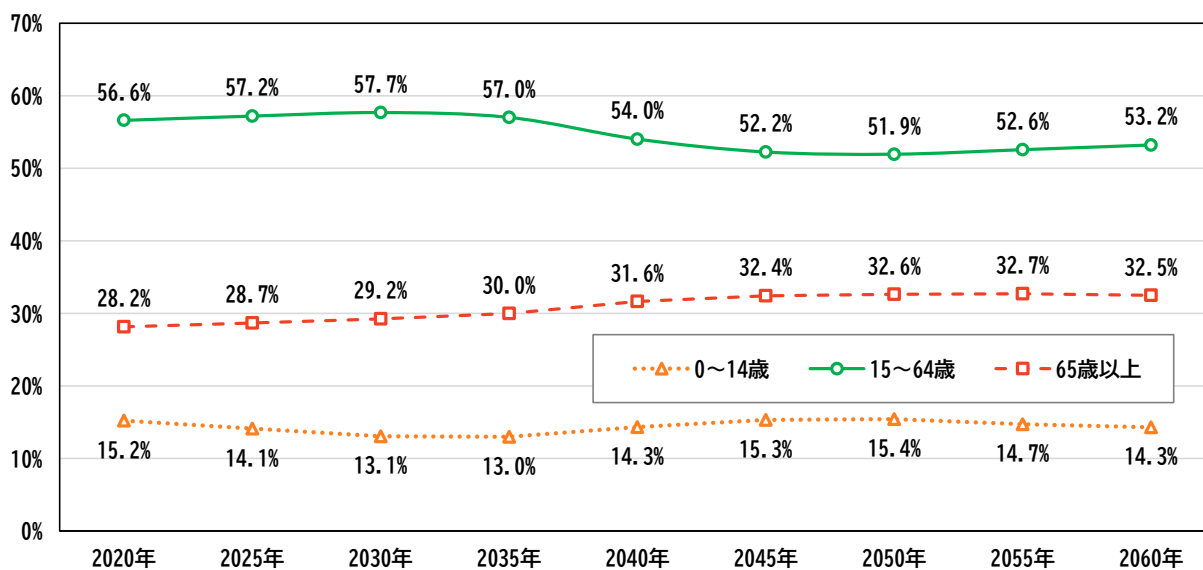


年齢構造の変化に着目すると、シナリオ2では2060年の高齢化率が32.5%と、趨勢人口の38.7%を6.2ポイント下回ります。年少人口比率（0～14歳の割合）は2030年以降、生産年齢人口比率（15～64歳の割合）は2050年以降、いずれも趨勢人口を上回って推移し、2060年にはそれぞれ14.3%（趨勢人口10.9%）、53.2%（趨勢人口50.5%）となります。人口規模の維持だけでなく、長期的にみて年齢構造の改善が図られるシミュレーションとなっています。

将来推計人口シミュレーション（シナリオ2）【年齢別】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	36,832	36,841	36,913	36,864	36,909	37,044	37,187	37,153	36,973
0～4歳	1,620	1,335	1,431	1,602	1,776	1,733	1,614	1,532	1,583
5～9歳	1,963	1,835	1,514	1,634	1,844	2,062	2,017	1,879	1,783
10～14歳	2,029	2,033	1,879	1,549	1,670	1,885	2,107	2,060	1,920
15～19歳	1,885	2,103	2,037	1,878	1,546	1,663	1,874	2,095	2,049
20～24歳	1,567	1,544	1,818	1,755	1,616	1,326	1,421	1,602	1,791
25～29歳	1,518	1,446	1,576	1,763	1,712	1,586	1,307	1,401	1,579
30～34歳	1,916	1,810	1,620	1,769	1,955	1,910	1,778	1,466	1,571
35～39歳	2,214	2,081	1,998	1,806	1,981	2,188	2,157	2,008	1,655
40～44歳	2,602	2,342	2,213	2,147	1,961	2,165	2,406	2,371	2,207
45～49歳	2,830	2,610	2,310	2,184	2,122	1,941	2,140	2,380	2,345
50～54歳	2,312	2,842	2,604	2,306	2,181	2,122	1,953	2,152	2,394
55～59歳	1,999	2,285	2,830	2,583	2,289	2,167	2,112	1,944	2,141
60～64歳	2,008	2,012	2,293	2,831	2,576	2,283	2,164	2,109	1,941
65～69歳	2,323	1,946	1,986	2,270	2,798	2,541	2,254	2,136	2,082
70～74歳	2,906	2,289	1,888	1,935	2,218	2,732	2,481	2,200	2,085
75～79歳	2,237	2,681	2,137	1,771	1,824	2,097	2,580	2,346	2,078
80～84歳	1,412	1,952	2,370	1,896	1,588	1,652	1,908	2,342	2,133
85～89歳	900	1,038	1,540	1,926	1,544	1,320	1,401	1,619	1,980
90～94歳	454	482	634	945	1,245	997	882	938	1,084
95歳～	137	175	235	314	463	674	631	573	572

将来推計人口シミュレーション（シナリオ2）【3年齢区分別比率】



【参考：シナリオ2のパラメータ】

出生パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
合計特殊出生率	1.52	1.65	1.77	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90

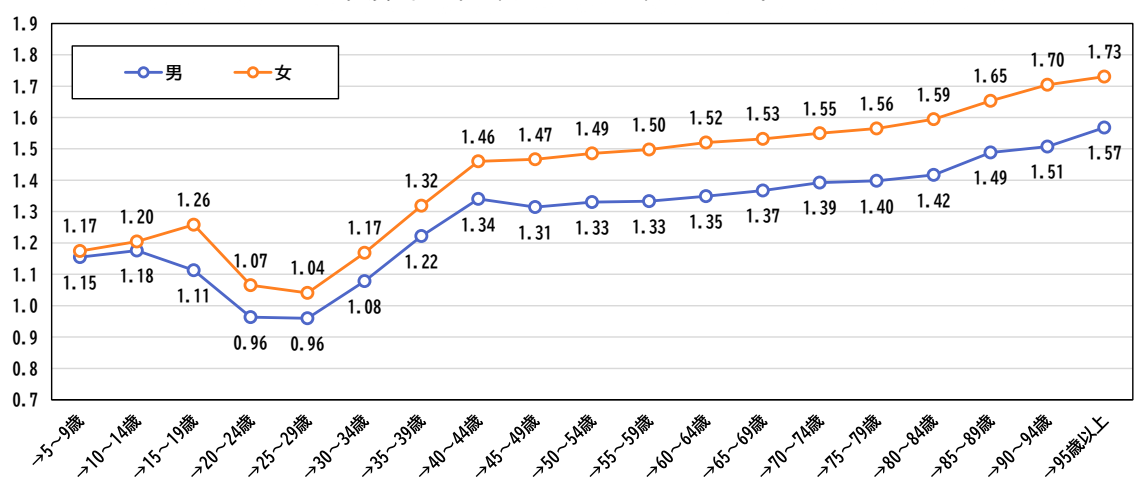
移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.28146	1.53774	1.48757	1.47576	1.51648	1.56819	1.56819	1.56819
生涯定住率 女	1.34740	1.70631	1.61702	1.64340	1.68760	1.73031	1.73031	1.73031

※社人研推計（2023）のパラメータは2050年までのため、2055年以降は2050年の値を延伸

移動パラメータ	→2025	→2030	→2035	→2040	→2045	→2050	→2055	→2060
生涯定住率 男	1.28146	1.53774	1.48757	1.47576	1.51648	1.56819	1.56819	1.56819
0～4歳→5～9歳	1.13585	1.12444	1.13227	1.14213	1.15157	1.15471	1.15471	1.15471
5～9歳→10～14歳	1.02243	1.01907	1.01976	1.01894	1.01858	1.01817	1.01817	1.01817
10～14歳→15～19歳	0.97447	0.94989	0.94791	0.94803	0.94694	0.94629	0.94629	0.94629
15～19歳→20～24歳	0.84980	0.87411	0.87193	0.86803	0.86815	0.86560	0.86560	0.86560
20～24歳→25～29歳	0.87259	1.02158	0.97830	0.98546	0.98428	0.99673	0.99673	0.99673
25～29歳→30～34歳	1.20851	1.13987	1.13993	1.11554	1.12360	1.12336	1.12336	1.12336
30～34歳→35～39歳	1.11273	1.10919	1.12409	1.12793	1.12386	1.13343	1.13343	1.13343
35～39歳→40～44歳	1.07226	1.06010	1.07279	1.08499	1.09179	1.09655	1.09655	1.09655
40～44歳→45～49歳	1.01105	0.97944	0.98005	0.98089	0.98214	0.98052	0.98052	0.98052
45～49歳→50～54歳	1.00743	1.00515	1.00347	1.00398	1.00468	1.01214	1.01214	1.01214
50～54歳→55～59歳	0.98160	1.00507	1.00188	1.00072	1.00139	1.00233	1.00233	1.00233
55～59歳→60～64歳	1.02758	1.02050	1.01482	1.01184	1.01105	1.01189	1.01189	1.01189
60～64歳→65～69歳	1.00808	1.01726	1.01833	1.01605	1.01386	1.01343	1.01343	1.01343
65～69歳→70～74歳	1.02309	1.01831	1.02045	1.02134	1.02007	1.01839	1.01839	1.01839
70～74歳→75～79歳	0.99562	1.00300	1.00341	1.00476	1.00531	1.00403	1.00403	1.00403
75～79歳→80～84歳	1.02473	1.01089	1.00701	1.00955	1.01220	1.01343	1.01343	1.01343
80～84歳→85～89歳	0.99511	1.03057	1.04401	1.03368	1.04190	1.05075	1.05075	1.05075
85～89歳→90～94歳	0.97894	1.01893	1.00344	1.01779	1.00426	1.01275	1.01275	1.01275
90～94歳→95歳以上	1.00564	1.05989	1.05382	1.03723	1.05348	1.04029	1.04029	1.04029

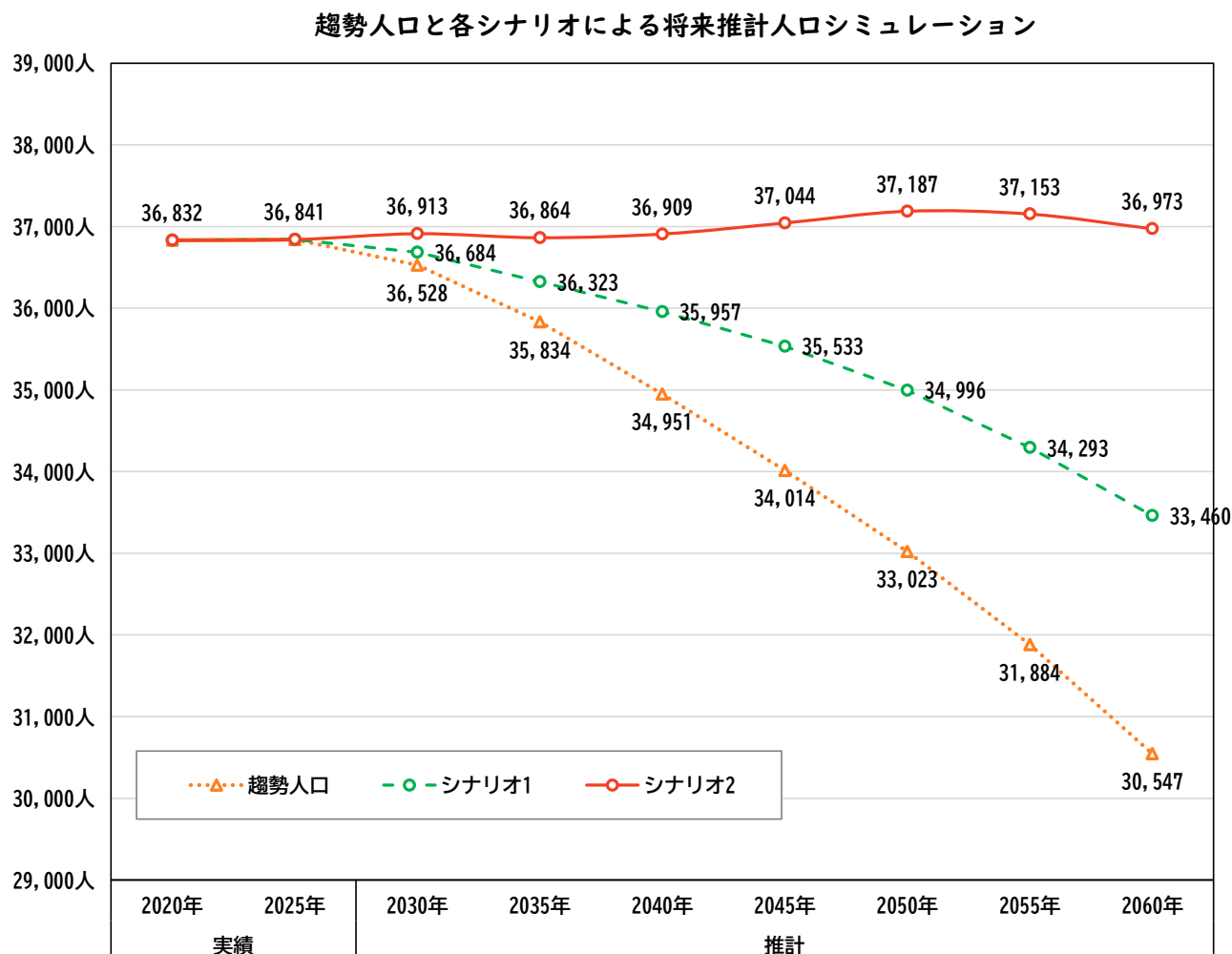
生涯定住率 女	1.34740	1.70631	1.61702	1.64340	1.68760	1.73031	1.73031	1.73031
0～4歳→5～9歳	1.13109	1.14428	1.15214	1.16207	1.17161	1.17427	1.17427	1.17427
5～9歳→10～14歳	1.05013	1.03072	1.02751	1.02656	1.02610	1.02560	1.02560	1.02560
10～14歳→15～19歳	1.10265	1.05676	1.05735	1.05047	1.04673	1.04447	1.04447	1.04447
15～19歳→20～24歳	0.79369	0.85801	0.85434	0.85594	0.84969	0.84666	0.84666	0.84666
20～24歳→25～29歳	0.97853	1.02329	0.96406	0.96837	0.98116	0.97732	0.97732	0.97732
25～29歳→30～34歳	1.18140	1.10583	1.10949	1.10509	1.11232	1.12260	1.12260	1.12260
30～34歳→35～39歳	1.06606	1.10301	1.11014	1.11639	1.11880	1.12877	1.12877	1.12877
35～39歳→40～44歳	1.04967	1.07243	1.08244	1.09106	1.09931	1.10706	1.10706	1.10706
40～44歳→45～49歳	1.00543	1.00192	1.00179	1.00353	1.00562	1.00447	1.00447	1.00447
45～49歳→50～54歳	1.01724	1.00645	1.00723	1.00718	1.00891	1.01267	1.01267	1.01267
50～54歳→55～59歳	1.01963	1.01198	1.00575	1.00635	1.00664	1.00847	1.00847	1.00847
55～59歳→60～64歳	1.02316	1.02191	1.01939	1.01407	1.01466	1.01510	1.01510	1.01510
60～64歳→65～69歳	0.98840	1.01249	1.01369	1.01132	1.00709	1.00761	1.00761	1.00761
65～69歳→70～74歳	1.03465	1.01221	1.01379	1.01453	1.01342	1.01149	1.01149	1.01149
70～74歳→75～79歳	0.99637	1.00895	1.00925	1.01073	1.01139	1.00980	1.00980	1.00980
75～79歳→80～84歳	1.00468	1.01557	1.01319	1.01635	1.01990	1.01889	1.01889	1.01889
80～84歳→85～89歳	0.98768	1.03018	1.03125	1.02385	1.02976	1.03678	1.03678	1.03678
85～89歳→90～94歳	0.95693	1.03692	1.02896	1.03700	1.02165	1.03128	1.03128	1.03128
90～94歳→95歳以上	0.97056	1.01898	1.01982	1.01834	1.02450	1.01503	1.01503	1.01503

累積定住率（シナリオ2）：2050年モデル



(3) 総括

趨勢人口とシナリオ1～2による将来推計人口の推計結果を比べると次のとおりです。



全国的にみると、多くの自治体が若年層の転出超過に苦慮しており、特に女性においてその傾向が顕著となっています。こうした中、本市においては、進学や就職の時期にあたる20歳代で転出が超過するものの、その後の30歳代から40歳代にかけては転入が転出を上回る傾向にあり、これによって人口が維持される構造にあります。直近の国勢調査においても人口は微増となっており、こうした特性は数少ない強みと言えます。

シナリオ2においてシミュレートしたとおり、子育て支援施策や若者の就労に向けた施策に着手に取り組み、若年層の移動の改善を図っていくことで、合計特殊出生率向上策との相乗効果により、今後も人口規模を維持し続けることは十分に可能であると考えられます。

葛城市総合戦略について

■総合戦略について

(1) 国の方向性・動向について

国の動き	- 令和7年6月「地方創生2.0基本構想」が閣議決定 - 令和7年12月「地方創生に関する総合戦略 ～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～」が閣議決定 - 令和8年7月「地域未来戦略」が閣議決定	市町村計画	「地方創生」を目的として総合戦略を策定 - 国と合わせて、計画期間は5年間 - 国の総合戦略を勘案して策定
------	---	-------	---

－ 地域未来戦略 －

計画期間：2026年度～2030年度

まち・ひと・しごと創生に関する目標・施策の基本的方向と、政府が取り組む施策を総合的・計画的に実施するために必要な事項を定める計画で、これまでの地方創生で進めてきた取組も含めた全体戦略として、令和8年7月に閣議決定された。

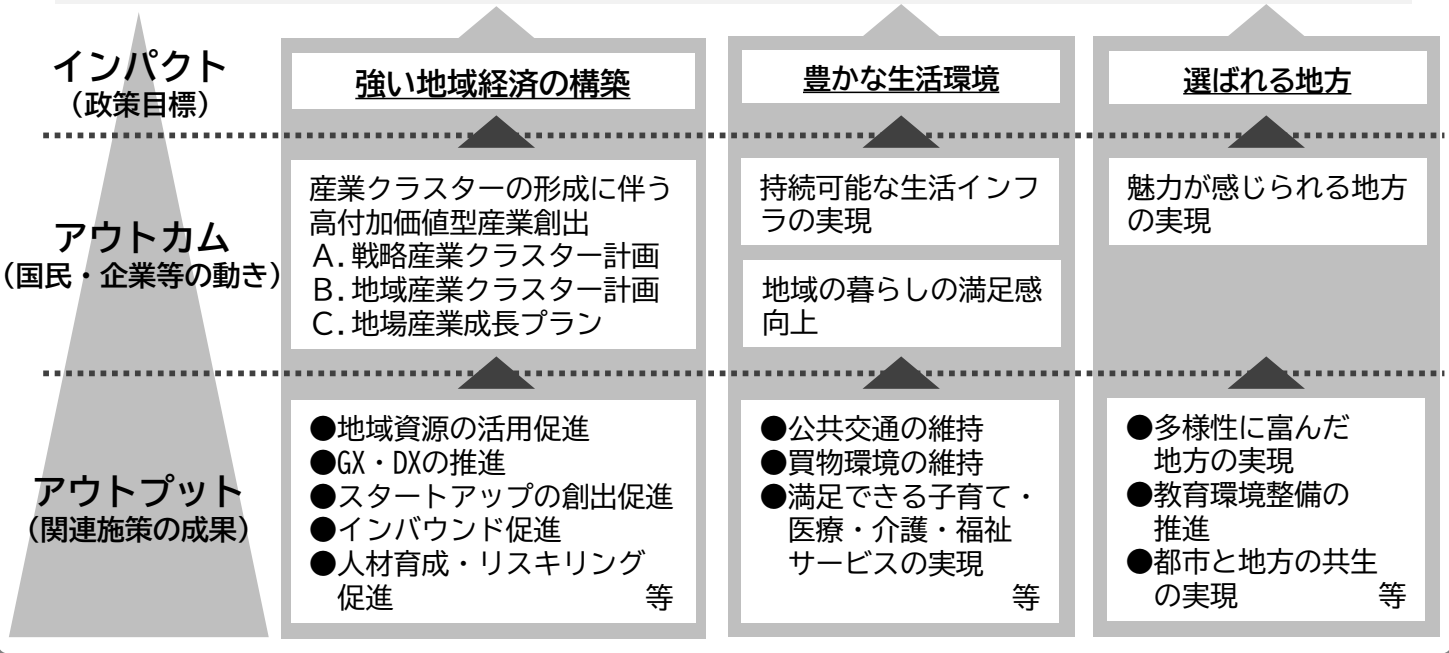
地域未来戦略の目標及び基本的方向

47都道府県のどこに住んでいても、安全に暮らし、必要な医療・福祉や質の高い教育を受けられ、働く場所がある社会をつくることを目指す。そのために、地方に大規模な投資を呼び込んで産業クラスターを形成し、あわせて地域資源を活かして地場産業を伸ばす。
それにより、雇用と所得が増え、それが次の投資につながる循環をつくる。豊かな生活環境と、若者や女性に選ばれる地方が、これを下支えする。

総合戦略の実効性を高めるためのロジックモデル（因果関係）

施策→成果→目標の因果関係を整理し、進捗を管理

47都道府県のどこに住んでいても、安全に生活することができ、必要な医療・福祉や質の高い教育を受けることができ、働く場所がある社会の実現



【参考】地域未来戦略 3つのタイプの計画

A. 戦略産業クラスター計画

世界をリードする産業が地域に定着することで、地域経済の活性化にとどまらず、我が国経済全体の成長に貢献することを目指す。

主な施策例

産業クラスターを構成する企業の設備投資促進/成長資金への対応/
関連するインフラ及び拠点整備/規制・制度改革/産業人材育成

策定プロセス

都道府県が候補プロジェクト
案件を国に提案
国が提案を受け付け計画を策定

B. 地域産業クラスター計画

重点的に育成すべき産業分野を特定し投資を促進する。各種取組を都道府県等が行うことで、地域全体としての産業競争力の底上げを行う。

主な施策例

産業クラスターを構成する個別企業の支援/成長資金への対応/
産業クラスター全体での競争優位性を強化する環境整備支援/
規制・制度改革/産業人材育成

策定プロセス

都道府県等が力を入れる産業
領域を特定し、計画を策定
政令指定都市独自作成・
複数都道府県での共同作成も可

C. 地場産業成長プラン

地域資源を活用し、付加価値の創出や域外・海外需要の獲得を図ること
で、面的に地域経済を支える数多くの地場産業の更なる成長を目指す。

主な施策例

事業の状況に応じた事業主体へのきめ細かな支援/成長資金への対応/
環境整備支援/規制・制度改革/産業人材育成

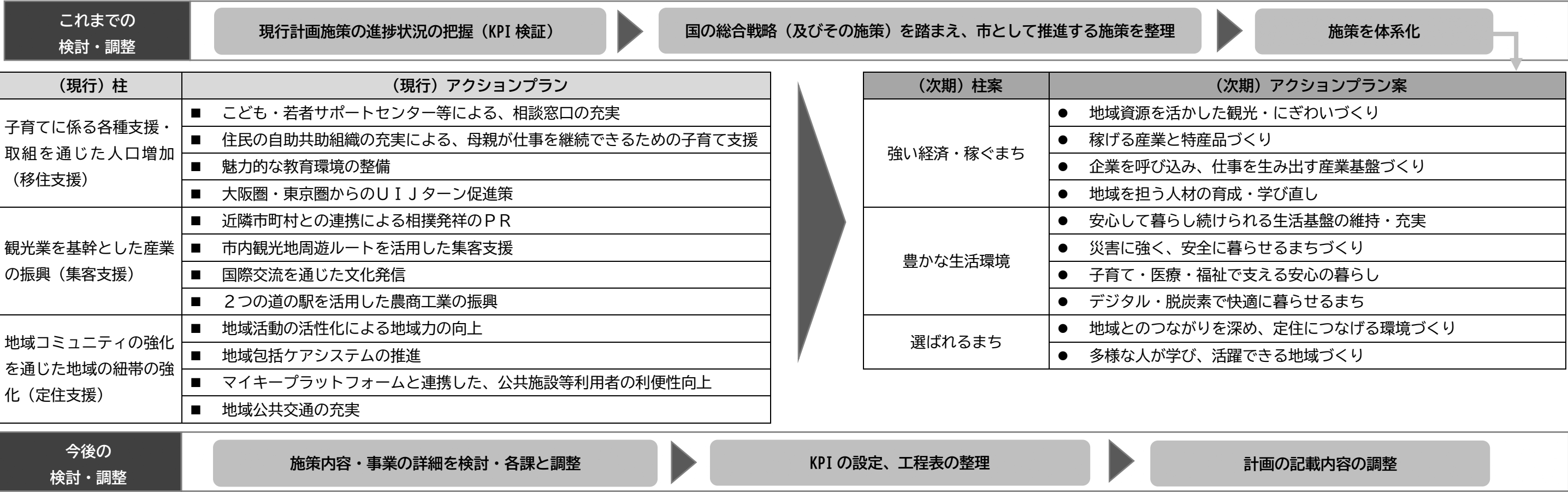
策定プロセス

市町村又は都道府県が、地域の
産業について、付加価値向上や
販路拡大を目指すプランを策定

※地方公共団体（都道府県・市町村）が主体となって策定・実施する「地域産業クラスター計画」「地場産業成長プラン」（総称して地域産業成長プラン）については、地方版総合戦略とは別の特定の様式をもって個別に作成・提出することを基本とする

	強い地域経済の構築	豊かな生活環境	選ばれる地方
国の主な施策	- 農林水産物・観光など地域資源の高付加価値化 - 地場産品の販路開拓・輸出支援 - インバウンド誘客の促進 - 中堅・中小企業の設備投資支援 - 産業人材の育成・リスクリテラシー促進 - 産業クラスターの形成	「交通空白」の解消、地域公共交通の再構築 - 地域暮らしサービス拠点の形成 - 地域医療・介護・福祉サービスの維持・確保 - インフラの広域連携・老朽化対策 - 避難生活環境の改善など防災力の強化 - 小さな拠点・地域運営組織（RMO）の推進	- 地域の働き方・職場改革の推進 - 女性の起業支援、男女共同参画の促進 - ふるさと住民登録制度の創設 - 二地域居住・移住の推進 - 高校生の「地域留学」、学校と地域の連携 - 地域おこし協力隊など担い手の確保

(2) 市の方向性について



国が示す手引きにおける総合戦略の構成骨格（市の事業案を一例として記載）

目標	≪目標≫強い経済・稼ぐまち 【指標】市内総生産額を約〇〇万円とすることを目指す（令和 13 年度）														
基本的方向	≪基本的方向≫稼げる産業と特産品づくり 耕作放棄地などの地域資源をいかし、特産農産物の育成とブランド化を進めることで、市内で新たな付加価値を生み出す産業を育て、市外・海外の需要を取り込むことを推進する。 【重要業績評価指標（K P I）】 ・ゆず植栽面積（ha）・耕作放棄地解消面積（ha）														
具体的な施策工程表	≪具体的な施策≫ ① 耕作放棄地を活用した特産農産物の育成・ブランド化と産業創出 耕作放棄地を活用してゆず産地の形成を推進するとともに、地域ブランド化及び特産品開発を進めることで、農業振興と地域の魅力向上を図る。 具体的な事業：ゆず産地形成による耕作放棄地対策事業 ≪工程表≫														
	<table><tr><th>令和 9 年度</th><th>令和 10 年度</th><th>令和 11 年度</th><th>令和 12 年度</th><th>令和 13 年度</th></tr><tr><td>栽培・集荷・搾汁・販売等の体制及び設備の整備／ゆずの試験栽培</td><td colspan="3">耕作放棄地を活用したゆず栽培の開始とゆず産地の拡大</td><td>兼業農家等への波及・拡大を図る講習会等の開催</td></tr></table>					令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度	栽培・集荷・搾汁・販売等の体制及び設備の整備／ゆずの試験栽培	耕作放棄地を活用したゆず栽培の開始とゆず産地の拡大			兼業農家等への波及・拡大を図る講習会等の開催
	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度										
栽培・集荷・搾汁・販売等の体制及び設備の整備／ゆずの試験栽培	耕作放棄地を活用したゆず栽培の開始とゆず産地の拡大			兼業農家等への波及・拡大を図る講習会等の開催											
【アウトプットK P I】 ・〇〇															